

(一)治罪法(第三百二十九條) 若シ重罪被告人ニシテ法律ニ宥恕ノ理由トシテ認メタル一箇ノ所爲ヲ其宥恕ノ理由トシテ申立テタル時ハ、裁判長ヨリ左ノ如キ問ヲ爲ス可シ若シ之ニ違フ時ハ無効ナリトス

右ノ所爲ハ確實ナリヤ)

第四 無効ノ制裁ヲ以テ十六歳以下ノ幼者ニ關スル是非辨別ノ問題はレナリ(一)(第三百四十條)

(二)治罪法(第三百四十條) 若シ重罪被告人ニシテ十六歳以下ナル時ハ裁判長ヨリ左ノ問ヲ爲ス可シ若シ之ニ違フ時ハ無効ナリトス

重罪被告人ハ是非ノ辨別アリテ行ヒタルヤ)

第五 辨論ヨリシテ重罪院送付ノ判決ニ包含シタル事實カ其性質ヲ變シテ他ノ法律ヲ適用スヘキモノ、如ク見ユルノ結果ヲ生スル時、及ヒ陪審ニ於テ第一ノ稱呼ヲ採用セサル場合ニ付キ此事實ニ附スルニ他ノ稱呼ヲ以テシテ之ヲ其會議ニ顯出セシムヘキ時ニ於テ第二ノ補足ノ問題はレナリ

若シ公訴カ主タル各種ノ點ヲ包含スルルハ其各種ノ點ハ同一ノ諸問題ニ繼續シテ顯ハルヘシ

(第一千二百十八號) 右諸問題ハ千八百三十六年五月十三日ノ法第一條ニ於テ指定セラレタル所ノ各問題ニ付キ秘密ニ且ツ繼續シテ投票紙ニ依リ陪審カ投票ヲ爲シ得ルン方法ヲ以テ各別ニ且ツ分割シテ發セラレサル可カラズ、若シ裁判長ハ一個ノ單獨ニシテ同一ナル問題ノ中ニ特別ノ投票ノ目的物トナラサル可カラサル所ノ問題ノ二個又ハ數個ヲ集合シタル時即チ陪審ヲシテ一個又ハ他ノ一個ニ就キテ其眞實ノ持論ヲ知ラシムルヲ能ハサルニ在ラシムル時ハ茲ニ無効アルヘシ、此ノ如キ場合ニ於テ我實際ノ慣用語ニテハ「發問カ集合的ノ環瑾ヲ有ス」ト曰フ、即チ同時ニ公訴ノ各主點ヲ成ス所ノ特別ナル二個ノ事實、又ハ多數ノ被告人、又ハ加重ノ一情狀若シハ一宥恕ト共ニ主タル事實、又ハ同時ニ多數ノ加重情狀若シハ多數ノ宥恕、又ハ一加重ノ情狀ト一宥恕トヲ集合シタル所ノ問題ノ如キ是レナリ、此場合ニ於テ無効アルヘシ

然レモ問題ノ分割ハ主タル事實ノ元素若クハ加重ノ情狀ノ元素若クハ宥恕ノ元素トナル所ノモノニ就キテ陪審ノ精神中ニ一個ノ混雜ヲ來シ得ルノ方法ヲ以テ之ヲナサ、ルルハ我裁判例ハ集合的ノ問題ト同一ナル無効ノ制裁ヲナサズ、是レ此分割ハ集合的ノ問題ト同一ノ不便ヲ有セス、且ツ或ル特別ノ場合ニ於テハ陪審ノ所爲ヲ便利ニシ得ルヲ以テナリ、大審院カ考定スヘキ所ノ此混雜ヲ來スノ場合ヲ除クノ外問題ノ分割ハ無効ヲ來サルナリ、是

ヲ以テ大審院ノ裁判例ニ於テハ弑親罪ノ場合ニ就キテ被害者ノ尊屬親ノ資格ヲ以テ重罪構成ノ一元素ト看做シ、加重ノ一情狀ト看做サスト雖モ、大審院ハ多數ノ判決(千八百四十二年九月二十二日千八百五十三年三月二十四日千八百六十二年八月七日ノ判決)ニ依リ尊屬親ノ資格ノ上ニ關スル此問題ハ裁判長ニ於テ有効ニ特別ニ之ヲ發スルコトヲ得ヘシト判決シタリ、第一千六百四十四號及ヒ第一千六百七十七號參觀(瘋癲及ヒ正當防衛ニ係ル問題ハ明瞭ニ主タル問題中ニ入ルヘキモノナリト雖モ亦前段ト同一ニ論セサル可カラズ

(第二千三百十九號) 酌量減輕ノ情狀ハ書面ニ依リテ發スヘキ一問題ノ目的物ヲ成サス、裁判長ハ陪審ニ對シテ單ニ被告人ノ各個ノ利益ノ爲メニ多數ヲ以テ此宣告ヲ採用スルコトノ要用ト之ヲ發言スルノ方法ト示シ而シテ此點ニ付キ陪審ニ屬スル所ノ威權ヲ告知セサル可カラズ、若シ之ニ違フ時ハ無効ノ制裁アリトス、(一)抑、酌量減輕ノ情狀ヲ以テ裁判長ノ發問スヘカラサルモノトナシタル所以ハ陪審ノ精神ヨリシテ自ラ之ヲ發言セシメントスルノ希望及ヒ發問ニ則トリテ答フルニ至ルノ恐レ等ノ理由アルニ因レリ、而シテ此理由ハ千八百三十六年五月十三日ノ法第一條ニ依リテ消滅ニ歸シタル所ノモノナリ、然レモ此理由ノ外ニ尙ホ此情狀ヲ以テ裁判長ノ發問スヘカラサルモノト爲シタルノ理由アリテ存ス、何ゾヤ、若シ裁判長カ此問題ヲ發セサルキハ陪審員長ハ會議室ニ於テ自ラ此問題ヲ發セサル可カラ

サルノ義務アルニ至ルヘク、而シテ陪審員長ノ發問ニ係ルキハ陪審ニ於テ若シ酌量減輕ノ情狀ナシトスル時ハ別ニ發言スルコトナシ、之ニ反シテ書面ニ依レル問題アルニ於テハ若シ酌量減輕ノ情狀ナシトスル時ハ又書面ニ依リテ無効ノ一答ヲナサル可カラズ、而シテ此答ハ其被告人ノ負擔ヲシテ重劇ナラシムルニ至ルモノナリ、此理由アルヲ以テ酌量減輕ノ情狀ハ裁判長ノ發問スヘキモノニアラスト爲シタリ、若シ會議室ニ於テ陪審員長カ發スル所ノ問題ヲ以テ無効ナリトスル時ハ毫モ記載スヘキ答ヲ來サルモノトス

(一)治罪法(第三百四十一條、千八百五十三年六月九日ノ法ニ從フ)總テ重罪ノ事項ニ於テハ、假令再犯ノ場合ト雖モ裁判長ヨリ重罪公訴狀及ヒ辨論ニ因レル問ヲ爲シタル後若シ陪審ノ多數ニ於テ其有罪ナリト認メラレタル重罪被告人一名又ハ數名ノ爲メニ減輕ス可キ景況アリト思フ時ハ、左ノ詞ヲ以テ其決斷ヲ爲サル可カラサル旨ヲ陪審ニ告ク可ク、若シ之ニ違フ時ハ無効ナリトス、

多數ニ於テ重罪被告人ノ爲メニ減輕ス可キ景況アリトス、然ル後裁判長ヨリ其問ヲ記シタル書面ヲ陪審ニ宛テ、陪審長ニ交付シ、且ツ重罪公訴狀及ヒ犯罪ヲ證明スル調書ト證人ノ申述書ヲ除クノ外總テ其訴ノ證據物トナシ添フ可シ、裁判長ハ總テ秘密ノ投票ヲ以テ決議ヲ爲サル可カラサル旨ヲ陪審ニ告ク可シ、○裁判

長ハ重罪被告人ヲ聽訟席ヨリ引退カシム可シ

(第二千三百二十號) 陪審ノ會議及ヒ投票ハ繼續シテ頒布セラレタル種々ノ法律ニ依リテ支配セラレタリ、而シテ此法律ハ現時ノ規則ヲ知ル爲メニ尙ホ比照スルノ必要アル所ノモノナリ、即チ千八百三十二年ノ改正ノ法ニ依リテ變更セラレタル所ノ治罪法ノ諸條、新タニ此諸條ノ數箇ノ變更シタル重罪院ニ關スル千八百三十五年二月九日ノ法、秘密ノ投票ニ於ケル陪審ノ投票方法ニ關スル千八百三十六年五月十三日ノ法、千八百四十八年三月六日ノ布令、最終ニ法典ノ或ル箇條及ヒ尙ホ千八百三十六年ノ法ノ或ル箇條ヲ變更シタル所ノ陪審ノ宣告ニ關スル千八百三十五年五月七日ノ法是レナリ

(第二千三百二十一號) 會議ハ陪審員長ニ於テ之ヲ指揮ス、陪審員長トハ抽籤ニ依リテ第一ニ指定セラレタル陪審ニ外ナラス、法典ハ或ル理由ニ因リテ此第一ノ陪審カ此資格ヲ辭スル場合ニ付キ、他ノ陪審ヲシテ之ニ更代セシムルノ容易ナル方法ヲ與フ(第三百四十二條)
(第二千三百二十二號) 投票ハ重罪院ニ關スル千八百三十五年九月ノ法以來ノ秘密ノ投票ヲ以テ之ヲ爲サ、ル可カラス、但シ秘密ハ單ニ投票ニ就キテノミ規定セラレタルカ故ニ、千八百四十八年三月六日ノ布令(一)カ冗長ニ説明スルノ勞ヲ取リタルカ如ク陪審ノ間ニ於ケル發言ノ會議若クハ議論ニ付キテハ秘密ヲ要セサルナリ、千八百三十六年五月十三日ノ法ハ

投票ノ指揮ヲ構成シタリ、此法ハ陪審ヲシテ皆之ヲ知ラシメンカ爲メニ大文字ヲ以テ陪審ノ會議室ニ貼付セサル可カラス(二)

(一)千八百四十八年二月六日ノ布令(第五條) (現時ノ法)陪審ハ投票以前、會議ニ於テハ公然論議ヲ爲スノ權利アリトス

(二)秘密ノ投票ニ於テスル陪審ノ投票ニ關スル千八百三十六年五月十三日ノ法(第一條) 陪審ハ投票紙ニ依リ且ツ各別ニシテ繼續シタル投票ヲ以テ先ツ主タル事件ノ上ニ投票ス可シ、而シテ若シ其要アルニ於テハ、加重ノ情狀ノ各個ニ、法律上ノ宥恕ノ事實ノ各箇ニ、是非辨別ノ問題ニ(最終ニ)陪審員長カ被告人ノ有罪の認メラレタル毎ニ發スルノ責任アル酌量減輕ノ情狀ノ問題ニ投票ス可シ)

(第三條) 前條ノ爲メニ陪審員長ニ依リテ呼ヒ上ケラル、各陪審ハ重罪院ノ印章ヲ捺捺シ且ツ予ノ榮譽ト予ノ良心トニ誓ヒテ予ノ宣誓ハ、ハ、ハ、ハ、ナリトノ語ヲ記シタル開封ノ投票紙ヲ受取ル可シ各陪審ハ右ノ語ニ引續キ何人ト雖モ投票紙ニ記シタル投票件ヲ目撃スルコトヲ得サルノ方法ヲ以テ排置セラレタル机ノ上ニ於テ然又ハ否ノ語ヲ記シ又ハ秘密ニ其擇フ所ノ一陪審ヲシテ之ヲ記セシムヘシ、各陪審ハ其記シ及ヒ封シタル投票紙ヲ陪審員長ニ交附ス可シ陪審員長ハ之ヲ此使用ノ爲メニ充ラレタル管底ニ納ル可シ)

(第三條) 千八百五十二年六月九日ノ法ニ依リテ改正セラレタルモノナリ(陪審員長ハ、投票紙ヲ檢査シ得ル所ノ陪審ノ目前ニ於テ、各投票ヲ開封シ直チニ其決セラレタル問題ヲ書シタル紙ノ端又ハ下ニ結果ヲ證明ス、陪審ノ宣言ハ酌量減輕ノ情狀ニ關シテハ投票ノ結果カ有的ナルキニアラサレハ之ヲ明言セス)

(第四條) 諸投票紙中ニ於テ毫モ何ソノ投票タルヲ明言セサルモノアルキハ之ヲ被告人ノ爲メニ利益アル答ヲ有シタルモノトシテ算スヘシ、又少ナクモ六名ノ陪審カ讀ム可カラサルノ文字ナリト公言シタル所ノ投票紙ニ付キテモ亦同シ)

(第五條) 各投票開封ノ後チ直チニ陪審ノ現在ニ於テ其投票紙ヲ燒棄ス可シ)

(第六條) 本法ハ大文字ヲ以テ陪審ノ會議室ニ貼付ス可シ)

其他又秘密ノ投票ヲ以テスル投票ヲ命スル所ノ法ハ無効ノ製裁ヲ附シテ之ヲ規定セス且ツ此程式ハ其物自ラニ於テ本然固有ノモノニアラサルカ故ニ之ヲ遵守セスト雖モ爲メニ破毀ヲ來サ、ルコハ我裁判例ノ認ムル所ナリ、是ヲ以テ其規則ハ各陪審カ爲スヲ得ル所ノ秘密ノ投票以外ノ他ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲スノ拒絕ト此ノ如キ拒絕カ有シ得ル所ノ結果及ヒ特ニ法律ノ遵守ヲ拒否シタル所ノ陪審ニ對スル罰金トニ依リテノ制裁ヲ附シタリ

(第二千三百二十三號) 陪審ノ決定ヲ成ス爲メニ必要ナル投票ノ數ハ立憲議院ノ千七百九十

一年ノ法以來我輩ハ唯其變更ヲ列記スルノミニテモ茲ニ一個ノ長簿ト爲ルヘキ多數ナル變更ヲ受ケタリ、我輩ハ十投票ノ數ヨリ七投票ノ數即チ種々ノ機會ニ於テ屢行ハレ且ツ現時我規則ナル所ノ單一ナル多數ニ至ルノ間ニ於テ政府ノ變動ニ從ヒ且ツ最モ屢ニ通常法ニ關スル訴訟ヨリハ寧ロ國事ニ關スル訴訟ニ就キテ爲ス所ノ配慮ニ從ヒ總テ之ヲ試ミタリ
我輩ハ或ル方法ヲ以テ英吉利ノ各陪審一致ノ法ヲモ試ミタリ、(共和紀元第五年第十二月二十九日ノ法)此一致ノ規則ハ大不列顛又ハ亞米利加合衆國ノ慣習中ニ存スルカ如キ方法ニ依ルニアラサレハ採用ス可カラサルナリ、即チ其方法トハ放棄スルニ付キテモ處罰スルニ付キテモ各陪審ノ悉ク一致スルニ至ルマテ陪審ヲ會議室ヨリ出サ、ルノ方法是レナリ、若シ此方法ニ依ラサル時ハ陪審ハ一致セサルニ付キ會議室ニ閉鎖セラレテ衰弱スルニ至ルマテ飲食スルコトヲ得スシテ既ニ其極ニ至リ復タ進ム可カラサルノ後チニシテ尙ホ疑アルニ於テハ其事件ヲ他ノ重罪院ニ送付ス、而シテ又繼續シテ異論ノ生スル時ハ遂ニ一致スルコト能ハサルヨリシテ事件ハ決セラレヌシテ已ムヘシ、這ハ是レ我輩時ノ「ク羅斯」(譯者曰ク何處迄モト云フノ文字ナリ)ノ結果ト全ク異ナリタル結果ヲ以テシ且ツ殆ソト他ノ形狀ヲ以テシテ羅馬ノ陪審ノ「ノン、リクエット」(譯者曰ク不明瞭ト云フ文字ナリ)ノ判決ニ類スル所ノモノナリ(第一千七百四十五號參觀)抑、十二名ノ各種ノ精神ノ一致ニ歸スルコトハ微細ノ問題

ニ就キテモ尙ホ望ム可カテサルモノトス、是レ他無シ、人類ノ性質自ラ善ク一致スルモノニ
 アラサレハナリ、而ルテ況ンヤ重罪事件ニ於ケル有罪又ハ無罪ノ問題ノ如キ然ク重大ニシ
 テ然ク錯雜シタル問題ノ上ニ於ケル一致ニ於テナヤ、是ヲ以テ英吉利ノ實行例ハ左ノ二箇
 ノ場合中其一ニ在リテ存ス、即チ或ハ敢テ精神ヲ挫ケテ一致シタルモノニシテ實際ニ於テ
 ハ成立タサル所ノ想像的ノ一致、或ハ到底事件ヲ決スル能ハサルヲ是レナリ 我共和紀元
 第五年第十二月ノ法ハ然又ハ否ノ一方ニ一致スルヲナクシテ二十四時ヲ經過シタル時ハ單
 一ノ多數ニ依リテ處刑ヲ宣告シ得ルヲ要求シタリ、這ハ此單多數ヲ認メシムルノ一方法
 ニシテ始メテ我カ立法中ニ顯ハレタル所ノモノナリ
 此單多數ハ千八百八年ノ治罪法ニ於テハ規則トナリタリ、而シテ今ハ千八百五十三年ノ法
 ニ依リテ之ニ復シタリ(一)

(二)治罪法(第二百四十七條(千八百五十三年六月九日ノ法ニ依ル)重罪被告人ニ對シ並ニ
 罪ヲ減輕ス可キ景況ニ付キテノ陪審ノ決定ハ多數ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトス○陪審ノ
 決斷書ニハ其多數ナルヲ證明ス可シト雖モ其可トスル者ノ員數ヲ明示スルヲ得サル
 モノトス、若シ右ノ諸件ニ違フ時ハ無効タル可シ)

千六百七十年ノ路易十四世ノ刑事上ノ勅令ハ處刑ニ付キ終審裁判ニ於テ二投票ノ多數ヲ

要求シタリ(第二十五章第十二條

本案裁判ト豫審裁判トヲ問ハス、若シ最モ嚴ナル意見
 ナ有スル者カ始審トシテ裁判セラル、訴訟ニ於テハ一投票ノ多數ヲ有セス終審トシテ裁
 判セラル、訴訟ニ於テハ二投票ノ多數ヲ有セサル時ハ最モ寬ナル意見ニ從フ可シ)
 我重罪院ニ於テハ陪審ノ員數十二ナルヲ以テ單多數ハ少數ノ數ヲ超過スルヲ二投票ナ
 リ

(第二千三百二十四號)

此法律ニ依リテ修正セラレタル第二百四十七條ハ、陪審ノ決定ハ被
 告人ニ對シテモ酌量減輕ノ情狀ニ關シテモ多數ニ因リテ成ルト公言スルニ止マリタルヲ以
 テ陪審ニ發スヘキ問題ノ各個ニ付キ此規則ノ運用ヲ觀ルノ必要アリ、乃チ左ニ之ヲ觀ルヘ
 シ、

主タル事實及ヒ加重ノ情狀ニ關スル問題又ハ十六歳以下ノ被告人ニ對シ是非辨別ノ成立ニ
 關スル問題ニ付キテハ毫モ疑フヘキ所ナシ、即チ予ハ投票紙ノ封ヲ開キタルニ然ト記シタ
 ルモノハ投票紙、否ト記シタルモノハ投票紙アリタリト想像セン陪審員長ハ此問題ノ紙端
 ニ否ト書スヘシ

宥恕ノ問題、例ヘハ(被告人ハ身體ニ對シテ重劇ナル暴行ニ因リテ挑撥セラレタルヤ)トノ
 問題ニ付キテ、然ト否トノ投票紙各六箇アリト想像セシ、此場合ニ於テハ宥恕ハ採用セシ

ルヘシ、何トナレハ若シ反對ニ決スルキハ是レ被告人ニ反對シテ決スルモノナレハナリ、乃チ陪審員長ハ問題ノ紙端ニ然ト書ス可シ、這ハ論理法ニ適セス、何トナレハ被告人ニ對シ一タヒ有罪的ノ證明セラレタル上ハ宥恕ノ證據ヲ成スヘキハ被告人ニ在レハナリ、因リテ此場合ハ被告人ノ爲メニスル恩惠ナリトス「酌量減輕ノ場合ニ付キテハ其規則ハ前ニ反シ全ク論理法ニ適セリ」

(第二千三百二十五號) 判決ヲ組成スル爲メニ多數ヲ以テ必要ト爲ス所ノ總テノ判決ニ於テハ陪審員長ハ答書ノ末ニ此避ク可カラサル條件ヲ執行シタルコトヲ明示セサル可カラス、故ニ陪審員長主タル事實ノ問題ノ上ニ、又ハ加重ノ情狀、又ハ十六歳未満ノ幼者ニ於ケル是非辨別ノ成立ノ問題ノ上ニ、然リト決定シタルキハ(多數ニ因リテ然リ)ト記セサル可カラス宥恕ニ關シテハ反對ニ決定カ無的ニ出テタルキ(多數ニ因リテ否)ト記セサル可カラス、又酌量減輕ノ情狀ニ關シテ其成立カ反對ニ宣言セラレタルキハ(多數ニ因リテ被告人某ノ利益ノ爲メニ酌量減輕ノ情狀アリ)ト記セサル可カラス、如何ナル場合ヲ問ハス投票ノ數ハ一致ナルキト雖モ之ヲ明示ス可カラス、是レ蓋シ第一ニハ秘密投票カ關係ニ破却セラレサラシカ爲メニシテ、第二ニハ法律上同等ノ性質ヲ有セサル可カラサル所ノ決定ニ對シ事實上ヨリシテ差別ヲ立テシメサランカ爲メナリ、

(第二千三百二十六號) 陪審員長ハ判定既ニ成リ、陪審員再ヒ公庭ニ入り、被告人未ダ出頭セサルニ當リ、第二百四十八條ニ於テ指定セラレタル公式ニ從ヒ判定ヲ朗讀シ且ツ自ラ其判定ヲ書シ署名シテ裁判長ニ交附ス可シ(一)此判定ハ英吉利語ニテ陪審員「ウェルジクト」ト云フ所ノモノナリ(譯者曰ク「ウェルジクト」トハ陪審員會議ノ結果ト云フ意義ナリ)

(二)治罪法(第二百四十八條) 然ル後陪審員ハ再ヒ聽訟席ニ歸リテ更ニ其坐席ニ就ク可シ「裁判長ハ陪審員ノ評議ノ成果如何ヲ陪審員ニ問フ可シ」陪審員ハ起立シテ其心臓ノ上ニ手ヲ置キテ左ノ如ク述フ可シ
我カ榮譽及ヒ我カ本心ニ於テ神ト人トニ對シテ陪審ノ決斷ハ然リ重罪被告人ハ云々ナリ又ハ否重罪被告人ハ云々ナリ)

(第二百四十九條) 陪審ノ決斷書ハ陪審員ノ面前ニ於テ陪審員長之ニ署名シ而シテ陪審員長ヨリ之ヲ裁判長ニ交付ス可シ

(第二千三百二十七號) 我實際ノ裁判例ハ共和紀元第四年二月ノ法典ニ從ヒ、陪審ノ宣言カ規則ニ適ヒス又ハ充分ナラス又ハ矛盾シ又ハ曖昧ナルキ、重罪院ハ判決ヲ以テ陪審ニ其宣言ヲシテ規則ニ適セシムル爲メ又ハ充分ナラシムル爲メ又ハ之ヲ配合セシムル爲メ又ハ

之ヲ明瞭ナラシムル爲メ、更ニ會議室ニ入ルコトヲ命シ得ルコトヲ認可シタリ、但シ此ノ如キ處分ヲ爲スコトヲ許スニハ、以上ノ瑕瑾タル、一目瞭然タルモノナラサル可カラズ、而シテ裁判院ハ之ヲ考定スルニ付キテハ左ノ二個ノ衝突ノ間ニ在リテ存スルモノトス、即チ若シ指示セラレタル瑕瑾アラサルキハ被告人若クハ檢察官ニ於テ既ニ得タル所ノ宣言ヲ之ニ奪フノ衝突、及ヒ瑕瑾アリテ爲メニ破毀ヲ來シ得ル所ノ宣言ヲ經過セシメ且ツ裁判ノ基本トシテ之ヲ採ルノ衝突是レナリ、裁判長ハ一己ノ資格ヲ以テ此處分ヲ命スルノ權利ヲ有セサルヘシ

第二千三百二十八號) 他ノ非常ナル一職權ハ、單ニ有罪ノ宣言ノ場合ノミニ於テ、決シテ被告人ニ對スルニアラスヨラ、重罪院ニ與ヘラル、即チ此宣言カ公然陪審員長ニ依リテ發シセラレタル後チ直チニ裁判院ハ陪審カ充分程式ヲ遵守シタレハ基本ニ於テ誤リタリト確信シタルキハ裁判ヲ中止シ更ニ其事件ヲシテ他ノ陪審ニ附セシムル爲メ事件ヲ次期ニ送ルノ職權是レナリ(一)裁判院ノ此ノ如キ判決ニ付キテハ千八百八八年ノ法典ニ於テハ一致ヲ要用ト爲シタリシカ今日ニ在リテハ既ニ已ニ要用ニアラス

(二)治罪法(第三百五十二條) 重罪被告人ノ有罪ナリト認メラレタル場合ニ於テ、若シ裁判所ニ於テ陪審員ノ法式ヲ遵守スルト雖モ基本ニ付キ思錯シタリト確信スル時ハ其裁判ヲ延期スル旨ヲ宣告シテ次キノ會議ニ於テ更ニ新ナル陪審ニ附スル爲メ其事件ヲ次キノ

ノ會議ニ移送ス可シ、但シ其取消サレタル決斷ニ參加シタル陪審員ハ一人タリトモ其新ナル陪審中ニ加ハルコトヲ得サルモノトス

何人タリトモ右ノ處分ヲ請求スルノ權利ヲ有セス○裁判所ハ陪審ノ決斷ヲ公ケニ宣告シタル後直チニ職權上ノミニテ右ノ處分ヲ命令スルコトヲ得可シ

第二ノ陪審ノ決斷ノ後ハ假令其決斷カ第一回ノ決斷ニ符合シタル時ト雖モ裁判所ヨリ更ニ再ヒ移送ヲ命令スルコトヲ得ス

此條則ハ我國ニ於テ有罪ノ宣言ニ付キ單多數ヲ以テ足レリトスル所ノ規則ニ對スル矯正法ナリ、但シ此條則ハ尙ホ一層昇リタル多數ヲ要シタリシ時代ニモ存シタリ

(第二千三百二十九號) 右ノ非常ナル場合ヲ除クノ外ハ、一タヒ陪審ノ宣言ニシテ公然朗讀セラレ書面ヲ以テ重罪裁判長ニ交付セラル、ヤ否ヤ被告人ハ公廷ニ引致セラレ而シテ其目前ニ於テ書記之ヲ朗讀ス(第三百五十七條)茲ニ於テ重罪院ノ爲メニ公訴ニ付キテモ、又私訴アリタルキハ私訴ニ付キテモ、且ツ關係人ノ一方ヨリ他方ニ對シテ互ニ主張シ得ル所ノ賠償ニ付キテモ、法律ノ適用ニ關シ裁判スルノ職務始マル、治罪法第三百五十八條以下ノ諸條ハ此點ニ關スル規則ヲ規定シタリ

(第二千三百三十號) 刑ニ關シテモ、又ハ損害賠償ニ關シテモ、陪審ニ於テ宣告シタル事實ノ

上ニハ非スシテ此事實ヨリ生スベキ法律上ノ結果ノ上ニ就キテ議論ノ起リ辯護權ノ繼續スルハ茲ニ於テナリトス、(一)第三百六十二條及ヒ第三百六十三條又辯護ハ第三百六十三條ニ於ケル制限ニ過キタル言辞ニ拘ハラス、陪審ノ宣告ヲ以テ確實ナリト爲シ而シテ適用スヘキ刑ノアラサルヲ例ヘハ期滿免除又ハ大赦ノ如キヲ發言スルニ歸スル所ノ諸般ノモノヲ主張スルヲ得ヘシ、

(二)治罪法(第三百六十二條、若シ重罪被告人ニシテ有罪ナリト決斷セラレタル時ハ、檢事長ヨリ法律適用ノ爲メ裁判所ニ其請求ヲ爲ス可シ)

民事原告人ハ物件返還及ヒ損害賠償ノ爲メ自己ノ請求ヲ爲ス可シ)

(第三百六十四條 裁判長ハ重罪被告人ニ自己ノ辯護ノ爲メ別ニ申立ツ可キナキヤヲ問フ可シ、

重罪被告人モ又其代辯人モ最早其有罪トセラレタル所爲ノ偽タル旨ヲ辯論スルヲ得ス唯其所爲ノ法律上ニテ禁止セラレ又ハ法律上ニ犯罪ノ名稱ヲ附セラレズ、又ハ其所爲ノ檢事長ヨリ適用ヲ請求シタル刑ニ當ラス又ハ其所爲ノ民事原告人ノ爲メニ損害賠償ヲ惹起スルモノニ非ス、又ハ民事原告人ノ其己レニ受ク可キ損害賠償ノ高ヲ過分ニ申立テタルヲミヲ辯論スルヲ得可シ)

(第二千三百三十一號) 又誠ニ明瞭ナル區別アル性質ヲ以テ左ノ異ナリタル三個ノ決定中、其一ノ顯ハル、ハ茲ニ於テナリトス、即チ無罪放免(第二百五十八條ヨリ第三百六十一條ニ至ル)免訴(第三百六十四條)及ヒ處刑(第三百六十五條及ヒ第七百四十四號參觀)是レナリ(第二千三百三十二號) 我輩カ既ニ其性質ヲ論定シタリシ所ノ免訴(第七百四十四號參觀)ハ各事件ニ於テ、通常、或ハ議論區々ニシテ一定セサル刑法ノ或ル問題ノ上ニ就キテ重罪取調局ト重罪院トノ間ニ於ケル異論ノ結果ニ因リ、或ハ陪審カ其答ニ依リテ起訴ニ係ル重罪又ハ輕罪ヲ構成スル或ル元素ヲ排斥シタルヲ以テ殘餘ノ原素ノミニテハ最早罰スヘキモノニアラサルヲトナリタルニ因リ生シ來ルモノトス、左ノ如ク記セラレタル治罪法第三百六十四條ノ條則ハ右ノ場合ニ於テ最モ屢々適用セラル、モノトス、曰ク(裁判所ハ若シ重罪被告人ノ罪ヲ犯シタリト決斷セラレタル所爲カ刑事ノ法律上ニ禁止セラレタルモノニ非サル時ハ其重罪被告人ノ不問ヲ宣告ス可シ)ト

然レモ免訴ノ思想チ一般ニシ、且ツ免訴ハ被告人カ有罪者ト認メラレタルモ裁判官ニ於テ被告ノ負担ニ歸スル所ノ事實ニ對シテハ法律上適用スヘキ刑アラスト定メタル所ノ諸般ノ場合ヲ包含スト云ハサル可カラス、期滿免除、大赦及ヒ我輩カ全免ト呼ビタル所ノ宥恕ハ、是等ノ辯護ノ手段カ顯ハル、所ノ方法ニ從ヒ、且ツ特ニ是等ノ手段ノ生シ且ツ證明セラレテ

顯ハル、所ノ訴訟手續ノ時ニ從ヒテ此ノ如キ結果ヲ來シ得ルモノトス
諸般ノ場合ニ於テ、免訴ハ、式ニ關シテモ結果ニ關シテモ、無罪放免ト異ナルモノトス
放免ハ、式ニ關シテハ、裁判長ノ命令ヲ以テ言渡サル、向トナレハ茲ニ於テハ毫モ議論ニ係ル
法律ノ問題アルコトナク、且ツ其裁判上ノ結果ハ自然ニ出ツルカ故ナリ、

(二)治罪法(第三百五十八條、重罪被告人ノ無罪ナリト決斷セラレタル時ハ、裁判長ヨリ
其重罪ノ公訴ヲ免スル旨ヲ宣告シ、且ツ其他ノ原由ノ爲メニ拘留セラレサル時ハ之ヲ釋
放ス可キ旨ヲ命令ス可シ

然ル後、關係各人ノ其相手方ヨリ要求スル損害賠償ニ付キ其拒訴ノ憑據又ハ其辯護ヲ申
立テ且ツ檢事長ノ申立ヲ聽キタル後、裁判ニ於テ其各自相互ニ要求スル損害賠償ニ付キ
裁定ヲ爲ス可シ然レモ、若シ裁判所ニ於テ適當ナリト思考スル時ハ、關係各人ノ申立ヲ聽
キ證據物ヲ查視シテ審問席ニ其報告ヲ爲サシムル爲メ裁判官一名ヲ委任スルコトヲ得可
シ、但シ關係各人ハ其審問席ニ於テ尙其意見ヲ申立ツルコトヲ得可ク、且ツ其審問席ニ於テ
ハ更ニ再ヒ檢察官ノ申立ヲ聽ク可キモノトス
放免セラレタル重罪被告人ハ、誣告ノ所爲ノ爲メ其告發者ニ對シテ亦損害賠償ヲ得ント求
ムルコトヲ得可シ、然レモ設置セラレタル官廳ノ各員ハ其職務ノ執行ニ於テ知り得タリト

思フ所ノ犯罪ニ關シテ附與ス可キ通知ノ爲メ右ノ如クニ訴ヘラル、コトナカル可シ、但シ
別段ノ理由アル時ハ其官廳ノ各員ニ對シテ損害賠償ヲ得ント請求スルコトヲ得可キモノト
ス

檢事長ハ重罪被告人ノ請求ニ依リ其告發者ヲ知ラシム可キモノトス

免訴ニ付キテハ右ニ反シ第三百六十四條ノ言辭ニ從ヒ、重罪院ノ判決ヲ要ス、何トナレハ茲
ニ於テハ論議ニ係リ得ヘキ法律上ノ問題アルヲ以テナリ、
結果ニ關シテハ無罪ノ宣告ノ利益及ヒ其結果タル所ノ放免ノ利益ハ變更ス可カラサル方法
ヲ以テ被告人ノ既得ニ歸ス、而シテ治罪手續ニ於テ式ニ關スル一二ノ無効アリタリト雖モ
唯法律ノ爲メノミニアラサレハ破毀ヲ來サ、ルナリ(第四百九條)之ニ反シテ免訴ノ判決ニ
付キテハ有用ナル上告ノ基本トナルコトヲ得(第四百十條)

(第二百三十三號) 一個ノ裁判例アリテ免訴ト放免トニ付キテ尙ホ左ノ差異ヲ認メタ
リ、即チ放免セラレタル者ハ決シテ之ヲ刑事訴訟ノ費用ニ處スルコトヲ得スト雖モ、免訴セラ
レタル者ハ刑事訴訟ノ費用ト云フヲ憚カラバ責メテハ損害賠償ノ名義ヲ以テシテ之ヲ刑事
訴訟ノ費用ニ處スルコトヲ得ルコト是レナリ、而シテ此裁判例ノ價值ニ付キテハ我輩異日之ヲ
説明スヘク、且ツ此裁判例ハ關係アル治罪法第六十二條第三百九十四條第三百六十八條ノ

諸條ノ正文ト之ヲ一致セシムルニ難キ所ノモノナリ

(第二千三百三十四號) 治罪法ハ處罰又ハ免訴ノ判決ニ付キテハ確定裁判ノ効力ニ關シテ明言スルコトナケレドモ特別ナル方法ヲ以テ其第三百六十條ニ於テ放免ニ關シテノミ之ヲ明言シタリ、曰ク(法ニ適シテ放免セラレタル各人ハ最早其同一ノ所爲ノ爲メニ再ヒ逮捕セラレ、コトナカル可ク、公訴セラレ、コトナカル可シ)ト、我輩ハ嘗テ(第七百七十八號及次號參觀)此條則ノ目的タル、陪審ノ路ニ依リテナサレタル所ノ放免ニ付キ最モ嚴格勁強ニシテ之ニ對シテハ如何ナル上訴モ爲スコヲ得ス且大審院上告ト雖モ亦爲スコヲ得サル所ノ變更ス可カラサル性質ヲ與フルニ在リタリシコト、且此條ハ右ノ如クナル以上ハ特ニ陪審ニ附セラレタル事件ニ限り且ツ特ニ放免ノ場合ノミニ限ルコトヲ說明シタリ、其他ノ判定ニ付キテハ唯其變更ス可カラサルモノトナリタル時普通ノ確定裁判ノ効力ノ規則ニ依ルヘキモノトス

(第二千三百三十五號) 然レモ我輩ハ、今日信用アル裁判例ハ、第三百六十條ノ言辭ニモ拘ハラス、同一ノ事實ニ對シ他ノ點ヨリ稱呼ヲ附セラル、ノ理由ヨリシテ、陪審ノ路ニ依リテ適法ニ放免セラレタル人ヲ再ヒ逮捕スルコトヲ許シタルヲ見タリ、又我輩ハ此裁判例ハ、一般ノ法理ニ於テモ、我法典ノ正條ニ從ヒテモ、確然タル理由ナキモノナル事ヲ說明シタリ(第七

百八十八號及ヒ次號參觀)

然レモ此裁判例ヲ扶持スヘキモノアリ、即チ千八百十二年以來繼續シテ出テタル大審院ノ判決是レナリ、而シテ其中最モ著明ナルモノハ千八百四十一年十一月二十五日各局總會議ノ上公式ノ公廷ニ於テ檢事長ジニパン氏ノ論結ニ反對シテ與ヘタル所ノ判決ナリトス、(一)此處置ノ方法ハ從來之ヲ用サルコト甚タ稀レニシテ且ツ大ニ之ヲ節用シタリシニ、此判決以來ハ實際我檢事局ニ於テ最モ屢々之レカ適用ヲ爲スニ至リ今日ニ在リテハ此方法ハ我國ニ於テ或ル種ノ事件ニ關シ最モ確實ノ少キモノハ陪審ノ路ニ依リテナサル、放免ニアルカ如キ觀ヲ爲ス迄ニ至レリ

(二)此論結ノ重モナル思想ハ、檢事長左ノ言辭ヲ以テ之ヲ約說シタリ、曰ク(刑法ノ嚴正ナル原則ニ於テハ凡ソ法ニ適シ式ニ合シタル諸般ノ辯論ハ以テ公訴ニ包含スル所ノモノヲ悉ク決了センコトヲ要求ス、此嚴格ナル時ニ於テ諸般ノ用意ヲ爲スハ社會ニ在リ、諸般ノ援助タルヘキ元素ヲ使用スルハ辯護ニ在リ、何トナレハ一タヒ陪審ノ宣告ヲ爲スヤ即チ百般ノ事茲ニ終了シ、姑ク之ヲ言ヘハ、裁判所カ有罪ニ關スル事ニ付キテ安心ヲ爲スヘキハ法律ノ精神中ニアレハナリ)ト(大審院檢事長ジニパン氏ノ著ハシタル公訴辯論及ヒ開廷ノ演說ト題スル書ノ第五卷第三十九頁ヲ觀ルヘシ)

(第二千三百三十六號) 大審院ハ此判決ニ固執シ而シテ之レカ重大ナル理由ニシテ此判決ノ根原ニシテ結局之レカ扶持トナルヘキ所ノ單一ノ理由ヲ與ヘタリ、此理由タル、最モ大ナル觀察ヲ與フヘキ價值アリトス、所謂理由トハ和共紀元第四年第二月ノ法典ハ重罪裁判所ノ裁判長ニ科スルニ陪審ニ對シテ公訴ニ係ル事實ノ情狀ヨリ出ツヘキ所ノ諸般ノ問題ヲ發スルノ義務ヲ以テシタリシニ現時ノ法律ハ重罪院ノ裁判長ニ此同一ノ義務ヲ科セスト云フ是レナリ、實ニ共和紀元第四年第二月ノ法典ハ此點ニ付キ特別ノ條則ヲ掲ケ(一)而シテ我治罪法ハ第二ノ補足ノ問題ニ就キテハ毫モ規定シタル所ナク唯訴訟手續ノ必要其物ニ依リテノミ此問題ヲ發スルナリ、マンギヤン氏カ一方ニ於テハ第四年第二月ノ法典ハ全体ヲ無効トスルノ制裁ヲ以テ此義務ヲ科シタリ、又他ノ一方ニ於テハ現時ノ治罪法ハ此法ニ於テ指定シタル所ノ問題ヨリ他ノ問題ハ毫モ之ヲ發スルコトヲ許サス(二)ト云ヒタルハ是レ理論ノ推及ニ過キタルナリ、實ニ第四年第二月ノ法典第三百八十九條ニアル所ノ此無効ニ關シテハ決シテ此ノ如ク解釋スルコトヲ得ス、其他茲ニ於テハ無罪放免ニ係ルカ故ニ此補足ノ問題アルコトヲ得サルヘシ、我カ治罪法ニ關シテハ治罪法ハ之ヲ記セスト雖モ補足ノ問題ヲ發スルコトヲ許スハ確實ナリトス、何トナレハ今日屢々之ヲ行ヒ且ツ之ヲ行フコトハ甚タ規則ニ適シタルモノトシテ決定セラレタレハナリ、千八百四十一年ノ大審院ノ判決ハ此過當ノ

推理ニ一致セス、此判決ハ第四年第二月ノ法典ノ條則ト治罪法ノ條則トヲ比較シ、而シテ自ラ確的ナル事實ノ區域ニ制限シタリ、然レモ我輩ハ此舊時ノ法ト現今ノ法トヨリ出ツル所ノ差違ハ法理ノ原則ニ對シ且ツ左ノ第三百六十條ノ然ク嚴格勁強ナル遺傳ノ禁止ニ對シテ勝ヲ制スル爲メニハ充分ニ確實ナラスト云フヘシ、曰ク(法ニ適シテ放免セラレタル各人ハ最早其同一ノ所爲ノ爲メニ再ヒ逮捕セラル、コナカル可ク、又公訴セラル、コナカル可シ)ト、又我輩ハ檢察官及ヒ重罪院裁判長ハ法典ノ一條則ニ依リテ然ルニ非ストスルモ、少ナクモ其職掌上ノ義務ニ依リ陪審ニ附シタル訴訟ヲ完全ニ決定セシムルノ義務アリテ此訴訟ニ對シテ強テ之ヲ分割スルノ權利モ默々ニ附スルノ權利モ有セサルコトヲ言ヒ且ツ之ヲ證明ス、(第千九百九十四號參觀)此義務ニハ斟酌ノ一二ノ權能ノ之ニ混合セルコトハ疑ヒラ容レスト雖モ、其制裁ハ第四年第二月ノ法典ニ於テ然リシカ如ク、恰モ被告人ノ一タヒ放免セラレタル以上ハ同一ノ事實ノ理由ニ依リテ再ヒ逮捕セラル、コナカル可シト云フニアリ、是レ即チ其義務ノ制裁ナリトス

(二)共和紀元第四年第三月三日頒布ノ犯罪及ヒ刑罪ノ法典(第二百七十三條) 次キニ裁判長ハ裁判所ノ名ヲ以テシ且ツ裁判所ノ威權ニ依リ公訴狀ト辨論トヨリ出ツル所ニシテ陪審カ決セサル可カラサル所ノ諸般ノ問題ヲ發ス)

(第二百七十四條 第一ノ問題ハ公訴ノ目的物ヲ成ス所ノ事實ハ必ス存在スルヤ否ヤヲ知ルニ係ル、第二ハ被告人ハ之ヲ犯シ又ハ之ニ加功シタル者ト確信セラレ、ヤ否ヤヲ知ルニ係ル

次キニ事實ノ性質及ヒ犯罪ノ情狀ノ輕重ニ關シ公訴狀被告人ノ辨護又ハ辨論ヨリ出ツル所ノ問題來ル。裁判長ハ被告人ニ最モ利益アルモノヨリ此問題ヲ始メ、而シテ之ニ付キ陪審ノ論議セサル可カラサル所ノ順序ニ於テ之ヲ發ス)

(第三百八十條 總テ第二百五十二條第三百二十八條第三百六十五條第三百六十八條第三百七十三條第三百七十四條第三百七十七條及ヒ第三百七十八條ニ於テ定メタル規則ニ違背シタルキハ無効ナリトス)

(二)マンジャン氏ノ著ハス所ノ公訴權論ト題スル書第二卷第三百六十頁及ヒ第三百六十一頁ヲ觀ルヘシ

(第二千三百二十七號) 此實際論ノ同意者カ決シテ答ヘス又決シテ答ヘ得サルヘキ所ノ他ノ一個ノ駁議アリ、則チ人ハ何故ニ他ノ方法ニ依リテ稱呼ヲ附シタル同一ノ事實ヲ以テ之ヲ重罪トシ再ヒ他ノ陪審ニ附スルニ付キ此實行論ヲ使用セサルヤ、何故ニ裁判長ハ此ノ如キ場合ニ於テ實際上決シテ補足ノ問題ヲ發スルコトヲ缺カサルヤ又何故ニ裁判長ノ此問題ヲ

發セサル時全ク公訴ヲ決了シタリト看做スヤトイフ事はナリ、予ハマンジャン氏カ自ラ用シタル所ノ例(第二卷第三百七十頁)ヲ假リテ茲ニ論スヘシ、外科醫アリ或ル婦人ニ對シテ故殺ノ有罪人又ハ毒殺ノ有罪人ナリトシテ公訴セラレタル後チ放免セラレタリ、何故ニ同一ノ事實ノ理由ニ依リ之ヲ墮胎ノ有罪人ナリトシ而シテ此點ニ付キ第一ノ陪審ハ裁判長ヨリ問ヲ發セラレサリシト云フニ基キ再ヒ之ヲ他ノ陪審ニ附スルコトヲ得サルヤ、何トナレハ若シ結局大審院ノ推理ヲ以テ論據アルモノトスレハ此推理ハ重罪ノ場合ニ付キテモ輕罪ノ場合ニ於ケルト同シク論據アルモノトセサルコトヲ得サレハナリ、是レ爭フ可カラサル論理ノ然ラシムル所ニ非ズヤ

若シ論理法ニ從フノ人アリ肯テ既ニ其進ミタル路ヨリシテ復タ退クコトヲナサスシテ左ノ如ク答フトセンカ、曰ク(然リ、重罪ノ新ナル稱呼ニ付キテモ放免シタル人ヲ再ヒ陪審ニ附スルノ權利ハ此點ニ付キ陪審ノ明言セサル以上ハ成立ツ)ト、予ハ此人ノ言ヲ姑ラク此ニ止メシメ且ツ此人ニ對シテ左ノ如ク問フヘシ、曰ク(重罪院ニ於テスル此新訴訟ニ付キ汝ハ何處ヨリ公訴狀ヲ持チ來ルヤ、必ス第一ノ公訴狀ニハアラサルヘシ、何トナレハ此公訴狀ハ之ヲ以テ訴ヘタル所ノ重罪院ニ於テ完全ニ決了セラレサル可カラスシテ既ニ決了セラレタルハナリ、又重罪取調局ハ第二ノ公訴狀ヲ生セシムルコトヲ得サルヘシ、何トナレハ重罪取調局

ニ關スル第二百四十六條ニ所謂ル同一ノ所爲ノ爲トノ言辭ハ何人ト雖モ眞實ニシテ且ツ固有ナル意義ヲ含蓄スルヲ認ムルカ故ニ、重罪取調局ハ全ク事件ノ關係ヲ脱シタルハナリ、人此發議ニ對シテハ到底之ヲ答フルコトヲ得サルヘシ

此纖巧ヲ弄フ今日ノ流行ハ陪審ニ對スル莫大ノ嫌疑ノ感情中ニ孕出シタルコトヲ明言スヘシ、蓋シ、重罪トナシタル事實ニ付キ公訴ノ敗レタル時、輕罪裁判所ニ向ヒ同一ノ事實ヲ輕罪トナシテ再ヒ公訴ヲ始ムルコトヲ許スヲ以テナリ、又我輩ハ再ヒ輕罪裁判所ニ公訴スルノ理由トシテ、陪審ニ對シテ公訴ノ威重ヲ損スヘキ補足ノ問題ヲ發スルコトハ善良ノ策略ナルコト希レナリトノコトヲ聞キタルハ當ニ一回ノミナラサルコトヲ明言スヘシ、蓋シ陪審ハ此補足ノ問題ノ爲メニ主タル事實ヲ棄テ、甚ダ容易ニ補足ノ問題ニ從ハサルヤトノ恐レアルヲ以テナリ、嗚呼人策略ト曰フト雖モ然レモ茲ニ論スル所ハ公正ノ裁判ニシテ策略ニ非サルナリ、我輩ハ左ノ如ク言フコトヲ恐レサルヘシ、這ハ是レ未決拘留ノ彌久、無益ノ費用、初メヨリ期タル心算ニ導キ且ツ結局其目的ニ反シテ進ム所ノ訴訟手續、之ヲ換言スレハ刑事裁判ヲシテ軟弱ニ赴カシムル所ノ甚タ不良ナル訴訟手續ノ式ナリトス、何トナレハ陪審ハ、同一ノ事實ニ付キテ被告人ノ重罪院ヲ出ツルヲ待チテ直チニ之ヲ輕罪裁判所ニ送付スルコトヲ知ルカ故ニ、人カ陪審ニ付シテ豫防セント欲スル所ノ此放免ナル優柔手段ヲ最モ容易ニ行フニ至

レハナリ

(第二千三百三十八號) 刑事起訴ニ關スル裁判ハ、若シ請求アルキハ返還、賠償ニ對シ、又ハ常ニ訴訟費用ニ對シテ判決ヲ與ヘサル可カラズ(一)

(二)返還ニ付キテハ刑法第十條第五十一條ヨリ第五十五條ニ至リ第七十二條第七十四條及ヒ第四百六十二條又治罪法第六十一條第三百六十二條第三百六十六條及ヒ第四百七十四條ヲ觀ルヘシ

賠償ニ付キテハ全段ト同一ノ諸條及ヒ治罪法第六十六條第百五十九條第百九十一條第百九十二條第百五十八條第百五十九條及ヒ第三百六十三條ヲ觀ルヘシ

費用ニ付キテハ刑法第五十二條第五十五條第四百六十九條 治罪法第百六十二條第百七十六條第百八十七條第百九十四條第百九十一條第百六十八條第百三十六條及ヒ第四百七十八條ヲ觀ルヘシ 又之ニ加フルニ重罪輕罪違警罪裁判ノ支配及ヒ費用ノ一般ノ費用額ニ關スル千八百十一年六月十八日ノ布令ヲ觀ル可シ

(第二千三百三十八號第二) 返還ト賠償トヲ混ス可カラズ、返還ハ奪取セラレタル物件ヲシテ再ヒ所有者ノ占有ニ歸セシムルコト、又少ナクモ所持ノ權利ヲ有スル者ノ手ニ再ヒ其占有ニ歸セシムルコトニ外ナラサルモノナリ、返還ハ所有權又ハ占有權ヨリ生スルモノニシテ、此

語ノ眞實ノ意義ニ於テスレハ舊ノ如ク仍ホ存在スル所ノ物件又ハ其遺存スル所ノ物件ニ對スルニアラサレハ返還ノ場合アルコトヲ得ス、

返還ノ中ニハ左ノ事ヲ區別セサル可カラス、即チ 第一裁判所ニ於テ差押ヘテ書記局ニ領置セラル、カ、又ハ差押物件保管所ニ置カル、所ノ物件ノ返還、 第二、被告人ノ處置中ニ存スル所ノ物件ノ返還、 裁判上ノ規則ハ其一又ハ他ノ一ニ對スルニ付キテ各々同シカラス例ヘハ治罪法第三百六十六條末項及ヒ第四百七十四條ハ第一ノ返還ニ關シテ規定シ刑法第五十二條第五十四條第五十五條ハ第二ノ返還ニ關シテ規定シタルコトハ明瞭ナリトス

差押ヘタル物件ニ關シテハ、刑法訴訟ノ回復ス可カラサルモノトシテ終結スルヤ、即チ裁判所自ラハ之レカ返還ヲ爲スヘキノ義務ヲ生スルモノトス、是ヲ以テ此返還ハ裁判官ニ於テ職權ヲ以テシ且ツ獨リ事件ノ關係人ノ利益ノ爲メノミナラス尙ホ第參者ノ利益ニ就キテモ亦之ヲ命シ得ルコトヲ觀ル可シ、

重罪院ハ、總テノ場合ニ於テ即チ無罪放免ノ場合ニ於テモ免訴ノ場合ニ於テモ處刑ノ場合ニ於テモ、治罪法第三百六十六條ノ明文ニ依リテ此權限ヲ有ス(一)

(一)治罪法(第三百六十六條) 不問ノ場合ニ於テモ放免又ハ刑ヲ言渡シタル場合ニ於ケルカ如ク裁判所ニ於テ民事原告人又ハ重罪被告人ヨリ要求シタル損害賠償ニ付キ裁定ヲ爲

ス可シ又裁判所ハ其同一ノ裁判書ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ算定シ又ハ第三百五十八條ニ記シタル如ク關係人ノ申立ヲ聽キ證據物ヲ查視シテ其諸件ニ付キ報告ヲ爲サシムル爲メ裁判官一名ヲ委任ス可シ

裁判所ニ於テハ亦其奪取セシ物品ヲ所有者ニ返還ス可キ旨ヲ命令ス可シ
然レモ若シ刑ノ言渡シアリタル時ハ所有者ヨリ其刑ヲ言渡サレタル者ノ破毀ノ爲メ一ノ

上告ヲ爲サスシテ定期ヲ經過セシメタル旨ヲ證明シ又其上告ヲ爲シタル時ハ右事件ノ確然終了シタル旨ヲ證明スルニ非サレハ右ノ返還ヲ爲ス可カラス(二)
違警罪裁判所及ヒ輕罪裁判所ハ處刑ノ場合ニ於ケルコトアラサレハ裁判ヲ以テ此返還ヲ命ス

ルコトヲ得ス、若シ放免又ハ免訴ノ場合ニ於テハ差押物件ノ所有又ハ占有ニ關スル爭ニ係ル民事上ノ權利ノ主張ハ其管轄内ニアラスト看做サル、是ヲ以テ其事件ハ民事裁判所ニ提出セサル可カラス但シ之ニ付キ利益ヲ有スル關係人ハ書記局ニ對シテ是等ノ物件ノ引渡ニ對スル故障ヲ申立ツルコトヲ得

被告人カ或ル方法ヲ以テ藏匿シタルト消滅セシメタルト問ハス、被告人ノ處置中ニ存スル所ノ物件ノ返還ニ關シテハ我輩ハ損害賠償ノ規則ヲ適用セサル可カラスト思考ス、我輩ヲ以テ之ヲ觀レバ、此種ノ返還ハ若シ實功ヲ奏セサルノ場合ニ於テハ、損害賠償ヲ以テ局ヲ

結了所ニシテ事件ノ關係人ノ請求及ヒ利益ノ爲メニアラサレハ之ヲ命スルヲ得サルモノトス、刑法第五十二條第五十四條及ヒ第五十五條ノ該當スルハ此種ノ返還ニ在リ而シテ此諸條ハ罰セラレタル有罪者ニ對シ此返還ヲ保護スル爲メニ民事拘留、罰金ニ對スル先取權及ヒ連帶ノ利益ヲ以テシタリ

第二千三百二十八號第三(三)損害賠償目的ハ實際ニ生シタル損害ノ補償ニ在リ而シテ是レ金錢ニ依ルノ賠償ヲ以テ最モ多シトス、然レモ此名義ヲ以テ他ノ種類ノ賠償ヲ許サル、コヲ得、例ヘハ裁判ノ揭示若クハ新聞紙ニ裁判ノ掲載又ハ詐欺若クハ強ヒテ署名セシメテ得タル約束書若クハ受取書ノ無効又ハ或ル工事ノ命令若クハ或ル破壊ノ命令ノ如キ是レナリ、損害賠償ハ職權ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得スシテ、單ニ事件ニ關涉シタル關係人ノ論結ニ依リテ之ヲ與フルノミ、且ツ請求以外(ユルトラ、ペチター)ニ之ヲ與フルコトヲ得ス、其條則ハ刑法第五十一條中ニ在リ、曰ク(被害者ノ求メニ依リ)ト、是レ返還ニ付キテハ言ハサル所ナリ、本條ニ於テ此賠償ヲ或ル事業ニ施用スヘキコトヲ言渡スコトヲ禁シタリ、即チ關係人カ賠償ヲ請求シ而シテ其所得ノ施用ヲ指定シタル時ニシテ例ヘハ貧窮人ノ爲メニ之ヲ施用セント指定シタル時ハ刑事裁判所ハ此指定ヲ以テ曾テナキモノト看做シ、純粹ニ且ツ單ニ請求ニ係ル賠償ニ就キテ判決ヲ與ヘサル可カラス(一)

(一)刑法(第五十一條、物件返還ヲ爲ス可キコトアル時ハ、其犯罪人ハ右ノ外、被害者ノ求メニ依リ其被害者ニ對シテ賠償ヲ言渡サル、コトアル可ク、而シテ其賠償ノ定メ方ハ、法律上ニ之ヲ規定セサル時ハ上等裁判所又ハ下等裁判所ハ右被害者ノ承諾アリト雖モ其賠償ヲ各種ノ事業ニ適用ス可キ旨ヲ宣告スルコトヲ得サルモノトス) 損害賠償ハ、或ハ民事原告人ヨリ被告人ニ對シ、或ハ誤リテ被告トナリタル人ヨリ民事原告人若クハ告發人ニ對シテ、之ヲ爲スコトヲ得可シ 我輩ハ此點ニ付キ總テノ場合ニ於テ則チ如何ナル刑事訴訟ノ結局ノ場合ニ關セズ、重罪院管轄權ハ如何ナル者ナルヤヲ知ル 我輩ハ又前段ニ反シ此點ニ付キ違警罪裁判所若クハ輕罪裁判所カ制限セラル、所ノ範圍ノ如何ナルモノナルヤヲ知ル(治罪法第百五十九條第百九十一條第百九十二條ヲ觀ル可シ) 治罪法第百五十八條及ヒ第百五十九條ハ重罪院ニ於テ被告人ヨリ告發人ニ對シテ申立テタル損害賠償ノ請求ニ關シテ特別ニ規定シタリ 第二千三百二十八號第四(四)費用ニ關シテハ、刑事裁判ノ費用ト、被告人ニ於テ自己ノ辨護ノ爲メ若クハ民事原告人ニ於テ請求ノ私益ノ爲メニ爲シタル費用トヲ、區別セサル可カラス(刑事裁判ノ費用ニ關シテハ、我國ニ於テハ刑法及ヒ治罪法ノ諸條ノ外尙ホ重罪、輕罪、違警罪

ハ、裁判ノ支配及ヒ、一般ノ費用額ニ付キテノ規則ニ關スル千八百十一年六月十八日ノ布令アリテ行ハル、實際ノ裁判例ハ常ニ此布令ニ與フルニ我法典ノ條則ヲ變更シタル條則ニ就キテモ尙ホ法律ノ力ヲ以テシタリ、細節上ノ或ル點ニ就キテハ其後ノ布令若クハ命令ヲ以テ之ヲ規定シタリ

布令第二條ハ刑事裁判ノ費用中ニ包含スヘキ所ノ費用ヲ指定シ、第三條ハ之ニ包含ス可カラサル所ノ費用ヲ指定シ、第六十二條ハ刑事裁判ノ費用中ニ就キテ全ク政府ノ負擔ニ歸スル所ノ費用ヲ指定シタリ

刑事裁判ノ費用ハ、或ハ通常職權ヲ以テ命セラレ若クハ檢察官ノ請求ニ因リテ命セラレタル所ノ訴訟手續及ヒ所爲ニ付キテハ登記官署ニ於テ立換ヘ、或ハ民事原告人アルハ既ニ舉ケタル規則ニ從ヒ民事原告人ニ於テ立換フ、但シ官署若クハ民事原告人ニ於テ立換ヘタル費用ハ事件ノ結局ニ從ヒ法律上之ヲ拂フヘキ者ニ對シテ取立ヲ爲スコトヲ得

費用ノ立換ヲ爲シタル所ノ關係人ニ對シテ之レカ辨償ヲ爲スノ義務ハ純理ノ學理上ニ於テ、人各其過失ニ因リテ他人ニ生スルノ機會ヲ與ヘタル所ノ損害ヲ賠償スルノ義務アリト一般ノ原則ニ基カサル可カラス、費用ノ辨償ハ民事賠償ノ一種ナリトス然ラハ則チ純粹ノ學理ニ從ヒ總テ左ノ問題ニ歸セサル可カラス、曰ク(問題ニ係ル所ノ刑事

裁判ノ費用ハ何人ノ過失ニ因リテ生シタルヤ)ト、我輩ハ法理ニ於テ困難ヲ決スル爲メニ動カス可カラサルモノトシテ此式語ヲ與フ

然レモ純粹ノ原則ノ外尙ホ成文ノ正條ノ存スルアリテ明瞭ナル時ハ第一ニ之ニ從ハサル可カラス、又其疑ハシキ場合ニ於テハ學理ニ從ヒ之ヲ説明セサル可カラス、我重モナル正條ハ治罪法第六十二條、第九十四條及ヒ第二百六十八條ナリトス(一)茲ニ(第二百六十二條及ヒ第二百六十八條)(敗訴トナリタル)トノ言辭ヲ看ル是レ一般ニ涉リ漠トシテ甚タ明瞭ヲ缺クノ性質ナルヲ以テ、我實行上ニ於テ疑ヒヲ生セシメ且ツ異同ノ説明ヲ生セシメタリ

(一)治罪法(第六十二條) (違警罪裁判所ニ付キ)敗訴トナリタル者ハ公訴原告人ニ對スルト雖モ費用ノ償還ヲ言渡サル可シ

其費額ハ裁判書ヲ以テ之ヲ算定ス可キモノトス

(第九十四條) (輕罪裁判所ニ付キ)凡ソ犯罪被告人ニ對シ、及ヒ民事上ニテ犯罪ノ責任ス可キ各人ニ對シ、又ハ民事原告人ニ對シテ爲ス所ノ懲罰ノ裁判ニハ右ノ各人ニ公訴原告人ニ對スト雖モ費用ヲ償還ス可キ旨ヲ言渡ス可シ

其費用ハ右ト同一ノ裁判ヲ以テ之ヲ算定ス可キモノトス

(第二百六十八條第一項) (重罪院ニ付キ)敗訴トナリタル重罪被告人又ハ民事原告人ハ國

家下相手方トニ對シテ費用ノ支辨ヲ言渡サル可シ
 被告ハニ關シテハ我輩ハ立法者カ我三個條ニ於テ目的ト爲シタル所ノ單ナル場合ハ處罰ノ
 場合ナルトハ確實ナリト看做ス、即チ刑事訴訟ノ費用ニ關シテハ刑事ノ處斷 民事原告人
 ノ自己ノ費用ニ關シテハ民事ノ處罰 是レナリ
 之ヲ換言スレハ我三個ノ裁判所カ第六十二條第九十四條及ヒ第三百六十八條ニ從ヒ被
 告人ヲシテ 刑事訴訟ノ費用ヲ支辨スルノ義務アラシメン爲メニハ、此被告人ハ刑事ノ起訴
 ニ就キテ罰セラレタルトヲ要ス、又民事原告人ノ自己ノ費用ニ關シテハ被告人ハ民事ノ起
 訴ニ就キテ罰セラレタルトヲ要ス

違警罪裁判所又ハ輕罪裁判所ニ於テハ、此決定ハ何人ト雖モ之ヲ疑フ者ナシ、何トナレハ若
 シ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルモハ其如何ナル理由ニ出テタルヲ問ハス此點ニ關シテハ總
 テノ訴訟手續ハ之ヲナキモノトセラレサルヲ得ス(第五十九條及ヒ第九十一條)其他此
 ナキモノトスル特別ノト共ニ刑事裁判官ハ然ク放免若クハ免訴セラレタル被告人ニ對シ
 テ民事上ノ處罰ヲモ言渡スヲ得サレハナリ、
 然レモ重罪院ハ總テノ場合ニ於テ即チ放免シ若クハ免訴シタル被告人ヲモ損害賠償ニ處ス
 ルノ權限ヲ有スルヲ以テ此名義ニ因リ之ヲ刑事訴訟ノ費用ニ處スルモ亦至當ナルトヲ得

此場合ニ於テハ第三百六十八條ニ依ルニアラスシテ民事上ノ過失ニ基ツク所ノ一般ノ原則
 ニ因ルモノナリ

故ニ刑事訴訟ノ結果ヨリシテ公訴權ハ期滿免除ニ因リテ消滅シタリ被告事件ハ大赦ニ因リ
 テ消滅シタリ又ハ被告事件ハ重罪ヲモ輕罪ヲモ違警罪ヲモ構成セス又ハ公訴ヲモ妨グルノ
 効力アル所ノ宥恕全免ノ一個カ事件中ニアルト出テタリトセンカ裁判上ノ結果ハ即チ刑
 事ノ起訴ハ過チテナシタルモノナリ、此起訴ニ因リテ生シタル刑事裁判ノ費用ハ原告タル
 關係人ノ過失ニ因リタルモノニシテ被告人ノ過失ニ因リタルモノニアラス、被告人ハ己レ
 ニ對シテ起サル可カラザリシ所ノ刑事訴訟ノ費用ニ處セラル、トナカルヘシ
 之ニ反シテ刑事訴訟ノ結果ヨリシテ有罪ト認メラレタル所ノ被告人ノ利益ノ爲メニ總テノ
 刑ノ適用ヲ免カレシムルモ起訴ヲ免カレシメサル所ノ宥恕全免ノ一個、即チ貨幣偽造ノ重
 罪ヲ表白シ政府ノ安寧ニ危害ヲ及ボス陰謀若クハ重罪ヲ表白スルカ如キ被告人ニ對シテ起
 訴ヲ免カレシメサル所ノ宥恕全免ノ成立アリトセンカ刑事訴訟ハ法律上ニ於テ起ラサル可
 カラス而シテ此訴訟ハ被告人ノ過失ニ因リテ起リタリ、故ニ被告人ハ如何ナル刑ニモ處セ
 ラレスト雖モ此訴訟ノ費用ヲ負擔セサル可カラス
 我輩ハ有罪ト認メラレタルモ是非ノ辨別ナクシテ行ヒタリト宣言セラレタル十六歳以下ノ

幼者ニ付キテモ、亦前段ト同一ニ論スヘシ、刑事訴訟ハ刑事裁判所ヲシテ唯此幼者ニ對シテ法律ニ訴ス所ノ懲治教育ノ處分ヲ適用スルニアラシムルニ過キスト雖モ尙ホ法律上起ラサル可カラズ乃チ刑事訴訟ハ此幼者ノ過失ニ因リテ起リタル此幼者ハ親族ニ交付セラレタルニ止マルト雖モ亦之レカ費用ヲ負担セサル可カラズ

而シテ這ハ輕罪裁判所ニ於テモ亦然リトス、何トナレハ裁判所ハ此ノ如キ場合ニ於テ事件ノ關係ヲ脱セシテ管轄權ヲ有スレハナリ、依リテ裁判所ハ此ノ如キ幼者ニ就キテ刑事法律力與フル所ノ威權ヲ使用ス我輩ノ意見ニ由レハ裁判官ハ被告者ノ爲メニ之ヲ損害賠償ニ處スルコトヲ得可シ、又裁判官ハ全ク弱齡ノ幼童ニ係ラサル以上ハ之ヲ刑事訴訟ノ費用ニ處セサル可カラズ

欠席裁判ニ依リテ刑ニ處セラレタル者ニ關シテハ、其故障ヲ爲シ對審ニ於テ欠席裁判ハ無効ニ歸シテ放免セラレタルキハ此放免ニ拘ハラズ、此者ハ一般ニ其欠席ニヨリテ生シタル部分ノ費用ニ付キテハ其過失ニアラスト云フ可ラス、隨ヒテ之ヲシテ此部分ノ費用ヲ負担セシムルコトハ眞ニ相當ナリト云フコトヲ得ヘシ、但シ外國ニ於テ犯シタル重罪輕罪又ハ違警罪ニ關スル千八百六十六年六月二十七日ノ法ハ輕罪ノ欠席者ニ就キテ此欠席者カ正當ニ起訴ヲ知ラサルヲ以テ其過失ニアラザリシ所ノ情狀ノアリ得ヘキコトヲ斟酌シタリ、隨ヒテ此

法律カ治罪法第八十七條ニ爲シタル所ノ修正ニ於テ昔時ノ如ク此費用ニ處スルコトヲ以テ裁判所ト義務トナサスシテ隨意ト爲シタル所ノ修正ノ一ヲ含蓄セリ、曰ク(欠席裁判書ノ寫ヲ得テ之ヲ送達スルノ費用及ヒ故障申立ノ費用ハ犯罪被告人ノ責任ト爲ス)ヲ得可シ(新第八十七條第二項)ト、重罪欠席者ニ關シテハ之ニ知ラシムル爲メニ且ツ之ヲ欠席者タルノ地位ニ置ク爲メニ行フヘキ特別ノ程式アルヲ以テ此欠席ニ因リテ生シタル部分ノ費用ニ處スルコトハ常ニ裁判所ノ義務ナリトス(一)

(一)治罪法(第四百七十八條) 出現シタル後ニ重罪公訴ノ免訴ヲ得タル重罪欠席者ハ常ニ必ラス其重罪欠席ニ因リテ生セシメタル費用ノ償還ヲ言渡サル可シ(民事原告人ニ關シテハ(敗訴トナリタル)トノ言辭ハ尙ホ一層ノ不明瞭ヲ加ヘタリ、其第一ノ困難ハ左ノ如シ、此關係人ニ於テハ被告人ニ於ケルカ如ク二個ノ訴訟アリ、即チ此關係人カ訴訟ノ挑撥者又ハ補助者トシテ連結スル所ノ刑事訴訟及ヒ損害賠償ニ關スル訴訟是レナリ、而シテ其結局ニ於テハ此訴訟ノ一ハ己レニ利益アリテ他ノ一ハ不利益ナルコトアルヘク又ハ之ニ反スルコトアルヘシ、我輩ハ爲ニ言ハントス觀察スヘキモノハ刑事訴訟ノ費用ニ付キテハ刑事訴訟ノ結局ナリ又損害賠償ノ請求及ヒ各關係人カ互ニ計算セサル可カラザル所ノ各自ノ權利ノ防護ニ關スル費用ニ付キテハ此損害賠償ノ請求ノ結局ナリト

第二ノ困難ハ左ノ如シ、刑事訴訟ニ關シテハ民事原告人ハ罰セラル、ノ問題アルコトナシ、我輩ハ民事原告人ハ此訴訟ノ結局ヨリシテ刑事ノ訴訟ハ誤リテ起サレ隨ヒテ被告人ハ刑事裁判ノ費用ニ免カレサル可カラサル事ノ出ツル毎ニ輒チ之ニ敗訴シタリト謂フ可シ、我輩ハ又民事原告人ハ之ニ反シテ訴訟ノ結局ヨリシテ刑事ノ訴訟ハ被告人ノ過失ニ因リテ正當ニ起サレ隨ヒテ被告人ハ縱令總テノ刑ヲ免ル、モ刑事裁判ノ費用ヲ負擔セサル可カラサル事ノ出ツル毎ニ輒チ此點ヨリ觀レハ前段ニ反シテ勝訴ヲ爲シタリト謂フ可シ

我主持スル所ノ純粹ノ原則ハ右ノ如シ、此原則ハ民事原告人ト被告人トノ關係ニ於テ費用負擔ノ問題ヲ定ムルニ充分ナルヘシ、但シ國庫ニ對スル關係ニ關シテハ我成文法ノ正條ハ刑事裁判ノ費用ノ拂戻ニ付キ國庫ノ利益ノ爲メニ例外ヲ設ケタリ

實ニ我治罪法ノ三個條(第二千三百二十八號第四ノ第七項挿註ニ擧ケタル第六十二條第百九十四條第三百六十八條ヲ觀ル可シ)ハ千八百八十八年以來民事原告人ノ敗訴シタル時ニアラサレハ之ヲシテ國庫ニ對シ刑事裁判ノ費用ヲ償却スルノ義務ヲ負ハシメス、此場合ニ於テスラ之ヲ換言スレハ我國ニ於テ社會ノ利益ノ爲メニ檢察官ニ依リテ行ハル、所リ刑事起訴ノ敗績ノ場合ニ於テスラ、直接ノ呼出ニ因リテ訴訟ヲ起シタル者ハ民事原告人ナルヤ又ハ民事原告人ハ單ニ之ヲ挑撥シタルノミナルヤ又ハ後チニ至リ之ニ附帶スルニ過キサリシ

ヤヲ區別スルコトナクシテ、總テノ費用ヲ民事原告人ニ償却セシムルハ既ニ是レ一個ノ酷ナル徵收ナリトス、

然レ千八百八十一年ノ布令ハ此徵收ヲ重クシ且ツ之ヲ其極端ニ至ラシメタリ、即チ此布令ハ民事原告人ヲシテ其敗訴シタルト否ラサルトニ拘ハラズ國庫ニ對シ自ラ刑事裁判ノ費用ヲ拂フノ義務ヲ負ハシム但シ法律上之ヲ拂フノ義務アル者ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシトナセリ(一)

(二)重罪輕罪違警罪裁判ノ支配及ヒ一般ノ費用額ニ付キテノ規則ニ關スル千八百八十一年六月十八日ノ布令(第五百五十七條 民事原告人ハ其敗訴シタルト否ラサルトニ拘ハラズ自ラ審問及ヒ裁判書ノ謄本ト送達ニ關スル費用トヲ負擔セサル可カラス、但シ刑ニ處セラレタル被告人及ヒ犯罪ノ民事相當人ニ對シテ其請求ヲ爲スコトヲ得)

此最終ノ規則ハ違警罪及ヒ輕罪ニ關スル訴訟ニ就キテ尙ホ存スル所ノモノナリ、但シ陪審ニ附セラル、事件ニ就キテハ千八百三十三年改正ノ法律ハ之ヲ削除シ民事原告人ハ單ニ敗訴シタル時ニ限り國庫ニ對シテ刑事裁判ノ費用ヲ償却スルノ規則ニ復シタリ(一)

(二)治罪法(第三百六十八條 敗訴トナリタル重罪被告人又ハ民事原告人ハ國ト相手方トニ對シテ費用ヲ言渡サル可シ)

陪審ニ附セラレタル事件ニ於テハ敗訴トナラサル民事原告人ハ決シテ費用ヲ負担セサルモノトス

千八百十一年六月十八日ノ告令書ニ據リ民事原告人ヨリ其費用ノ金高ヲ附託シタル場合ニ於テハ之ヲ民事原告人ニ返還ス可シ

刑事裁判ノ費用ヲ立換ヘ又ハ豫納シ又ハ國庫ニ拂ヒタル所ノ民事原告人ヨリ被告人ニ對シテ之レカ償還ヲ請求スルノ權ヲ有スルヤ否ヤヲ知ラント欲セハ刑事訴訟ノ結果ヨリシテ被告人ハ此費用ニ處セラレタリシヤ否ヤヲ取調ヘサル可カラズ、若シ被告人ハ費用ニ處セラレタルキハ請求權ハ成立ツ、若シ之ニ處セラレサルキハ請求權ハ成立タズ、而シテ此場合ニ於テハ刑事裁判ノ費用ハ他ノ孰レノ路ニ由ルモ決シテ被告人チシテ償還セシムルコトヲ得サルヘシ、其他被告人ニ對シ損害ヲ加ヘタル事實ニ付キ民事上ノ處斷アリタル時ト雖モ亦同シ何トナレハ訴訟ノ結局ニ依リ刑事ノ起訴及ヒ刑事裁判ノ費用ナル以上ハ此起訴及ヒ此費用ハ被告人ニ對シ誤リテナサレタルコトハ明示セラレタレハナリ

(第二千三百二十八號第五)我輩ハ今刑事原告人ニ關スル損害賠償及ヒ費用ニ付キ論ズヘシ世人一般ニ我公法ニ於テハ刑事訴訟ニ於テ刑事原告人ノ敗訴シタル時ハ唯其任セラレタル職務ヲ執行スルニ過キサル所ノ檢察官ノミナラス、其名ヲ以テ公訴ヲ行フ所ノ政府ト雖

モ決シテ被告人ニ對シ損害賠償ニモ費用ニモ處セラレ可カラストノ格言ヲ以テ遺傳ノ格言ト爲シテ之ヲ尊奉ス、但シ檢察官ニ惡意アリトシテ之ヲ被告トスル訴訟ノ特別ノ權利ハ此限リニ在ラス、茲ニ論スル所ノ費用ハ被告人ノ辯護上ノ費用ノミニ係ル、何トナレハ他ノ刑事裁判ノ費用ハ被告人ノ放免セラル、時ハ或ハ民事原告人ニ於テ或ハ政府ニ於テ負擔スルヲ以テナリ

然レモ當時人ノ所謂ル無辜ノ被告人ニ對シ社會ニ於テ爲スヘキ賠償ノ問題ハ十八世紀ノ哲學ニ依リ理論上甲是乙非頗ル囂々タル所ノモノナリ法理上ヨリ之ヲ考フレハ論題ノ眞實ノ困難ヲ與フル所ノモノハ放免スルニハ微少ノ疑ヲ以テ足レリトスルコトヲ要求スル所ノ刑法其物ノ本然ノ原則ニ從ヘハ、放免、免許ハ被告人ノ無辜ナル意味ヲ表セサルコト是レナリ事實上被告人ノ無辜ニアラサル場合ハ甚々多キニ居ルナラン、被告人ハ唯有罪ト認メラレザリシト云フニ過キス(第八百八十七號參觀)然ラハ則チ二個ノ種類ノ放免即チ一ハ無辜ト宣言スル所他ノ一ハ單ニ有罪ト認メラレズト宣言スル所ノ二個ノ種類ノ放免ヲ設ケサルニ於テハ(二)到底政府ヲシテ損害賠償ニモ辯護ノ費用ノ拂戻ニモ處セシムルコトニ考フルコトヲ得サルヘシ、而シテ此二種ノ區別ハ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ至リテハ寧ロ爲スコト能ハサルニハ非サレモ爲メニ無數ノ種々ノ駁議ヲ來スヘシ、

(一) 這ハ無辜ノ宣告ト有罪ト證明セラレストノ宣告トヲ區別スル所ノ蘇格蘭ニ存スル所ノ法ナリ

然レモ右ノ區別カ必然裁判所ノ判定其物ヨリ生シ社會カ嚴格ニ賠償ノ義務ヲ有スヘキ所ノ場合アリ、即チ裁判上ノ迷誤ノ認ラレ被刑者ノ無辜カ裁判上ニ於テ公言セラル、所ノ再審ノ場合はレナリ、此點ハ異日之ヲ講究スヘシ

(第二千三百二十八號第六) 返還、賠償及ヒ費用ニ關スル處斷ハ刑事ノ起訴ニ付キ判決スル所ノ裁判其物ニ因リテ言渡サレサル可カラス(治罪法第百六十一條第百六十二條第百九十四條第百九十五條第百五十八條第百六十六條ヲ觀ル可シ)但シ第百五十八條及ヒ第百六十六條ノ正文其物ニ依リテ見ルカ如ク裁判所若クハ裁判院ハ損害賠償ノ言渡ヲ爲シ而シテ其算定ハ或ハ鑑定ニ因リテ爲スヘキモノトシ或ハ指名シタル裁判官ノ報告ニ因リテ爲スヘキモノトシ又或ハ他日ニ爲スヘキモノトシテ之ヲ延ハスニ付キテハ毫モ妨ケアルナシ、費用ニ付キテハ治罪法第百六十二條第百九十四條ニ所謂(費用ハ同一ノ裁判ヲ以テ之ヲ算定ス可シ)トノ規則ハ直チニ算定シ得ヘキ者ノミニアラサレハ之ヲ遵守スルヲ要ス、何トナレハ千八百十一年六月十八日ノ布令第百六十三條ハ必要ナル場合ニ於テハ直チニ後チニ爲スヘキモノトシテ拂戻ニ付キ執行ノ式文ヲ有スル所ノ書面ヲ交付スト雖モ而モ他日ニ

算定スルコトヲ許セハナリ

返還及ヒ賠償ニ關スル處斷カ民事拘留若クハ連帶ニ依リテ保證セラレ又ハ罰金ニ對シ先取權ヲ來ズ所ノ場合ニ關スルモノニ付キテハ我輩ハ既ニ第千五百八十二號以下ニ於テ舉示シタル所アリ就キテ觀ルヘシ、千八百六十七年七月二十二日ノ法ハ一般ニ民事拘留ヲ廢止シタレトモ罰金、返還及ヒ損害賠償ノ徵收ニ付キ刑事ニ於テ此拘留ヲ存シタリ、然レモ我輩カ既ニ陳述シタル原則ニ從ヒ刑事處斷ノ場合ノミニ於テ然ルモノナルコトハ論ヲ待タズ、但シ民事裁判所ニ於テ刑事裁判所ノ認メタル犯罪ノ賠償トシテ其處斷ヲ言渡ス所ノ場合(第五條)モ亦右ニ同シ此法律ハ新タニ之レカ施行ト期限トヲ定メタリ(第三條ヨリ第十三條ニ至ル)

法律ニ於テ今日尙ホ存スル所ノ民事拘留ハ、我輩ノ之ヲ知ルカ如ク、連帶ト共ニ費用ノ處斷ニモ適用セラル、千八百六十七年ノ立法者ハ不注意ナル寬裕ニ因リ民事拘留ハ政府ノ爲メニスル費用ノ償却ニ付キ決シテ之ヲ爲ス可カラスト定メタリ(第五條)是レヨリシテ徵收セラレサル費用アリテ毎年殆ント百萬フランノ損失ヲ生シタリ、千八百七十年十二月十九日ノ法ハ費用ノ徵收ニ付キ政府ノ爲メニ此執行ノ方法ヲ再設シ而シテ我輩政上國庫ノ負擔ニ勝ヘサリシ所ノ右ノ損失ヲ止メシメタリ、連帶ハ此同一ノ費用ニ對シテハ我輩カ刑法第五

十五條ノ言辭ヨリ論シタル所ノ制限(第一千五百八十四號參觀)ヲ適用スヘキモノニアラザル
トハ千八百十一年六月十八日ノ布令第五百五十六條ヨリ出ツ、費用ノ徵收ニ付キテノ此連帶
ハ違警罪事件ニ於テモ重罪又ハ輕罪事件ニ於テモ且ツ共正犯人又ハ從犯人ニ對シ費用ニ關
スル處罰アリタル總テノ場合ニ於テ言渡サレサル可カラズ(一)

(二)千八百十一年六月十八日ノ布令(第五百五十六條)費用ニ關スル處斷ハ諸般ノ訴訟ニ於
テ總テ同一ノ事件ノ本人又ハ從犯人ニ對シ且ツ犯罪ニ付キテノ民事担当者ニ對シ連帶ヲ
以テ之ヲ言渡ス可シ

其他政府ニ於テ爲ス所ノ刑事裁判ノ費用ノ徵收ハ重罪事件ニ於ケルト輕罪事件ニ於ケルト
違警罪事件ニ於ケルトヲ別タス、此費用ノ償却ニ處セラレタル者ノ動産ニ關シテモ不動産
ニ關シテモ特權ニ因リテ保護セラル(一)第一千五百八十五號參觀(千八百七十九年九月五日ノ法ハ
此特權ハ動産ニ關シテハ民法第一千二百一一條ニ於テ定メタル一般ノ特權ノ後チニ直チニ置ク
ヘキモノト定メ、而シテ被刑者カ自己ノ防護ノ爲メニ拂フヘキ費額ノ後チニ在ルヘキコトヲ
附加シタリ、然レハ此費額ハ其物自体ニ於テハ他ノ衆債主ニ對シテ特權ヲ有セス、是レ我輩
カ第一千五百八十五號ニ於テ罰金ニ對シ返還及ヒ賠償力有スル所ノ先取權ノ事ニ付キ舉ケタ
ル所ノ規則ニ(同シカラサルモ、少ナクモ)類似シタル順序ニ依ルヘキ所ノモノナリ

(一)重罪事件輕罪事件及ヒ違警罪事件ニ於テ國庫ノ爲メニ裁判費用ノ徵收方法ニ關スル
千八百七十九年九月五日ノ法ヲ觀ル可シ

第九節 欠席裁判

(譯者曰ク、原書ニハ「ジュージュマンシ、バル、デラコ」(輕罪違警罪ノ欠席裁判)
ト「ジュージュマン、バル、コンチヌマッス」(重罪ノ欠席裁判)トフニ語アリテ輕罪
違警罪ノ欠席裁判ト重罪ノ欠席裁判トヲ區別シタリ、今之ヲ譯スルニ方リ、
此ノ如ク相分ツヘキ適當ノ語ナキヲ以テ單ニ欠席裁判ト譯シタリ)

(第一千三百二十九號)「規則ニ適シテ刑事裁判所ニ召喚セラレタル被告人ハ其出頭セサル
時ハ不在ニ於テモ裁判セラルヘシトノ規則ハ、我輩ノ既ニ知ルカ如ク、出頭スルノ義務ニ對
シテ最モ論理ニ適シタル制裁ヲ組成シ、且ツ起訴ニ於ケル各異ノ緊要程度ニ從ヘル各異ノ
細目ヲ以テ我三種ノ裁判所ニ適用セラル、是レヨリシテ輕罪違警罪欠席裁判及ヒ重罪欠席
裁判出テタリ

各異ノ細目ノ上ニ於テ普通ノ一般ノ原則存ス、我輩ハ此原則中ニ就キテ左ノ者ヲ舉示ス可シ
緊要ナル第一ノ條件、被告人ノ裁判所ニ召喚セラレタルコト、被告人ハ程式ノ執行ト遲滯者
ト見做サル、爲ニ必要ナル猶豫期限ノ遵守トヲ以テ、規則ニ適シテ召喚セラレタルコトヲ要

ス、否ラサレハ則チ輕罪違警罪ノ欠席裁判モ重罪ノ欠席裁判モアルコトヲ得サルヘシ(一)
 (二)千八百七十三年ノ埃太利法典(第四百二十七條)ハ被告人ノ既ニ豫審ニ於テ取調ヲ受
 ケ且ツ辨論ニ出席スルノ送達書カ本人ニ交付セラレタル時ニアラサレハ重罪欠席ニ依リ
 テ處罰スルノ權能ヲ規定セス又此條件中ニアルモ欠席ノ治罪手續ハ欠席裁判カ五年ノ禁
 錮ヨリ重キ刑ニ至ラサル時ニアラサレハ之ヲ許サス羅馬ニ於テ不在ノ被告人ニ對シ裁判
 スル時追放ノ刑ノ外ニ及フコトヲ得サリシハ亦右ノ如シ此制限ハ我法律ニ於ケルカ如ク被
 告人ノ出頭ノ單ナル事實ニ因リテ欠席裁判ノ處罰ヲ排棄セシメスシテ而モ被告人ヲシテ
 抗拒ス可カラサル妨害ヲ證明スルノ責任ヲ負ハシメテ(同第四百二十七條)以テ之ヲ或ル
 期限内ニ故障ヲ申立ツルコトニ限制スル所ノ法律ニ於テハ充分ニ其理由アリトス
 故ニ違警罪及ヒ輕罪ニ於テ實際ノ裁判例ノ困難ハ左ノ問題ニ歸着ス、即チ、召喚アリタリ
 シヤ(被告人ノ利益ノ爲メニ使用セラル、最モ簡ニシテ最モ費用ヲ要セサル方法タル單ホ
 ル告知ハ、被告人ヲ欠席ノ位地ニ置クニ足ラサルモノトス)、召喚ハ有効ナリシヤ、特ニ法律
 上ノ猶豫期限ヲ遵守シタリシヤ、又被告人ノ知り得ヘキ條件ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ召喚
 狀ヲ贖本ヲ交付シタリシヤト云フノ問題はレナリ、又重罪公訴ニ關シテハ被告人ヲ欠席ノ
 位地ニ置クニ必要ナル諸般ノ訴訟手續ヲ確的ニ執行シタリシヤト云フノ問題アリ、

此ノ欠席ノ訴訟手續ノ規則ニ適合シタルヤ否ヤノ問題ハ、必然、本案裁判ニ至ル以前裁判
 所ニ於テ決セラルヘキモノトス、這ハ治罪法第四百七十條ノ正文ヨリ出ツル規則ナリトス
 規則ニ適合セサルコトヲ認メタル場合ニ於テハ、我裁判例ハ我種々ノ裁判所ノ間ニ左ノ指示
 スヘキ差異ヲ置ク、即チ、違警罪裁判所又ハ輕罪裁判所ハ間斷ナキ裁判所ナルヲ以テ、規則
 ニ適合セサル點ヲ修補セシコトヲ命シ、而シテ其間事件ノ裁判ヲ中止セサル可カラズ、重罪
 院ハ定期ノ裁判所ナルヲ以テ、欠席ノ訴訟手續ノ無効ヲ言渡シ、且ツ其法律ニ違ヒタル最舊
 ノ所爲ヨリ更ニ再ヒ其手續ヲ始ム可キコトヲ命令シテ其職務ヲ終ル(治罪法第四百七十條)
 第二ノ條件、規則ニ適シテ被告トナリ刑事裁判所ニ召喚セラレタル被告人ノ方ヨリシテ、
 此召喚ニ應セサルコト是レナリ
 茲ニ於テハ被告人ヲ欠席者ト爲ス所ノ事實ハ如何ナルモノナルヤヲ知ルニ係ル、
 這ハ是レ尙ホ違警罪及ヒ輕罪ニ於テ實際ノ一二ノ困難ヲ免カレサル所ノ一問題ナリトス、
 實ニ此裁判所ニ於テハ被告人ハ如何ナル方法ヲ以テシテモ全ク出頭セサルコトノ生ズルコトア
 リ、又法律上代人ヲ許サ、ル所ノ場合ニ於テ代人ヲ出頭セシメタルコトノ生ズルコトアリ、又代
 人ニ與ヘタル代理ノ不適法ナルコトノ生ズルコトアリ、總テ此等ノ場合ニ於テハ茲ニ「出頭ナキ
 ニ因リテノ欠席」アリト云フ、我裁判例ハ違警罪ニ必要ナル特別ノ代理ニ對シテハ必ラス

シモ此代理が文書ニ依リテ與ヘラル、コナ望マス、而シテ情狀及ヒ、人ノ地位ヨリシテ誠ニ此特別ノ代理ノ証明セラレタル時ハ日頭ヲ以テスル者ヲモ採用ス、隨ヒテ此時ニ於テハ裁判ヲ對審ト看做ス、輕罪ガ、禁錮ノ刑ヲ來スヘキ種類ニアラスト雖モ、輕罪裁判所ガ被告本人ノ出頭ヲ命シタルノ場合(治罪法第百八十五條)ニ於テハ、我輩ハ此出頭ヲ以テ審問ノ單ナル處分ト看做サスシテ之ヲ裁判所ニ於テ對審ヲ以テ訴訟ノ取調ヲ爲スニ必要ナリト判シタルモノト看做ス、依リテ被告人ハ自ら出頭スルノ普通ノ義務中ニ在リ、而シテ若シ之ニ應セサル時ハ、縱令其代書人ハ現在ナルモ、我輩ハ茲ニ欠席裁判アラサル可カラスト思考スル所ノ者ト意見ヲ同シス、

又被告人ハ、裁判所ニ出頭シタルモ、茲ニ欠席ヲ爲スノ權能ヲ使用シ而シテ本案ニ於テ辯護スルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ爲サ、ルコトノ生スルコトアリ、此場合ニ於テハ人茲ニ辯護セサルニ因リテノ欠席アリト云フ、此場合ニ於ケル實際ノ困難ハ、如何ナル場合ニ於テ對審裁判トナサシメメニ本案ニ於ケル辯護ヲ組成スルニ足ルニ至ルマテ辯護カ行ハレタリシヤ又如何ナル場合ニ於テ欠席裁判ト爲スニ至ルマテ此性質ハ虧缺スルヤヲ辨別スルニ在リ、例ヘバ被告人ハ裁判所ノ管轄權ヲ争ヒ又ハ其拒絕セラレタル所ノ延期ヲ請求スルニ止リテ本案ニ關シテハ欠席ヲ爲シタル時ノ如キ是レナリ、此類ノ種々ノ困難ハ重罪欠席ノ事實ニ於テ顯ハル

、モノニアラス、何トナレハ重罪ノ裁判ニ就キテ必要トスル所ノモノハ總テ辯論中被告本人ノ現在ナレハナリ、

第三ノ一般ノ規則 被告人ノ欠席ハ審案スルコトナクシテ處罰スルノ一理由トナラス、共和

紀元第三年十一月四日ノ布令ハ欠席者ハ法律上有罪者ト看做シテ之ヲ罰スヘキコトヲ命ス、而シテ之ニ付キ民撰議院ニ於テ與ヘタル所ノ理由即チ(欠席者ハ自ら裁判シタリ自ラ有罪者ト公言シタリ)トノ理由ハ革命ノ破壞ノ時代ニ屬シ、公正ノ裁判ノ時代ニ屬セズ、今ヤ裁判所ハ欠席者ノ有罪トモテ、所爲チ事實ニ於テ取調ヘ法律ニ於テ考定シ、且ツ此取調ノ結果ニ從ヒテ之レカ判定ヲ言渡サ、ル可カラズ、

故ニ違警罪裁判所又ハ輕罪裁判所ハ、欠席者ヲ處罰シ得ルノミナラス、尙ホ之ヲ公訴ヨリ放免シ法律上ノ宥恕ヲ認メ酌量減刑ノ情狀ノ成立ヲ宣言シ隨ヒテ刑ヲ減輕シ得ルコトハ、我國ニ於テ異論アラサル所ナリ、欠席者ニ對シテハ重罪院ニ於テモ亦同シ、但シ我輩ガ下ニ舉ケントスル所ノ例外ノ理由ニ因リ酌量減輕ノ情狀ニ關シテハ議論アリトス、
原則トシテ此審案及ヒ判定ノ權利ヲ定メタル以上ハ、人左ノ事ニ付キテ疑問ヲ發スルコトヲ得可シ、即チ此審案及ヒ判定ヲ以テ原則トスル以上ハ欠席ニ因リテ訴訟ニ於テ辯護人ヲ許用スルコト、證人ノ口頭ノ陳述ヲ聽取スルコト、陪審ノ參加スルコトヲ以テ適當トスルヤ又ハ適

當トセサルヤト云フノ點是レナリ、而シテ此點ハ頗ル種々ノ議論アル所ナリトス、其不適當ナリトスル議論ノ基ク所ハ此三者ハ共ニ對審ニ就キテ要スル所トス、而ルニ欠席ニ因リテノ訴訟ニ於テハ對審ノ性質ヲ欠クカ故ニ之ヲ不適當ト爲スト云フニ在リ、實ニ人左ノ如ク云フコトヲ得、即チ辯護人ノ許用ニ對シテハ、曰ク、之ヲ許用スルハ對審ノ實ヲ有セサル所ノ訴訟手續ニ與フルニ對審ノ外形ヲ以テス、何トナレハ真正ノ對審ハ被告人ノ現在ナルニアレハナリ、證人ノ口頭ノ陳供ニ對シテモ亦右ト同一ニ云フコトヲ得、何トナレハ口頭ノ陳供ノ主タル價值ハ被告人ト相對シテ陳供スルニアレハナリ、然レトモ此辯護人ノ許用ト證人ノ口頭ノ陳供トニ就キテハ欠席裁判ニ因リテ行フ所ノ處罰ノ重大ナル結果ト欠席裁判ノ訴訟手續ニ於テモ尙ホ法律ヲ以テ整然ト且ツ明瞭ニ此二個ノ審問方法ヲ規定スルハ容易ナルトヲ觀ルルハ、我輩ハ學問上ノ規則トシテ欠席裁判ヨリ此二個ノ方法ヲ排斥セサル可カラサルコト定ムルニ躊躇スヘシ、但シ我輩ハ我カ裁判構成ノ方法ニ於テハ欠席裁判ヨリ對審ノ參加ヲ排斥スルニ躊躇セサルヘシ、何トナレハ對審ノ職役ノ固有ノ性質ハ公行ニ對審ニ且ツ可及的完全ナル辨論ニ對シテ口頭ヲ以テ宣告スヘキモノニシテ、此辨論ハ其判決カ「ゲ」エルシクト」ノ名稱及ヒ効力ノ價值ヲ取り得ル所ノ唯一ノ條件ナレハナリ、欠席裁判ニ對審ヲ用サルモノトスレハ事實上其判決ノ脆薄ナルヤ此ノ如シ、然リ而シテ法律上ニ於テ

モ亦之ヲ脆薄ノ者トナサ、ルヲ得サルナリ

我成文法ニ於テ此三者ニ就キ現ニ規定スル所ハ不適當ナリトスルコトナリ、即チ欠席裁判ハ公開ノ法廷ニ於テ辯護人ナクシテ之ヲ行フ(此事ハ千七百九十一年ノ法及ヒ共和紀元第四年第二月ノ法典ニ於テ之ヲ定メタリ、其後千八百八八年ノ治罪法ハ第四百六十八條第一項ニ於テ左ノ如ク再定シタリ、曰ク(如何ナル代辯人、如何ナル代書人タリトモ重罪欠席者タル被告人ヲ辯護スル爲メニ出席スルコトヲ得ス)ト、書面上ノ豫審ノ朗讀ニ因リテ之ヲ行フ(共和紀元第四年第二月ノ法典ハ此點ニ付キ立憲議院ノ法律ヲ修正シ且ツ其第四百七十一條ニ於テ左ノ如ク言ヒタリキ、曰ク(此場合ニ於テ證人ハ口頭ヲ以テ陳述セサルヘシ)ト、我カ現行ノ治罪手續モ亦然リト爲ス、又我カ治罪法第四百七十條末項ニ依レハ(陪審人補助ナク又其參涉ナクシテ之ヲ爲ス可キモノトス)而シテ此第四百七十條ハ此點ニ付キ立憲議院ノ法ト共和紀元第四年第二月ノ法典トニ有ラサリシ所ノ新制度ナリトス此二法ニ據レハ陪審ヲ用ルルコトハ欠席ニ因リテノ公訴ノ裁判ニ就キテモ亦維持セラレタリキ、我治罪法ハ全ク辯護人ノ參加ヲ禁シ、而シテ此點ニ付キ千七百九十一年ノ法及ヒ共和紀元第四年第二月ノ法典ノ條則ニ從ヒ第四百六十八條及ヒ第四百六十九條(二ノ正文ニ於テ欠席被告人ノ親屬又ハ朋友ニ許スニ欠席被告人ノ爲メニ中止ヲ得ル目的ヨリシテ欠席被告

ハカ裁判所ヲ召喚ニ應スル能ハサル位置ニ在ルコトヲ證明スルコトヲ以テスルモノトシ、
 (二)治罪法(第四百六十八條) 如何ナル代辯人如何ナル代書人タリトモ重罪欠席者タル被
 告人ヲ辨護スル爲メニ出席スルコトヲ得ス。此等ノ辯護人ハ其ノ辯護ニ當リテ其ノ辯護人
 若シ重罪被告人ノ歐羅巴ニアル佛蘭西ノ領地内ニ在ラス又ハ眞ニ出席スルコト能ハサル時
 ハ其血屬親又ハ朋友ヨリ其辨解ノ理由ヲ申立テ、之レカ正當ナル旨ヲ辨論スルコトヲ得可
 シ。
 (第四百六十九條) 若シ裁判所ニ於テ其辨解ノ理由ヲ正當ナリト爲シタル時ハ其辨解人
 理由ト場所ノ距離トニ準シテ定ム可キ時間中其重罪被告人ノ裁判及ヒ其財産ノ附託ヲ延
 ハス可キ旨ヲ命令ス可シ。

我國ニ於テハ大審院ノ判決ニ因リ單ニ法官ノミナリテ組織スル重罪院ハ欠席ニ因リテハ
 重罪公訴ノ裁判ニ於テ陪審ノ現在セサルヲ以テ、重罪ニ付キ罰スベキモノト認メタル欠席
 被告人ニ酌量減輕ヲ爲スノ權限ヲ有セサルノ裁判例トナレリ。此決定ハ治罪法第三百四十
 一條及ヒ刑法第四百六十三條ノ文法上ノ解釋ニ基キタルモノナリ、實ニ此二條ノ酌量減輕
 ノ宣言ニ付キテハ唯陪審ニ對シテノミ之ヲ規定シタリ、然レトモ我輩ハ其ノ權限ヲ有セ
 ト云ヘル解釋ニ從フコトヲ拒ム者ノ意見ニ同意ス、此引用シタル數條ハ對審裁判ノ制規ニ從

ヒタル場合ニ付キテノミ規定シタルモノニシテ欠席ニ因リテノ裁判ノ場合ニ付キテハ毫モ
 規定スル所アラズ、而シテ我輩ハ茲ニ法理上ニ於テ裁判權ノ變更ハ刑罰ノ規則ヲ變更スル
 ノ効果ヲ生スルコトヲ得スト云ヘル一般ノ原則ニ因リテ立論ス(第一千二百四十二號參觀)抑々
 戒嚴令實施ノ結果ヨリシテ軍人ニアラサル者ニ對スル普通法ノ重罪ニ係ル公訴ハ、軍法會
 議ニ因リテ之ヲ裁判スル時ハ、此軍法會議ハ陪審ヲ用ヰスシテ訴訟手續ヲ行フト雖モ而モ
 其酌量減輕ヲ宣言シ刑法第四百六十三條ヲ適用スルノ權限ヲ有スルコトニ付キテハ何人ト雖
 モ異議ヲ唱フル者ナク陪審ニ付キテノミ規定スル所ノ此條ノ文法ヨリシテ毫モ反對ノ意味
 ナ引致スルコトナキハ疑ヒラ容レサルナリ、我欠席裁判ノ場合ニ於テモ亦同ク重罪院ハ要ス
 ルニ陪審ニ代ルモノナルヲ以テ其職役ニモ亦代ルヘク乃チ欠席被告人ヲ以テ無罪ナリト宣
 言スルコトヲモ得、加重ノ情狀ヲ排斥スルコトヲモ得、法律上ノ宥恕ヲ認ムルコトヲモ得、公訴ノ元
 素ヲ排斥シ且ツ然ク公訴ニ係ル事實ヲ以テ輕罪又ハ違警罪ニ過キスト爲スコトヲモ得、總テ
 對審訴訟ニ於テ陪審ノミニ屬スル所ノ威權ヲ有ス、然リ而シテ千八百三十三年ノ法以來其
 制度カ一般ニ普通法ノ事件ニ及ヒ且ツ三種ノ犯罪ニ適用セラル、所リ酌量減輕ニ關シテ前
 段ト異ナルハ如何ナル故ソヤ
 (第一千三百二十九號第二) 欠席ニ因リテノ被刑者ノ位置ハ甚タ異ナリタル三個ノ方法ヲ影

響ヲ受クルコトヲ得而シテ此二個ノ方法ハ最モ屢々混淆スト雖モ而モ之ヲ區別スルノ必要アリトス何トナレハ此二個ノ方法ハ全ク相異ナリタル規則ヲ以テ支配セラレサル可カラサレハナリ、第一ニハ、欠席人タル位置ノ已ム時ニ於テ終ラサル可カラサル所ノ權利ノ或ル中止又ハ財產ニ對スル或ル處分ニ因リテ、其影響ヲ受ク、而シテ此處分ハ處罰ノ後ニ在リテハ法律カ特ニ欠席人ノ位置ニ影響ヲ及ホサシムルモノニシテ欠席人タルノ位置其物ニ基キテ出ツル所ナリ、第二ニハ、欠席ニ於テ宣告セラレタル處罰ニ與フル所ノ假リノ執行ニ因リテ其影響ヲ受ク

第一點ハ、或ル度ニ在リテ正當ニシテ且ツ毫モ不必要ノモノアルコトナシ、但シ我國ニ於テハ輕罪欠席被告人ニ對シ毫モ之ニ類似スル條則アルコトナシ、陪審ノ組織ニ關スル千八百七十三年一月二十七日ノ法ハ其第二條第十號ニ於テ陪審トナルニ付キテノ不能力者ノ中ニ(拘留狀又ハ收監狀ヲ發セラレタル者)ヲ擧クルニ當リ、輕罪欠席ノ場合ヲ認ムルコトナクシテ單ニ合狀ノ場合ノミヲ認メタリ、而シテ其合狀ノ存スル間ハ欠席ノ有無ニ拘ハラスシテ其不能力者トナルモノトス、然レトモ重罪欠席人ニ對シテハ其位置又ハ其財產ニ影響ヲ及ホス所ノ多數ノ條則アリ、而シテ我輩ハ第一期即チ裁判ニ先タツ所ノ期ニ付キテハ已ニ之ヲ知ラシメタリ、且ツ尙ホ之

ニ陪審トナルノ不能力者ノ中ニ(重罪公訴及ヒ重罪欠席ノ位置ニ在ル所ノ者)ヲ列記スル所ノ此千八百七十三年二月二十七日ノ法第二條第六號ヲモ附加スルコトヲ得、シ、裁判ノ後チニ在リテハ、其裁判ノ處罰ニ係ル時ハ財產ニ對スル所ノ處分ハ更ニ一層ノ重キヲ加ヘ、而シテ夫ノ長ク繼續スル第二期ハ茲ニ於テ開始スルモノトス、實ニ財產ノ差押ハ治罪法第四百七十一條ノ正文其物ニ從ヒテ繼續スルハ誠ニ明瞭ナリ、但シ其裁判ノ後チニ於テハ官署ハ失踪者ノ財產ニ適用スヘキ民法ノ規則ニ從ヒテ右ノ財產ヲ支配スヘシ、官署ハ差押ノ終リタル時(其終ルコトハ差押後ノ事項ニ關係スルモノナリ)其財產ノ精算ヲ、權利アル者ニナサ、ル可カラス、共和紀元第四年第二月ノ法典第四百七十五條ニ於テハ其財產ヨリ生シタル果實ハ國庫ニ屬セシメタリシガ、治罪法第四百七十一條ハ此點ニ付明文ナキニ因リ右ノ沒收ヲ廢シタルモノト看テ、官署カ收納シタル果實ヲ已レニ屬スルモノトシテ留置スルノ權利ヲ有スルコトナクシテ其收受シタル果實ヲモ權利アル者ニ計算スヘキモノトス、要スルニ此現時ノ第四百七十一條ノ規則ハ千八百八年ニ於テ其起原ヲ民法第二十八條ニ取リタルモノナリ(一)

(二)治罪法(第四百七十一條)重罪欠席者ノ刑ヲ言渡サレタル時ハ其裁判執行ノ時ヨリ以來右重罪欠席者ノ財產ヲ失踪者ノ財產ト看做シテ其財產ノ如クニ之ヲ管理ス可シ而シテ

其重罪欠席ヲ濫除スル爲ニ附與セラレタル期限ノ終リシニ依リ刑ノ言渡ヲ廢止ス可ラサ
ル者下ナリタル後ニ至リ其財產受託者ノ計算ヲ當然ノ權利アル各人ニ爲ス可キ者トス
人、處罰ノ前後共ニ欠席人ノ財產、及ヒ權利ノ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス、例外ナクシ
テ全体ノ差押ヲ爲スハ、此財產ニ因リテ生活スル所ノ親屬ヲシテ屢々全ク窮乏ニ陥ラシメ
隨ヒテ直接ニ無辜ヲ罰スルニ至ルコトヲ注自シタリ、今ヤ所有權ハ勿論其果實ニ至ルマテ固
ヨリ國庫ニ屬セラレスト雖モ、右ノ處分ハ唯是レ差押ノ處分ナルニモ關ラズ尙ホ舊時ニ行
ハレタリシ一般沒收ノ感ヲ起サシム、抑々法律カ此差押ニ付キテ有シタリシ所ノ目的ハ、一
方ニ於テハ重罪欠席人ノ自ラ出テ來ランコトニ脅迫スルニ在リ、又他ノ一方ニ於テハ親屬又
ハ代理人カ重罪欠席人ニ其收入ノ一部分ヲ送付シ隨ヒテ其欠席ノ位置ヲ延長スルノ一方法
ヲ右欠席人ニ與フルコトヲ妨クルニ在リタリ、治罪法第四百七十五條ハ親屬ニ關シテハ重罪
被告人ノ妻、子、父又ハ母ハ其要用アル時ハ扶助ヲ受クルコトヲ得ト規定シ、而シテ其扶助料ヲ
規定スルコトヲ行政官署ニ委任シタリ(一)我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ民事裁判所ヲ此事ニ參加セ
シムル所ノ千七百九十一年九月十六日ノ立憲議院ノ條則(第二篇第九章第十三條)ヲ以テ適
正ト爲ス、何トナレハ我輩ハ親屬ノ利益ノ爲メニスル此部分ノ扶助ニ一層著明ナル權利ノ
性質ヲ與フルヲ以テ最モ正當ナリト信スレハナリ、且ツ我輩ハ最モ法律カ制限アル列記ニ

代フルニ一般ニ(親屬)ト云ヒタリシコトヲ好ム、何トナレハ兄弟姉妹又ハ叔父ノ財產ヲ一
般ニ差押フルニ付キ兄弟姉妹ノ一方又ハ羅馬法律ノ眞實ニシテ且ツ的切ナル語ノ如ク屢々
「ゴッパレン」トムナル所ノ姪カ其生活上ニ於テ甚シク痛苦ヲ受クルニ至ルコトアレハナリ、而
シテ行政官署ハ第四百七十五條ハ在ル有ルカ爲メニ此ノ如キ場合ニ於テ手ヲ袖ニシテ傍觀
セサルヲ得ス

(二)治罪法(第四百七十五條、若シ重罪被告人ノ妻子、父母ノ窮乏ナル時ハ其財產ヲ第三
ノ人ニ附託スル間、此等ノ者ニ其扶助料ヲ給與スルコトヲ得可シ)其扶助料ハ行政官ニ於テ之ヲ規定ス可シ)

第六百三十五條(譯者曰ク原書ニ第六百三十五條トアレトモ恐クハ第四百六十五條ノ誤リ
ナラン)ニ依リ重罪欠席ノ第一期ノ間、欠席人ニ對シテ規定シタル權利ハ中止又ハ禁止ハ總
テ繼續ノ處罰ノ後ニモ及フ、但シ此處罰ノ重キ時ハ之ニ他ノ禁止又ハ中止ノ附加シ來ルコ
アリ、而シテ此他ノ中止又ハ禁止ニ付キテハ我立法者ハ重罪欠席ノ被刑者ニ對シ或ル刑ノ
假執行ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シタリ
我輩カ舉ケ來リタル所ノ財產ノ差押又ハ第四百六十五條ニ規定シタル權利ハ中止又ハ禁止
ハ被告人ニ對シテ宣告シタル刑ノ如何ナル者タルヲ問ハス、即チ輕罪ノ一刑又ハ違警罪ノ

一刑ニ過キスト雖モ、苟クモ重罪欠席タル位置ノ排除セラレサル間ハ、法律上此重罪欠席ノ位置ニ影響ヲ及ボサシムル所ノ効果ナルニ因リ唯被告人ノ罰セラレタリト云フノ一事ヲ以テ第二期ノ間重罪欠席人ニ對シ其効果ヲ生スルコトニ注目スヘシ、但シ我輩カ以下論セントスル所ニシテ第二期ニ付キ思考スヘキ加重ニ關シテハ宣告セラレタル刑ニ附屬スルモノトス

「宣告シタル處刑ハ其回復ス可カラサル者トナラサル間ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス」ト刑法ニ於テ最モ高尚ナル道理上ノ一規則ナリトス、蓋シ刑ハ假リニ執行スヘキモノニアラサルナリ、此規則ハ欠席ノ處罰ハ對審ニアラサルヲ以テ隨ヒテ容易ニ取消ヲ受クヘキ所ノ欠席ニ因リテノ處罰ニ對シテ第一着ニ之ヲ適用セサル可カラズ、此欠席ニ因リテノ處罰ハ回復ス可カラサルモノトナラサル以前ニ假リニ之ヲ執行スルコトハ純理ヨリ見テ爲スコト能ハサルコトナリトス、

我輩ハ我成文法ニ於テ輕罪又ハ違警罪ノ刑ニ處セラレタル輕罪欠席人又ハ違警罪欠席人ニ關シテハ毫モ此規則ニ反對スル者アルヲ看サルナリ、此刑ハ監視、公權民權又ハ親屬權ノ或ル權利ノ禁止ノ如ク權利ノ失墜ニ成立ツト罰金又ハ禁錮ニ成立ツトヲ問ハス決シテ假リノ執行ヲ爲サルコトナシ

然レトモ若シ重罪欠席人カ或ル重罪ノ刑ニ處セラレ、時ハ此規則ハ已ニ遵守セラレズ、是ニ於テ平我輩ハ茲ニ著明ナル二個ノ例外ヲ看ル、即チ左ノ如シ

第一ハ此刑ハ如何ナルモノナルニ拘ハラズ苟クモ重罪ノ一刑ナル以上ハ、重罪欠席人ハ我カ刑法第二十八條ノ規則ニ因リテ假リニ剝奪公權ノ執行ヲ受ク、其餘ニ曰ク「有期徒刑、禁獄ノ刑、懲役ノ刑、追放ノ刑ヲ言渡シタル時ハ公權剝奪ヲ惹起スルモノトス」○公權剝奪ハ其刑ノ言渡ノ廢止ス可カラサルモノトナリタル日ヨリ之ヲ受ク可ク、又重罪欠席ニテ刑ヲ言渡サレタル場合ニ於テハ揭示ニ依レル執行ノ日ヨリ之ヲ受ク可シト

第二ハ、若シ處罰ハ無期ノ一刑ナル時ハ此重罪欠席人ハ養料ノ原由ニ因ルニアラサレハ無償ノ名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ贈與ヲ受クルコトニ關スル不能力ヲ假リ執行ヲ受クヘシ、這ハ千八百五十四年五月三十一日ノ法ニ因リテ尙ホ保持セラレタル准死ノ殘存シタル一部分ナリトス、但シ此假リ執行ハ揭示ニ因レル執行ノ日ヨリスルニ非スシテ千八百五十四年ノ法ノ左ノ末項ニ因リテ五年ノ後チニ爲スモノナリ、即チ曰ク「本條ハ揭示ニ因レル執行ノ後チ五年ヲ經過スルニアラサレハ重罪欠席ニ因リテノ被刑者ニ適用スルコトナシ」ト

重罪刑ノ他ノ附加ノ失權ニ關シ、特ニ此失權中ノ多數ヲ終リニ於テ繼續シテ來ル所ノ監視又ハ自由ヲ剝奪スルニ係ル總テノ重罪刑ニ其刑期間件ヲ所ノ禁治産ニ關シテハ、重罪欠席

ノ被刑者ニ對シ是等ノ刑ノ假リ執行ヲ爲スコトヲ得サルコトハ我法律ニ於テ重罪欠席ノ被刑者ニ付キテ毫モ規定スル所ナキヲ以テ充分ナリトス、即チ是等ノ刑ハ如何ナル刑ト雖モ回復ス可カラサルモノトナリタル處罰アルニアラサレハ執行スルコトヲ得スト云ヘル純粹的ノ規則ニ因ル、前段二個ノ例外ヲ看ルタニ尙ホ且ツ甚シキニ過キタルニ何ヲ以テ我成文刑法中ニ有ラサル所ノ他ノ附加刑ヲ前段ニ附加センヤ、是ヲ以テ裁判前又ハ如何ナル重罪ノ刑ナルニ拘ハラス其處罰ノ後チ重罪欠席人ハ禁治産ノ位置ニ在ラヌ加之此事ハ其財産ハ差押ヲ受ケテ禁治産者ノ財産トセスシテ而モ失踪者ノ財産トシテ支配セラル、ト云フヨリシテ自然ニ出ツル所ノモノナリ

(第二千二百二十九號第三) 回復スヘキ所ノ刑ノ此假リヲ適用ヲ以テ立法者ハ奇ナル困難ニ陥リタリ、即チ回復ノ條件ノ實行セラル、時詳言スレハ重罪欠席ニ因リテノ被刑者カ處罰ヲ取消サシムル爲メ自ラ其必要ナル期限内ニ出テ來リ又ハ逮捕セラレ隨ヒテ事件ヲ新クナル裁判ニ服セシムル時ハ前ノ重罪欠席ニ因レル刑ハ終ニ如何ニナルヘキヤ、又已ニ此刑ニ因リテ生シタル効果ハ如何ニナルヘキヤト云フ是レナリ、其假リニ適用セラレタル刑ノ直チニ已マサル可カラサルハ論ヲ俟タス、重罪欠席人ハ其出頭ノ時ヨリ最早此刑ヲ受クルコトナク其將來ノ運命ハ唯新裁判ニ因リテ支配セラル、ノミ

然レトモ已ニ生シタル所ノ効果ハ人之ヲ如何ント爲スヤ、剝奪公權ニ係ル所ノ者ニ付キテハ予ハ人ノ大ニ配慮シタルヲ見ス、之ニ付キ生スル效果ハ大概完成シタル事實ニ成立ツモノニシテ其完成シタル事實ニ付キテハ最早利益アル方法ヲ以テ回復スルコトヲ得ス、且ツ事物ノ自然ヨリシテ唯其效果ノマ、ニ承認セサル可カラス、若シ夫レ他ノ性質ヲ以テ顯ハル、所ノ稀有ナル効果、詳言スレハ回復シ得ラルヘキ所ノ効果ニ關シテハ我輩ハ一般ノ解除ノ條件ヲ之ニ適用スヘシ、

無償名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ受クルノ不能力ニ因リ其已ニ生シタル效果ニ付キテモ亦純理的ノ原則ニ從ヒ前段ト同一ナラサル可カラサルハ疑ヲ容レヌ然レトモ民事ノ准死ノ事ニ付キ民法第二十九條及ヒ第三十條ニ依リ又治罪法第四百七十六條第二項ニ依リ我成文法ニ於テ全ク右ニ異ナル所ノ一個ノ方法ヲ規定セラレタリ、即チ准死ハ重罪欠席人ノ出頭ノ日ニ於テ處罰カ回復ス可カラサルモノトナラサル以上ハ、將來ニ向ヒテハ固ヨリ止息スト雖モ、揭示ニ因リテノ執行ノ五年ノ後チ爲シタル所ノ准死ノ適用以來右出頭ノ日ニ至ルマテ准死ニ因リテ生シタル效果ハ回復ス可カラサルモノトシテ維持セラレタリキ、然ルニ今日ニ在リテハ、無償名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ受クルノ不能力ハ准死ノ一遺物ニ過キサズニ依リ、此不能力ニ對シテ右ノ方法ハ千八百五十四年五月三十一日ノ法ニ因リ廢セラレ

タリシヤ維持セラレタリシヤヲ知ラサルヘカラス

此問題ニ付キテハ親屬又ハ種々ノ利害ノ關係ヲ有スル者及ヒ民法學者ハ、剝奪公權ニ關スル問題ヨリハ一層太シク配慮シタリ、蓋シ其期限ノ間重罪欠席人ノ利益ノ爲メニ又ハ欠席人カ爲シタル所ノ生存中ノ贈與、遺囑ノ贈與ノ無効若クハ有効ニ關係スルヲ以テ屢々重大ナル財産上ノ緊要論難ニ係ルヲ以テナリ

我輩ハ治罪法第四百七十六條ノ第一項ノミニ基キテ論シ、且ツ民法ニ於テハ一般ニ准死ノミニ付キテ規定シタルヲ以テ民法ノ第三十條ト共ニ其餘ヲ廢セラレタルモノト爲シテ論シ、我輩カ今審査スル場合ニ於テ過去ニ付キテモ亦無償ノ名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ受クルノ不能力ノ効果ヲ消滅セシムル所ノ法學者ノ意見ニ同意ヲ表シ得ヘシト信ス、我輩ハ多クノ理由ニ基キテ必ラス當サニ此ノ如クナルヘキヲ欲ス、即チ第一ニハ我輩ノ見ル所ニ依レハ准死ノ此一遺物カ千八百五十四年ノ法ニ因リテ保持セラレタリトスルハ傷ムヘキヲニシテ且ツ其効果ヲ擴充ス可カラサルヲ以テナリ第二ニハ未タ回復ス可カラサルモノトナラサル所ノ處罰ニ因リ、揭示ニ因レル執行ノ五年ノ後ヲ假リニ此不能力ヲ適用スルコトハ純理的ノ原則ニ反スルヲ以テナリ、第三ニハ已ニ處罰ノ取消サレタルヲ以テ、是レヨリ刑ノ總テノ結果ヲ取消サルハ亦同シク右ノ原則ニ反スルヲ以テナリ、其他我輩ハ千八百五十

四年ノ法ハ此點ニ付キ單ニ其第二條ノ最終ニ於テ(本條ハ揭示ニ因リテノ執行ノ五年ノ後ニアラサレハ重罪欠席ニ因リテノ被刑者ニ適用セラレス)ト云ヒ而シテ充分ニ之ヲ明言セサルコトヲ認ム、此規定ハ法律ノ理由ノ説明、報告、會議ニ於テ皆ナ熱心ノ形跡ヲ殘スコナクシテ容易ニ經過シ了リタリ、然レトモ我輩ハ事實上當時ノ立法者ハ此不能力ノ事ニ關シ准死ノ點ニ於テ成立チシ所ノ者ヲ經過セシメタルヲ觀レハ此不能力ヲ維持スルヨリ外復タ他ノ意趣ナカリシコトヲ確信ス、立法者ハ刑事ノ此種類ノ失權ニ關シ當時存セシ所ニシテ今日尙ホ存スル所ノ遺傳ノ思想ノ中ニ在リテ進行セシナリ、我實際ノ多數ノ刑法學者ハ此ノ如キ疑問ヲ發スルヲ以テ我輩ヲ認メテ細目ニ入ルニ過キタリト爲サント疑ヲ容レヌ、且ツ特ニ實行セラレ、所ノ方法ハ少クモ確實ヲ有スルノ利益アルニ我輩ノ主張スル所ノ解除ノ方法ハ生存中ノ贈與又ハ遺囑ノ贈與ニ因リテ爲ス所ノ財産ノ移轉ニ付キテ恐ラクハ十五年間モ不確實ニテ存スレハナリ、若シ千八百五十四年ノ立法者ハ我輩カ舉ケ來リタル所ノ項ヲ規定シ而シテ其當時ニ至ルマテ實行セラレタリシ所ノ者ヲ廢止セント欲セシニ於テハ之ニ付キ他ニ其明文ヲ掲ケタランコト必セリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ我カ現時ノ成文法ニ於テハ揭示ニ因リテノ執行ノ五年ノ後ヲ無償ノ名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ受クルノ不能力者トナル所ノ重罪欠席ニ因リテノ被刑者ハ此日ヨリ其出頭ノ日ニ至ルマテ生シタル所ノ効果ニ關シ

テハ回復ス可カラサルモノナルヲ認メサルヲ得サルナリ、
 茲ニ問題トナリタル所ノ揭示ニ因リテノ執行ハ左ノ事項ニ付キ起算點トナル、即チ治罪
 法第四百七十一條ニ(裁判執行ノ時ヨリ)トアルカ如ク差押ヘタル重罪欠席人ノ財産ニ失踪
 者ノ財産ノ支配ヲ適用スル爲メニ 刑法第二十八條ニ(揭示ニ因リテノ執行ノ日ヨリ)トア
 ルカ如ク剝奪公權ヲ受ケシムル爲メニ 又千八百五十四年五月三十一日ノ法第二條ニ(揭
 示ニ因リテノ執行ノ五年ノ後チ)トアルカ如ク無償ノ名義ヲ以テ財産ヲ處分シ又ハ受ク
 ルノ不能力者ト爲ス所ノ五年ノ期限ヲ經過セシムル爲メニ 其起算點トナルモノトス、
 我輩ハ後ニ至リ、此揭示ニ因リテノ執行ハ如何ニ組織セラル、ヤ、又此執行ハ千八百五十
 年ニ於テ如何ニ他ノ者ヲ以テ之ニ代ヘラレタルヤヲ講スヘシ

第三篇 刑事ノ判定ニ對シテ爲スコトヲ得ル上訴ノ方法

(第二千三百四十號) 人此上訴ノ方法ヲ以テ民事訴訟手續ニ於ケルト同シク普通ノ上訴方法
 ト非常ノ上訴方法トニ區別ス、但シ其効果ニ於テ民事ト同一ノ差異ノ相生スルニハアラ
 ス、事件カ經過セサル可カラサル所ノ裁判權ノ種類カ規則上用ヲ盡サレサル間ハ普通ノ
 上訴方法アリトス、此種ノ上訴ニ於ケル直接ノ目的ハ事件ヲ裁判セシムルニ在リ、裁判權
 ノ種類カ用ヲ盡サレタル時ハ非常ノ上訴方法アリトス、此直接ノ目的ハ事件ヲ裁判セシム

ルニアラスシテ抗擊ニ係ル所ノ判定ヲ裁判セシムルニ在リ

第一章 普通ノ上訴方法

第一節 故障

重罪欠席ノ場合

(第二千三百四十號第二) 普通ノ上訴方法ハ其數二個ナリトス、其第一ハ、刑事上辯護ヲ爲
 ス爲メニ被告人ノ現在シタルコトヲナクシテハ、縱令其不在タル自己ノ過失ヨリ出タルモ、其罰
 セラル、ヤ回復ス可カラサル方法ヲ以テ罰セラル可カラズ、隨ヒテ此者ノ爲メニ裁判ヲ取
 消サシムルノ容易ナル一個ノ方法ヲ供セサル可カラズト云フノ思考ニ基キタルモノナリ
 (第二千二百七十一號參觀)

此上訴ノ方法ハ豫審ノ判定ニ對シテハ之レ有ルコトナシ何トナレハ茲ニ於テハ對審辯護ノ權
 利カ認めラレサルヲ以テナリ

此上訴ノ方法ハ違警罪事件及ヒ輕罪事件ニ付キテハ故障ノ稱呼ヲ以テ行ハル 重罪事件ニ
 關シテハ重罪欠席ニ因レル判決ニ關スル規則ニ從ヒテ行ハル

(第二千三百四十一號) 故障ハ回復(レト)ラクシヨシノ方法ト形容セラル、何トナレハ欠席ニ
 因リテ裁判セラレタル者カ抗擊ヲ受クル裁判ヲ與ヘタル裁判所ニ向ヒテ其裁判所カ自己ノ

判決ヲ回復セシメンカ爲メニ上訴ヲ爲スヲ以テナリ、此故障ハ或ハ被告人ニ於テ或ハ民事上責任アル者ニ於テ或ハ民事原告人ニ於テ之ヲ爲スヲ得、裁判所ニ在リテ常ニ代表スル所ノ檢察官ニ付キテハ茲ニ問題トナルコトヲ得サルヘシ

故障ノ期限ハ判定書送達ノ日ヨリ起算シ違警罪裁判ニ付キテハ三日輕罪裁判ニ付キテハ五日ナリトス此期限ハ法典ノ正文(第五百五十一條及ヒ第五百五十七條)ニ三日内ニ又五日内ニトアルヨリシテ完全ノ日ヲ有セサルノ結果ヲ生ス、又距離ノ理由ニ基ク日數ノ増加モアルコトナシ又故障ハ若シ故障人ノ出頭セサル時ハ第二ノ欠席ニ於テ第二回ニ之ヲ爲スヲ得サルヘシ、是レ人カ(故障ニ對スル故障ハ有効ニアラス)ト云ヒテ學問上ノ語ヲ以テ説明スル所ノモノナリ(治罪法第五百十條及ヒ第五百五十一條參觀又同第百八十七條及ヒ第百八十八條參觀)

八、學說ニ於テ時ニ重大ナル處罰ニ附セラル、コアルヘキ所ノ輕罪事件ニ於テ送達ノ日ヨリ起算シテ此五日ノ定マリタル期限ノ後チ故障ノ權利ノ失墜ハ、或ル場合ニ於テ不正ナル結果ヲ生シ得ルコト甚ク大ナルコトヲ注目シ、且ツ實際ニ於テ事實カ其不正ナル結果ヲ呈ハシタリ、若シ被告本人ニ送達シタル時ハ被告人ハ其知ラスト云フノ原由ヲ主張スルコトヲ得ス、隨ヒテ定マリタル期限ハ充分ナリトス然レトモ若シ單ニ被告人ノ住所ニ送達シタル時ハ

被告人ハ毫モ知得スルコトナク隨ヒテ期限ハ故障タルト控訴タルトニ拘ハラズ其知ラサル間ニ經過シ了リタルニ依リ被告人ハ其成立ヲモ尙ホ知ラサル所ノ刑事裁判ニ對シ爲スヘキ上訴ノ路ナク欠席ニ因リテ回復ス可カラサル方法ヲ以テ罰セラル、ニ至ルコトアリ、此事實ハ最モ屢々旅行ノ場合特ニ外國ノ旅行ノ場合ニ於テ自ラ生スルコトアルモノニシテ、且ツ實際ニ實際ニ生シタリ、是ヲ以テ外國ニ於テ犯シタル重罪輕罪又ハ違警罪ニ關スル千八百六十六年六月二十七日ノ法ノ草案ニ於テハ治罪法第百八十七條ヲ修正スル所ニシテ其目的タル欠席ニ因リテノ裁判書ノ送達ノ時ニ帝國ノ歐羅巴大陸又ハアルゼリー大陸ニ在ラサルシコトヲ證スル者ノ爲メノミニ此ノ如キ期限經過ノ不受理ヲ醫スルヲ目的トセル所ノ附屬ノ一規則ヲ採用シタリ、此規則ハ立法議院ニ於テ法律編纂ノ時之ヲ敷衍シ遂ニ新第百八十七條ノ末項ト成リタリ、其項ニ曰ク(然レトモ若シ本人ニ送達ヲ爲サル時又ハ裁判執行ノ所爲ニ依リ犯罪被告人ノ其裁判ヲ知リタリト推知スルヲ得サル時ハ其刑ノ期滿効ノ期限ノ終リニ至ルマテ故障ノ申立ヲ受理ス可キモノトス)ト、

千八百六十六年ノ立法者ハ此新條ニ於テ輕罪事件ノ故障ニ付キ我カ訴訟法第百五十八條ニ依リ民事ニ於ケル故障ニ對シテ規定シタルモノト同一ニハアラサレドモ類似スル所ノ事項ヲ置キタリ、此二條ヲ比較スレハ充分ニ其差異ヲ明確ニスヘシ、我カ新條ハ其規則ニ於テ出

頭セサルカ爲メノ欠席ト辯護セサルカ爲メノ欠席トノ間ニ區別ヲ爲サス(第二千三百三十九號參觀)然レトモ 裁判所ハ被告人カ送達ヲ知りタルヤ又ハ知ラサリシヤヲ考定スルノ任アリ、或ル點マテ其區別ニ付キ斟酌スルコトヲ得可シ(一)

(二)セーニ裁判所裁判官ピコー氏ハ輕罪事件ニ於ケル欠席裁判ニ關スル貴重ナル論說(法律評論)ルゾイウ、クリチック、ド、レヨスラシヨシ千八百七十四年十二月ノ號)ニ於テ此欠席裁判ハ千八百六十六年ノ法ニ依リ定メラレタル修正ヲ以テスルモ尙ホ社會ノ安寧ト辯護トニ付キ共ニ危險ナルコト顯ハス爲メニ、實際ノ經驗ヲ論據ト爲シタリ、實ニ數年ノ後ニ於テ最モ屢々毫モ豫審ヲ經サル所ノ輕罪ニ對シ如何ナル方法ヲ以テ舊ニ復シテ充分ニ相當ノ取調ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ、乃チ氏ハ先ツ被告人カ現ニ豫審ノ取調ヲ受ケサルニ於テハ之ニ對シテ其財産ノ差押ヲ來ス所ノ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ルニ止マリテ欠席ニ因リテノ裁判ヲ許サ、ル所ノ重罪及ヒ輕罪ニ普通ナル填太利ノ方法(第二千三百三十九號挿註第三參觀)ヲ採用セント發議シタリ、然レトモ我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ論セサル可カラサル所ノ一處分ナリトス、而シテ我輩ハ最モ好ミテ被刑者ノ出テ來リタル事實ニ因リテ重罪欠席ノ判決カ自ラ消滅スルカ如ク單ニ被告人ノ出テ來タルニ因リ法律上ヨリ輕罪ノ欠席裁判ヲ消滅セシムルニ成立ツ所ノ第二ノ發議ニ同意ヲ表スルナリ

我新正條ヨリシテ輕罪欠席ニ因リテノ裁判ハ定マリタル普通ノ期限ノ經過シ了リタル後テ故障ト控訴トヲ問ハス、普通ノ規則ニ從ヒ執行スヘキモノトナルノ結果ヲ生ス、是レ此末項ニ於テ採用セラレタル期限ノ不定ノ延長ハ例外ノ延長ト看做サル、ニ過キサルヲ以テナリ、是レ誠ニ明瞭ノ事ナリトス何トナレハ此末項ニ於テハ被告人ノ在ラサル以上ハ其財産ノ上ニ及フコトヲ得、例ヘハ罰金、損害賠償又ハ裁判費用ヲ拂ハシムルニ付キ財産ニ及フコトヲ得ル所ノ執行ノ所爲ニ關シテ規定セラレサレハナリ

(第二千三百四十二號)又此新正條ヨリシテ亦同シク、定マリタル此期限ノ經過シ了リタルニ因リ欠席ニ因リテノ裁判ノ執行スヘキモノトナルノ日ヨリ檢察官ニ於テ之ヲ執行セサルニ付キ被告人ノ爲メニ經過スル所ノ期滿免除ハ、則チ刑ノ期滿免除ナルノ結果ヲ生ス、是ヲ以テ被刑者ハ此時間ヨリ起算シ五年ノ終リニ於テ期滿免除ニ因リテ此裁判ニ掲ケタル刑ヲ免ルヘシ然レトモ之レト同一ノ道理ニ因リ被告人ニ於テ故障ヲ爲スノ權利ハ消滅シ而シテ若シ其欠席ニ因リテノ裁判カ權利ノ或ル失墜ヲ生スルニ於テハ性質上期滿免除ヲ得サル所ノ權利ノ失墜ヲ受クヘシ(第千八百九十四號參觀)故ニ我新正條ハ治罪法第六百四十一條ニ舉ゲタル所ノ一般ノ規則ヲ輕罪事件ニ適用セシム即チ其條ニ曰ク(如何ナル場合ニ於テモ輕罪欠席又ハ重罪欠席ニテ刑ヲ言渡サレシ者ノ其刑ノ期滿効ニ依リ消滅シタル時ハ其輕罪

欠席裁判又ハ重罪欠席裁判ヲ滌除スル爲メニ出席スルコトヲ許サスト
 違警罪ト輕罪トヲ問ハス總テノ場合ニ於テ欠席ニ因レル裁判書ノ送達ヲ爲サ、ル間ハ故障
 ヲ爲スノ期限ハ經過セス、若シ其送達カ不適法ニシテ無効ナル時亦同シ、是ヲ以テ檢察官及
 ヒ民事原告人ノ此不送達ノ中ニ於テ時間ノ延長スルコトヲ想像スヘシ、此場合ニ於テ被告人
 ノ爲メニ經過スル所ノ期滿免除ハ前段ノ場合ニ於ケルカ如ク刑ノ期滿免除ニアラスシテ訴
 權ノ期滿免除ナリトス、何トナレハ送達セラレサル所ノ欠席ニ因リテノ裁判ハ執行スヘキ
 モノトナルコトヲ得ス而シテ訴權ハ已ニ施行セラレ欠席ニ因リテノ裁判ヲ下サル、ニ至リタ
 レトモ是レヨリ以上復タ繼續セラレサルヲ以テナリ、故ニ被告人ハ違警罪ニ關スル者ニ付
 キテハ違警罪ヲ犯シタル日ヨリ起算シテ一年ノ終リニ於テ(治罪法第六百四十條)又輕罪ニ
 關スル者ニ付キテハ豫審又ハ起訴ノ最終ノ所爲ナル所ノ欠席ニ因リテノ裁判ノ日ヨリ起算
 シテ三年ノ終リニ於テ(治罪法第六百三十七條)其問題トナリタル事實ニ付キ總テ起訴ヲ免
 ルヘシ、但シ被告人ハ此欠席ニ因リテノ裁判ニ故障ヲ爲スノ權利ヲ失墜シタルヲ以テ最早
 故障ヲ爲スコトヲ得ス
 其他裁判例ニ於テハ、欠席ニ因リテ裁判セラレタル訴訟關係人ハ其裁判書ノ送達ヲ受ケサ
 ル前ニ在リテモ尙ホ故障ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ確認セリ

我輩カ始審ニ於テ輕罪欠席ニ因レル裁判ニ付キ擧ケタル所ノ規則ハ控訴ニ因レル欠席判定
 ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス(第二千三百五十一號)挿註第二百八條參觀
 又被告人ハ大審院カ檢察官又ハ民事原告人ノ上告ニ付キテ爲シタル所ノ欠席判定ニ對シテ
 モ、亦若シ此上告ニ付キ第四百十八條ニ於テ規定セラレタル通知ヲ受ケサル時ハ故障ヲ爲
 スコトヲ得

(第二千三百四十三號)重罪ニ付キテノ起訴ニ關シテハ被告人カ現出スルノ義務ニ對シテ其
 制裁最モ嚴ナルト同シク(第二千二百七十五號)被告人カ不在ニ於テ回復ス可カラサル方法
 ヲ以テ罰セラル、コトヲ得サルノ權利ニ對シテモ、亦其制裁甚タ嚴ナリトス、我輩カ此點ニ付
 キ違警罪又ハ輕罪ノ欠席ニ因リテノ裁判ト重罪ノ欠席ニ因リテノ裁判トノ間ニ指示スル所
 ノ差異ハ則チ左ノ如シ
 輕罪又ハ違警罪ノ欠席ニ因レル裁判ニ對シテハ故障ノ一所爲アリタルコトヲ要ス、之ニ反シ
 テ重罪ノ欠席裁判ハ欠席人ノ隨意ノ出頭又ハ逮捕ニ因リテ法律上當然消滅スルモノトス、
 故障ヲ爲スノ期限ハ輕罪又ハ違警罪ノ欠席ニ因レル裁判ニ對シテハ甚タ短クシテ三日又ハ
 五日ニ過キス、之ニ反シテ重罪ノ欠席ニ因リテノ裁判ニ對シテハ刑ノ期滿免除ノ期限ヨリ、
 外復タ他ノ期限アルコトナシ

輕罪又ハ違警罪ノ欠席ニ因リテノ被刑者ハ處罰ヲ承認スルヲ自由ニシテ、且ツ唯必要ナル期限内ニ故障ヲ爲サ、ルノ一事ニ因リ暗黙ニ其期限ヲ消盡ス、之ニ反シテ重罪欠席人ハ此ノ如キ消盡ヲ爲サシムルノ自由ヲ有セス、即チ其消盡ヲ欲スルト否ラサルトニ拘ハラズ、唯逮捕セラレタルノミニ因リテ其處罰ハ必然消滅スルモノトス(一)

(一)治罪法(第四百七十六條) 重罪被告人ノ期滿効ニ依リ其刑ノ消滅セサル前ニ拘留セラレ又ハ逮捕セラレタル時ハ重罪欠席ニテ爲シタル裁判及ヒ拘引又ハ出席ノ命令書ヨリ後ニ其重罪被告人ニ對シテ爲シタル訴ノ手續ヲ當然無効ノモノト爲シ其重罪被告人ニ關シテ通常ノ法式ヲ以テ處分ス可キモノトス

若シ然レトモ重罪欠席ニ於ケル刑ノ言渡カ准死ヲ惹起ス可キ性質ノモノニシテ其重罪被告人ノ其欠席裁判執行ノ時ヨリ五年ノ後ニ至リテ逮捕セラレ又ハ投首シタル時ハ其裁判ハ民法第三十條ニ從ヒ其五年ノ期限ノ終リシ時期ヨリ其重罪被告人ノ裁判所ニ出タル日ニ至ルマテノ時間ニ准死ヨリ生シタル効ヲ既往ニ付キ保存ス可キモノトス(第二項ハ准死ニ關スルモノニテ我輩カ第二千三百三十九號第三ニ於テ舉ケタル所ノモノニ從ヒ千八百五十四年ノ法ヲ以テ之ヲ改正シタリ)

(第四百七十八條) 投首シタル後ニ重罪公訴ノ免訴ヲ得タル重罪欠席者ハ常ニ必ス其重

罪欠席ニ因リテ生セシメタル費用ノ償還ヲ言渡サル可シ)

(第二千三百四十四號) 定メラレタル刑ノ期滿免除ノ時期已ニ經過シ重罪欠席ニ因レル判定ニシテ已ニ抗撃ス可カラサルモノトナリタル時ハ此期滿免除ハ我輩カ指示シタル所ノ普通ノ効果ヲ生ス(第千九百八號參觀)即チ有形的執行ノ或ル所爲ヲ要スル所ノ刑ニ付キテハ已ニ問題トナルコトナシ、但シ重罪欠席人ハ單ニ欠席ニ因リテ處罰セラレタルノミト雖モ其處罰ノ結果タル所ノ權利ノ失墜ヲ受ケ又ハ不能力者トナルヘシ

第二節 控訴

(第二千三百四十五號) 此上訴ノ方法ノ原則ハ我輩已ニ之ヲ知レリ(第千九百四十九號參觀)即チ此上訴ハ凡ソ一事件ニシテ已ニ判定ヲナセル裁判所ヨリハ更ニ高尚ナル一個ノ裁判所ニ於テ新タニ裁判セラル、ニ於テハ一層適正ニ裁判セラルヘシトノ信用ニ基クモノナリ、我國ニ於テハ一個ノ單ナル控訴ノミヲ採用シ繼續シタル多數ノ控訴ヲ採用セス是レ即チ二級ノ裁判權ヲ成ス所ノモノナリ

控訴ハ民事訴訟手續ニ於テ爲ス所ノモノト異ニシテ最モ重大ナル重罪事件即チ重罪院ニ於テ裁判シタル事件ニ適用セスシテ緊要程度ノ下級ナル事件ノミニ採用ス、又控訴ハ豫審ノ或ル判定違警罪事件ノ或ル裁判及ヒ輕罪事件ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

(第二千三百四十六號) 豫審ノ或ル判定ニ對シテハ左ノ如シ、此種ノ控訴ハ初メ治罪法ニ明確ニ規定セラレザリシ所ニシテ會議局ヲ廢止シ該局ノ威權ヲ豫審裁判官ニ移シタル所ノ法ニ因リテ最モ精細ニ規定セラレタリ、此裁判官ノ命令ハ新法ヲ以テ改正セラレタル第三百二十五條ニ從ヒ重罪取調局ニ向ヒテ爲ス所ノ控訴ヲ以テ之ヲ抗擊スルコトヲ得(一)

(二)治罪法(第三百三十五條) 千八百五十六年七月十七日及ヒ三十一日ノ法檢事ハ如何ナル場合ニ於テモ豫審裁判官ノ命令ニ付キ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得可シ○民事原告人ハ此法典第一百四條第二百二十八條第二百二十九條第三百一十一條第五百三十九條ニ定メタル場合ニ於テ爲シタル命令及ヒ總テ自己ノ民事上ノ利益ヲ害スル命令ニ付キ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得可シ

犯罪被告人ハ第一百四條ニ據リ爲シタル命令及ヒ第五百三十九條ニ定メタル場合ニ於テ爲シタル命令ノミニ付キ故障ノ申立ヲナスコトヲ得可シ
其故障ノ申立ハ二十四時ノ期限内ニ之ヲ爲サ、ル可カラス、而シテ其期限ハ檢事ニ對シテハ右命令ノ日ヨリ之ヲ起算シ又民事原告人及ヒ拘留セラレサル犯罪被告人ニ對シテハ此等ノ者ノ裁判所々在ノ地ニ於テ撰定シタル住所ニ右ノ命令書ヲ送達シタル時ヨリ之ヲ起算シ又拘留セラレタル犯罪被告人ニ對シテハ書記ヨリ其命令書ノ通知傳觀ヲ受ケタル

時ヨリ之ヲ起算ス可シ

前項ニ定メタル送達及ヒ通知傳觀ハ右命令書ノ日附ヨリ二十四時内ニ之ヲ爲ス可シ、其故障申立ハ控訴裁判所ノ重罪取調局ニ之ヲ申告ス可シ、但シ重罪取調局ニ於テハ總テノ事件ヲ止息シテ裁定ス可キ者トス、證據物ハ第三百二十三條ニ記シタル如ク之ヲ送付ス可シ、拘留セラレタル犯罪被告人ハ故障申立ニ付テノ裁定アルニ至ル迄之ヲ獄舎ニ留メ置ク可ク又如何ナル場合ニ於テモ故障申立ノ期限ノ終ニ至ル迄之ヲ獄舎ニ留メ如何ナル場合ニ於テモ故障申立ノ權利ハ控訴裁判所ノ檢事長ニ屬スルモノトス、其檢事長ハ豫審裁判官ノ命令ノ後十日内ニ其故障申立書ヲ送付セサル可カラス、然レモ犯罪被告人ノ釋放ヲ宣告スル命令書ノ制定ハ假リニ之ヲ執行ス可シ

此上訴ハ、其性質上純然タル一個ノ控訴ナルニモ係ハラズ故障ノ語ヲ以テ之ヲ稱呼シタルコトニ注目スヘシ、是レ眞實ノ故障ト思考ノ混雜及ヒ不幸ナル曖昧ヲ來ス所ノモノナリ、此名稱ハ豫審判事ノ判定ハ其物自ラ裁判ノ名稱ヲ有セスシテ單ニ命令ノ名稱ヲ有スルヲ以テ人此命令ニ對シテ上等ノ官廳ニ爲ス所ノ上訴ヲ稱シテ控訴ト曰フコトヲ避ント欲シタルヨリ來レルコトハ疑ヲ容レスト雖モ、控訴ノ語ノ基因及ヒ此上訴ノ性質カ尙ホ全ク確實ニ故障ノ中ニ存スルナリ、

又此控訴ニ關シテハ被告人ハ其對手人タル檢察官及ヒ民事原告人ト同一ノ地位ニ置レサル
トヲ注目スヘシ、即チ檢察官(始審裁判所檢察事及ヒ檢察長)ハ總テノ場合ニ於テ、民事原告人ハ
命令カ其利益ニ反對スル場合ニ於テ、此上訴ヲ爲スコトヲ得、被告人ハ單ニ管轄違ノ原因第五
百三十九條ト保証ヲ付スル假リ釋放ヲ拒絕シタル所ノ命令(第百十三條)トニ對シテノ此
上訴ヲ爲スコトヲ得

(第二千三百四十七號) 違警罪ノ或ル裁判ニ對シテハ左ノ如シ、千七百九十一年市街警察ニ
關シ憲法議院ニ於テ議定シタル法ハ常ニ控訴ヲ許シタリキ、又共和紀元第四年第二月ノ法典
ハ決シテ之ヲ許サ、リキ、治罪法ハ一個ノ中間ノ方法ヲ採用シタリ、即チ處罰カ單ニ或ル禁
錮又ハ五「フラン」ノ金額ヲ超過スルニ在ル時ノミ控訴ヲ爲スコトヲ許ス、但シ所謂ル五「フラ
ン」ノ額ハ罰金、返還及ヒ其他ノ民事ノ賠償ヲ含蓄スレトモ裁判費用ハ之ニ含蓄セス(一)

(二) 治罪法(第百七十二條) 警察ノ事項ニ於テ爲シタル裁判ヲ以テ禁錮ヲ宣告スル時又ハ
罰金物件返還及ヒ其他ノ民事ノ補償カ費用ノ外五「フラン」ノ金額ニ過クル時ハ控訴ノ方
法ヲ以テ其裁判ヲ駁撃スルコトヲ得(四)

(第百七十四條) 警察裁判所ヨリ爲シタル裁判ノ控訴ハ懲治裁判所ニ之ヲ申告ス可ク而シ
テ其控訴ハ本人又ハ住所ニ裁定書ノ送達ヲ受ケタル時ヨリ十日内ニ之ヲ爲ス可ク又其控

訴ハ治安裁判所ノ裁定書ノ控訴ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ續行シ及ヒ裁判ス可シ

故ニ控訴ノ許サル、ニハ處罰アリテ其處罰カ一日ニ過キスト雖モ、或ル一個ノ禁錮ナルガ
又ハ裁判費用ヲ含蓄セスシテ罰金、返還及ヒ其他ノ民事ノ費用ヲ含蓄シテ五「フラン」ヲ超過
シタル金額ナルコトヲ要ス、若シ放免アリタリトセン檢察官モ民事原告人モ共ニ控訴ヲ爲ス
コトヲ得ス、若シ處罰アリタリトセンカ、單ニ財産上ノ處罰ニシテ定メラレタル限界ヲ超過セ
サルキハ何人モ控訴ヲナスヲ得ス、即チ檢察官モ民事原告人モ被刑者モ並ニ控訴ヲ爲ス
コトヲ得ス、學說ト實際ノ裁判例トニ於テハ尙ホ之ニ一步ヲ進メタリ、即チ共和紀元第四年第
二月ノ法典ノ先例ニ從ヒテ說明セラレタル第百七十二條ノ(文法上ヨリスルニハアラサル
モ少クモ)其精神ヨリシテ千八百八年ノ立法者ノ意旨ハ違警罪事件ニ在リテハ第百七十二
條ノ制限内ニ在ルモ尙ホ唯被刑者即チ被告人又ハ民事担当者ノ利益ノ爲メノミニ控訴スル
コトヲ許シ對手人ノ利益ノ爲メニハ之ヲ許サ、ルニ在リタリト論決シタリ此ノ如クナル時ハ
處罰カ我カ條ニ因リテ定メラレタル限界ニ達シ又ハ超過シ隨ヒテ罰セラレタル被告人ヨリ
シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ルモノト雖モ檢察官モ民事原告人モ共ニ控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ抗
擊スルコトヲ得ス之ヲ詳言スレハ一層重キ處罰ヲ得ル爲メニ控訴ヲ爲スコトヲ得ス
控訴ノ期限ハ本人又ハ其住所ニ裁判書ノ送達アリタル時ヨリ起算シテ十日内ナリトス、

(第二千二百四十八號) 輕罪事件ニ於ケル裁判ニ對シテハ左ノ如シ即チ總テ此裁判ニ對シテ控訴ヲ爲スコトヲ得(一)

(二) 治罪法(第九十九條) 懲治ノ事項ニ於テ爲シタル裁判ハ控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得可シ)

控訴ヲ爲スノ權利ハ、被告人ニモ民事原告人ニモ檢察官ニモ屬ス、檢察官ハ被告人カ罰セラレサル可カラサルニ放免セラレ、若クハ免訴セラレタリ、又ハ「ア、ミニマ」ノ控訴(譯者曰ク「ア、ミニマ」ノ控訴トハ刑カ寛ナルニ因リテ爲ス控訴ノ法律語ナリ)ト呼フ所ニシテ被告人カ不充分ノ一刑ニ處セラレタリト云フヲ理由トシテ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘク、又之ニ反シテ放免セラレ若クハ免訴セラレサル可カラサルニ罰セラレタリ又ハ寛ナル刑ニ處セララルベキニ嚴ナル刑ニ處セラレタリト云フヲ理由トシテ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ、何トナレハ社會ノ利益ハ唯善良ナル刑事裁判ニ在リテ復タ他ニ之レアラサルニ依リ、檢察官タル者ハ裁判カ被告人ノ眞實ニ受クヘキ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ又ハ裁判カ放免若クハ免訴ニ出テサル可カラサルニ處罰ヲ宣告シタリト云フノ理由ニ基キテ控訴ヲ提起スルコトヲ得ルハ疑ヒヲ容レサルノコトナレハナリ、但シ是等ノ機會ハ實際上嘗テ殆ント顯ハレサリシ所ナリ(第二千二百七十九號及ヒ第二千二百八十九號參觀)

(第二千三百四十九號) 此檢察官ト云フ言辭ノ中ニ、抗撃セラル、裁判ヲ與ヘタル所ノ裁判所詰、始審裁判所檢事及ヒ控訴ヲ受ケサル可カラサル所ノ控訴院ノ檢事長ヲ合誓セサル可カラス、我輩ハ又支配ヲ任セラレタル利益ノ防護ニ關シテ控訴ノ權利ヲ任セラレタル官署ヲモ茲ニ列スヘシ、而シテ這ハ此各官署ニ付キ控訴ニ固有ナル特別ノ規則ニ從ヒテ之ヲ爲セリ得ルナリ、此規則ハ常ニ普通ノ規則ニ適合セサル所ノモノトス(第二千四十二號參觀)

○ト做シ控訴院ハ此裁判ニ於テ言渡サレタル刑事ノ處罰ヲ重クスルコトヲ得サルコトハ裁判例ニ於テ善良ノ法律トシテ許容セラレタリ、即チ控訴院ハ前裁判ノ處罰ヲ認可スルカ又ハ被告人ニ利益アル意義ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得ルニ過キサルナリ

民事ニ付キ被告人ノミニ於テ控訴ヲ起シ民事原告人ヨリ控訴ヲ爲サ、ル時ハ民事ノ處罰ニ關シテモ亦同シ

前段ニ反シ檢察官ノミニ於テ爲シタル控訴ハ控訴ヲ爲サ、リシ所ノ被告人ヲモ利スルコトヲ得、控訴院ハ被告人ノ控訴ヲ爲サ、ルニ拘ハラズ被告人ヲ放免シ又ハ前裁判ニ於テ被告人ニ科シタル所ノ刑ヲ寛ニスルノ威權ヲ有ス、是レ檢察官ノ行フ所ノ訴權ハ刑事々件ニ於テ善良ノ裁判ヲ爲サシムルヨリ他ノ目的ヲ有セスト云フノ理由ニ基クモノナリ

民事原告人ノ控訴ニ關シテハ、此控訴ハ民事上ノ利益ノ爲メノミニ制限セラレ刑事裁判所ニ向ヒテ民事原告人ノ請求ヲ證明スル爲メニ民事ト刑事トノ聯絡上必要ナル時ニアラザレハ刑事ノ問題ニ涉ルコトナシ、而シテ前裁判ニ於テ被告人ノ放免セラレタル時ハ此控訴ヨリシテ刑事ノ處罰ノ生スルコトヲ得サルヘク又其處罰セラレタルハ更ニ重刑ヲ科スルコトヲモ得サルヘシ

(第二千二百五十號) 控訴ヲ爲スノ期限ハ各關係人ニ付キ又檢察官ニ付キテモ檢察長ヲ除クノ外十日内ナリトス、檢察長ハ控訴ヲ爲スト爲サ、ルコトヲ決定スルニ先タチ事件ヲ知得スルノ要用アルヲ以テ、法律ヨリ二月ノ期限ヲ受ケタリ、各關係人ハ檢察長ニ裁判書ノ通知ヲ爲シ而シテ此通知ノ日ヨリ起算シテ右ノ期限ヲ一月ニ減縮スルノ權能ヲ有ス(第二百五條) 十日ノ普通ノ期限ニ關シテハ違警罪事件ニ於テハ常ニ本人又ハ住所ニ裁判書ヲ送達ヲ爲シタルヨリ起算シ其欠席裁判ニ係ルト對審裁判ニ係ルトヲ區別スルコトナシ(第七十四條) 是レ實ニ違警罪事件ニ於テハ被告人ハ常ニ特別ノ代理ヲ以テ己レヲ代表セシムルノ權能ヲ有スルカ故ニ對審裁判ニ對シテモ亦自ラ其裁判ヲ知ラサルコトノ生シ得ルヲ以テナリ、右ニ反シ、輕罪事件ニ於テハ法律ハ左ノ區別ヲ立テタリ即チ對審裁判ニ付キテハ十日ノ期限ハ距離ノ理由ヨリシテ毫モ増加ヲ爲スコトナク裁判ノ宣告ヨリ起算ス是レ被告人ハ多クノ場合

ニ於テ自ラ裁判ノ宣告ヲ聽キ且ツ其裁判所所在ノ地ニ現在シ又ハ茲ニ代書人ヲ以テ代表セシムレハナリ欠席裁判ニ付キテハ距離ノ三ニミツヤメトル毎ニ一日ヲ増加スルノ外本人又ハ住所ニ裁判書ヲ送達シタルヨリ起算ス(第二二三條) 此距離増加ノ期限ハ第七十四條ニ於テハ規定スル所アラスト雖モ一般ノ原則ニ從ヒ裁判例ニ因リテ違警罪事件ニモ亦之ヲ附加ス

例外ヲ以テ檢察長ニ與ヘラレタル二月ノ期限ニ關シテハ此期限ハ總テノ場合ニ於テ裁判ノ宣告ヨリ起算シ、法律ニ從ヒテ關係人ヨリ檢察長ニ裁判ノ通知ヲ爲シタル場合ニ於ケル一月ノ期限ハ此通知ノアリタルヨリ起算ス

第七十四條第二二三條及ヒ第二百五條ノ正文其物ヨリシテ十日、二月又ハ一月ノ期限ハ完全ノ日コアラサルノ結果ヲ生ス然レトモ送達ノ日モ宣告ノ日モ通知ノ日モ並ニ茲ニ含蓄スルコトヲ得ス(第千八百五十七號及ヒ次號參觀)

此法律ニ從ヘハ故障及ヒ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ欠席裁判ニ係ル時ハ違警罪事件ニ於テモ輕罪事件ニ於テモ、夫ノ控訴ヲ提起スルノ期限ハ最早故障ノ受理ス可カラサル日ヨリスルニ非サルハ經過セサル所ノ民事訴訟手續ニ於ケルカ如クナラサルコトニ注目スヘシ(訴訟法第四百四十二條) 最モ簡單ナル上訴ノ方法ハ第一着ニ來リ而シテ他ノ方法ハ其後ヲニアラサレ

ハ來ラサルコトヲ欲スル所ノ此規則ハ、全ク純理的ナルニモ拘ハラズ我カ治罪法ハ迅速ニスルノ目的ヨリシテ刑事法典ニ於テ之ヲ採用セサリシコトハ疑ヒヲ容レズ、是ヲ以テ故障ノ期限及ヒ控訴ノ期限ハ其機關ニ同シカラサルアリト雖モ而モ同一ノ起算點ヲ有シ隨ヒテ互ニ同時ニ經過スルモノトス

豫審裁判ノ控訴ニ關シテハ(第二千三百九號)輕罪事件ニ於テハ訴訟法第四百五十一條ニ定メラレタル規則ニ從フ、即チ豫備裁判ハ本案裁判ノ後チニシテ且ツ之レト共ニスルコトヲサレハ控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得ス、之ニ反シテ豫判裁判ハ基本チ豫判スルモノトシテ直接ノ影響チ及ホスニ因リ本案裁判ヲ待ツコトナク其宣告ヨリ十日内ニ之ヲ駁撃スルコトヲ得、違警罪事件ニ於テハ控訴ハ治罪法第七十二條ノ言辭ニ於テ單ニ處罰ノ裁判ニ對シテノミ之ヲ許スニ因リ罰セラレタル被告人ハ、判定ノ豫備ナルト豫判ナルトヲ問ハス、單ニ處罰ノ裁判ヲ駁撃スル時之レト共ニ駁撃スルコトヲ得ルノミ

(第二千三百五十號第二)輕罪裁判ニ於ケル控訴ノ方式ハ其裁判ヲ爲シタル裁判所書記局ニ控訴スル旨ノ申述ヲ爲シ(治罪法第二百三條)而シテ之ニ次キテ其駁撃ヲ爲スノ方法ヲ記載シタル理由書ヲ差出スモノトス(治罪法第二百四條) 法典ハ違警罪裁判ニ於ケル控訴ニ付キテハ明言セサルヲ以テ茲ニ同一ノ方式ヲ使用スルコトヲ得ヘク又ハ控訴裁判所ニ喚出ト共

ニ送達セラル、控訴狀ノ方式ニ從フコトヲ得

(第二千三百五十號第三)違警罪裁判ニ對スル控訴ハ之ヲ輕罪裁判所ニ爲シ且ツ、治罪法第七十四條ノ云フカ如ク、(治安裁判所ノ裁定書ノ控訴ト同一ノ方法ヲ以テ)之ヲ裁判ス、即チ簡單ノ手續ヲ以テ之ヲ裁判ス、但シ民事訴訟手續ト刑事訴訟手續トノ間ニ存スル所ノ差異アルコトハ論ヲ俟タス、尙ホ此點ニ付キテハ第七十六條ニ記載シタル共通ノ諸條ニ從フ可シ(一)

(二)治罪法(第七十六條) 豫審ノ法式、證據ノ性質、確定裁判ノ方法、其裁判ノ公正ナル事及ヒ其署名、費用辨濟ノ言渡ニ關スル前數條ノ成規並ニ其數條ニ於テ定メタル刑ハ控訴ノ上、懲治裁判所ヨリ爲ス所ノ裁判ニ共通ノモノトス

控訴院ニ於テ輕罪裁判ニ對スル控訴ヲ裁判セサル可カラサル所ノ方式ニ關シテハ、治罪法第二百九條以下ニ之ヲ規定ス、(一)控訴院ノ公廷ニ於ケル審案ハ評定官ノ報告ニ從ヒテ之ヲ爲ス、是レ大審院ハ基本ノモノト看ル所ニシテ若シ其完成セラレサル時ハ無効ノ制裁ヲ來ス所ノ方式ナリトス、又報告者カ事件ヲ知得スルガ爲メニ朗讀スルノ要用アリト判スル所ノ書類ノ公然ノ朗讀ヲ以テ之ヲ爲ス但シ控訴院ハ其會議ニ於テ一切ノ書類ヲ以テ參考ト爲スコトヲ得、又被告人ノ訊問及ヒ各關係人ノ陳述ト檢察官ノ報告トニ因リ口頭ノ辯論ヲ

以テ之ヲ爲ス但シ被告人ハ常ニ最終ニ答辨ヲ爲スノ權能ヲ有ス

(一) 治罪法(第二百九條) 千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス(控訴ハ一月内ニ控訴裁判所ノ裁判官一名ヨリ報告ノ上、審問席ニ於テ之ヲ裁判ス可シ)

(第二百十條) 千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス(報告ヲ爲シタル後其報告員及ヒ各裁判官ノ其論說ヲ發スル前ニ放免セラレタルト刑ヲ言渡サレタルトヲ問ハス犯罪被告人、犯罪ニ付キ民事上ニテ責ニ任ス可キ各人、民事原告人及ヒ檢事長ハ第一百九十條ニ定メタル方法及ヒ順序ヲ以テ其申述ヲ聽カル可シ)

(第二百十一條) 千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス(豫審ノ法式証據ノ性質始審確定裁判書ノ方法、其公正及ヒ手摺、費用ノ言渡ニ關スル前數條ノ成規並ニ前數條ニ定ムル所ノ刑ハ控訴ノ上ニテ爲ス所ノ裁判ニ共通ノモノトス)

然レトモ證人ノ陳述ハ控訴ノ手續ニ於テハ稀レニ之レアル所ニシテ、我輩ハ已ニ此點ニ關シ我邦ニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ書類ニ因リテノ裁判ヲ爲スヤキ講シタリ(第二千三百五號參觀)

(第二千三百五十一號) 輕罪ノ控訴ニ關スル千八百五十六年六月十三日ノ法ハ輕罪ノ一切ノ控訴ヲ控訴院ニ移シタル所ノ新方法ト治罪法ノ諸條トヲ配合セシムル爲メニ治罪法ノ諸條

ニ叙記ノ若干ノ變更ヲ來シタルニ依リ、我輩ハ挿註ニ於テ變更セラレタル諸條ノ正文ヲ援引セサル可カラスト信ス(一)

(一) 治罪法(輕罪裁判)ノ控訴ニ關スル千八百五十六年六月十三日及ヒ七月二十一日ノ法ニ從ヒテ改正セラレタル諸條ナリ(第二百一一條) 控訴ハ控訴裁判所ニ申告ス可シ

(第二百二條) 控訴スルノ權能ハ左ノ各人ニ屬スルモノトス

第一 犯罪被告人又ハ責ニ任ス可キ各人

第二 民事原告人但シ其民事上ノ關係ノミニ付キ

第三 森林ノ管理局

第四 始審裁判所ノ檢事

第五 控訴裁判所ノ檢事長

(第二百三條) 以下第二百五條ニ記載シタル例外ヲ除クノ外若シ裁判ヲ宣告シタル日ヨリ後遅クトモ十日内ニ其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ控訴スル旨ノ申述ヲ爲シ又欠席ニテ裁判ヲ爲シタル時ハ其言渡ヲ愛ケタル者又ハ其住所ニ右裁判書ヲ送達ヲ受ケタル日ヨリ後遅クトモ十日内ニ右ノ控訴スル旨ノ申述ヲ爲シタルニ非サレハ控訴ノ權利ヲ失フ可シ、但シ右十日ノ期限ハ三ミリアメートル毎ニ一日ヲ加フ可キモノトス

右ノ期限ノ間及ヒ控訴ノ訴訟ノ間ハ裁判ノ執行ヲ停止ス可シ

(第二百四條) 控訴ノ憑據ヲ記シタル請願書ハ右ト同一ノ期限内ニ右ト同一ノ書記局ニ之ヲ差出スコトヲ得可シ、但シ其請願書ハ控訴者又ハ代書人又ハ總テ其他ノ特別ナル代理人之ニ署名ス可キモノトス

右最初ニ記シタル場合ニ於テハ其代理委任狀ヲ請願書ニ添テ可シ、其請願書ハ亦直接ニ控訴裁判所ノ書記局ニ差出スコトヲ得可シ

(第二百五條) 控訴裁判所ノ検事長ハ裁判宣告ノ日ヨリ起算シテ二月内ニ犯罪被告人若クハ民事上ニテ犯罪ノ責ニ任ス可キ者ニ其控訴ヲ通知セサル可カラス、又關係人中ノ一人ヨリ法ニ適シテ其裁判書ノ送達ヲ受ケタル時ハ其送達ノ日ヨリ一月内ニ右ノ各人ニ其控訴ヲ通知セサル可カラス若シ然ラサル時ハ其控訴ノ權利ヲ失フ可シ

(第二百六條) (千八百六十五年七月十四日ノ法律) 放免ノ場合ニ於テハ其犯罪被告人ヲ控訴ニ拘ハラス直ニ釋放ス可シ

(第二百七條) 請願書ヲ始審裁判所ノ書記局ニ差出シタル時ハ其請願書及ヒ証據物ヲ控訴ノ申述又ハ控訴ノ通知書交付ノ後二十四時内ニ検事ヨリ控訴裁判所ノ書記局ニ送付ス可シ

若シ其裁判ヲ受ケタル者ノ拘留ノ景狀ニアル時ハ其者ヲ検事ノ命令ニ依リ右ト同一ノ期限内ニ控訴裁判所所在地ノ收監場内ニ移ス可シ

(第二百八條) 控訴ノ上缺席ニテ爲シタル裁判ハ懲治裁判所ニ於テ爲シタル缺席裁判ト同一ノ方法及ヒ同一ノ期限ニ於テ故障申立ノ方法ニ依リ之ヲ駁撃スルコトヲ得可シ、其故障申立ハ當然最初ノ審問席ニ於ケル呼出ヲ惹起スルモノトシ若シ故障申立人ノ其最初ノ審問席ニ於テ出席セサル時ハ其故障申立ヲ無効ノ者トス、其故障申立ニ付キ爲シタル裁判ハ其故障申立ヲ爲シタル者ニ於テ大審院ニ上告スルヲ外之ヲ駁撃スルコトヲ得ス、(第二百九條) 控訴ハ一月内ニ控訴裁判所ノ裁判官一名ヨリ報告ノ上審問席ニ於テ之ヲ裁判ス可シ

(第二百十條) 報告ヲ爲シタル後其報告員及ヒ各裁判官ノ其論說ヲ發スル前ニ放免セラレタルト刑ヲ言渡サレタルトヲ問ハス犯罪被告人、犯罪ニ付キ民事上ニテ責ニ任ス可キ各人、民事原告人及ヒ検事長ハ第九十條ニ定メタル方法及ヒ順序ヲ以テ其申述ヲ聽カサル可シ

(第二百十一條) 豫審ノ法式、證據ノ性質、始審確定裁判書ノ方法、其公正及ヒ手署費用ノ言渡ニ關スル前數條ノ成規並ニ前數條ニ定ムル所ノ刑ハ控訴ノ上ニテ爲ス所ノ裁判ニ共

通ノモノトス)

(第二百十二條) 若シ其所爲カ如何ナル法律ニ依ルモ輕罪トモ又違警罪トモ看做サルサ
ルノ故ヲ以テ始審裁判ヲ更改シタル時ハ控訴裁判所ニ於テ犯罪被告人ヲ免訴シ且ツ其犯
罪被告人ノ損害賠償ヲ裁定ス可キ時ハ之ヲ裁定ス可シ)

(第二百十三條) 若シ其所爲カ違警罪ノミニ當ルノ故ヲ以テ始審裁判ヲ取消シタル時公
訴原告人及ヒ民事原告人ヨリ其移送ヲ訟求セサルニ於テハ控訴裁判所ニ於テ其刑ヲ宣告
シ且ツ損害賠償ヲ裁定ス可キ時ハ亦之ヲ裁定ス可シ)

(第二百十四條) 若シ其所爲カ施体又ハ加辱ノ刑ニ當ル可キ性質ノモノタルノ故ヲ以テ
始審裁判ヲ取消シタルノ時ハ控訴裁判所ニ於テ別段ノ理由アルニ於テハ拘留狀又然ノミ
ニテラス收監狀ヲ發ス可ク且ツ其犯罪被告人ヲ該管官吏ノ面前ニ移送ス可シ然レモ其始審
裁判ヲ爲シ又ハ豫審ヲ爲シタルノ官吏ノ面前ニ之ヲ移送ス可カラサルモノトス)

(第二百十五條) 若シ無効ノ罰款ヲ以テ法律上ニ定メタル法式ノ補正セラレザル違犯又
ハ違脱ノ爲メニ始審裁判ヲ取消シタル時ハ控訴裁判所ニ於テ其本案ニ付キ裁定ヲ爲ス
可シ)

(第二百十六條) 民事原告人、犯罪被告人、公訴原告人、犯罪ニ付キ民事上ニテ責ニ任ス可

キ各人ハ控訴裁判所ノ裁判ニ對シテ破毀ノ爲メ上告スルヲ得可シ) (第九百六十五
號捕註ヲ參觀ス可シ)

(第二百五十二號) 控訴事件ノ裁判官トシテ裁判スル控訴院ニ關シ、又實際ノ裁判例カ
大ニ治罪法第二百十五條(一)ヲ擴張シテ以テ引致シタル所ニシテ人カ必須ノ干涉管轄(エヴ
オカシヨン、フオルセー)ノ規則ト名クル所ノ者ニ注目セサル可ラス、是レヨリシテ控訴院ハ
控訴セラレタル裁判ヲ取消ス毎ニ管轄違ノ場合ヲ除クノ外本案ニ付キ裁判ヲ爲スノ義務ヲ
有スルノ結果ヲ生ス、而シテ這ハ取消カ第二百十五條ニ於テ規定セラレタル場合ニ於テ言
渡サル、時即チ無効ヲ來ス所ノ方式ノ瑕疵ニ付キテ取消ノ言渡アル時ノミナラス尙ホ他ノ
原由ニ付キテ言渡サル、時モ亦然リトス又第二百十五條ノ特別ナル豫定ノ場合即チ取消カ
本案裁判ニ對シテ言渡サル、時ノミナラス尙ホ豫判裁判ニ對シテ言渡サル、時モ亦然リト
ス、此終リノ場合ニ於テハ干涉管轄(エヴオカシヨン)ノ語最モ善ク該當スルモノトス、何トナ
レハ此場合ニ於テハ控訴院ハ未タ第一審ノ裁判官ニ裁判セラレサル所ノ本案ノ裁判管轄ヲ
他ニ送付セシメテ自ラ干涉管轄ヲ成ス之ヲ再言ハレハ控訴院ハ訴訟關係人ヨリ第一級ノ裁
判權ヲ奪ヒテ其管轄ヲ己レニ屬セシメ而シテ自ラ直接ニ宣告ヲ爲セハナリ、訴訟法第四百
七十三條ニ殆ント之レト同一ノモノアリ但シ訴訟法ニ於テハ此干涉管轄ハ控訴院ノ隨意ニ

在リ刑事訴訟手續ニ於テハ則チ義務ナリトス我カ裁判例ニ於テ然ク擴張シタル此必須ノ干
係管轄ノ規則ノ基ク所ハ刑事訴訟ノ迅速ノ一要用ノ上ニ在リトス

(一)治罪法(第二百十五條) (千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)若
シ無効ノ罰款ヲ以テ法律上ニ定メタル法式ノ補正セラレサル違犯又ハ違脱ノ爲メニ始審
裁判ヲ取消シタル時ハ控訴裁判所ニ於テ其本案ニ付キ裁定ヲ爲ス可シ

(第二千三百五十三號)民事訴訟手續ニ於テ故障及ヒ控訴ノ普通ノ上訴方法ハ例外ノ場合ヲ
除クノ外裁判ノ執行ヲ中止スルハ一般ノ規則ナリトス民事訴訟手續尙ホ且ツ此ノ如シ況
ヤ刑事訴訟手續ニ於テヲ平即チ此規則ハ刑事法典ニ於テ刑事ノ處罰ノ執行ニ關スルモノニ
付キテハ最モ嚴切ニ最モ絶對ニ最モ鞏固ニ制裁ヲ附セラレテ成立セサル可カラズ被刑者ニ
對シ回復ス可カラサル方法ヲ以テ宣告セラレサル所ノ一刑ヲ人ニ受ケシムルノ思考ハ法理
ニ於テ許容セラル、トヲ得サルヘシ、然レトモ禁錮ノ重刑ニ付キテ尙ホ我カ訴訟法第十二
條ニ之レカ例外アリ又同法第九十條ニ此ノ如ク明確ナラサルモ尙ホ他ノ例外アリ但シ傷ム
ヘキ此二個ノ例外及ヒ我輩カ重罪欠席ニ因リテノ處罰ノ點ニ付キ論シタル所(第二千三百
三十九號以下參觀)ノ例外ヲ除クノ外右ノ純粹ノ原則ハ刑ノ適用ニ關シテ嚴格ニ我カ成文
法中ニ存ス

此原則ハ刑事裁判中ニ包有シ得ル所ノ民事ノ處罰ニモ豫判ノ處分ニモ同一ノ力ヲ以テ適用
セラレス、此種ノ判定ハ民事ト民事トノ聯結ノ理由ニ因リ其執行スヘキモノトナル時期ニ
於テハ常ニ刑事ノ處罰ノ裁判ト同一ノ規則ニ服スルヲ以テ一般トス、然レトモ尙ホ茲ニ若
干ノ例外アルヘキコトヲ想像スルコトヲ得、況ンヤ放免又ハ免訴ニ係ル場合ニ於テヲ平必ラス
其例外アルヘキナリ

純粹的審案ノ豫備ノ判定ニ關シテハ中止ノ効果ノ問題ノ生スルコトナシ此判定ハ本案裁判ノ
後チ之レト共ニスルニアラサレハ如何ナル上訴ノ方法ニ因ルト雖モ抗擊スルコトヲ得サルニ
依リ(第二千三百五十五號參觀)其言渡アルヤ即チ直チニ執行スヘキモノトナル
(第二千三百五十四號)之ニ付キテハ刑事法典ニ於テ注目スヘキ者アリ即チ唯故障及ヒ控訴
ニ因リテ執行ヲ中止スルノミナラス此上訴ヲ提起スル爲メニ與ヘラレタル期限其物ニ因リ
テ執行ヲ中止ス是ヲ以テ裁判ノ執行スヘキモノトナルハ如何ナル上訴モ提起セラル、トナ
ク而シテ此期限ノ消盡ニ因リテノミナリトス治罪法第二百三條ハ輕罪事件ニ於テ距離ノ理
由ニ基ク所ノ増加ノ日ト共ニ十日ノ期限ニ付キ明確ニ左ノ如ク言ヘリ曰ク(右ノ期限ノ間
及ヒ控訴ノ訴訟ノ間ハ裁判ノ執行ヲ中止ス可シ)ト、又第七十三條ハ違警罪事件ニ付キ單
ニ左ノ如ク言ヒタリ曰ク(控訴ハ中止ノ効力アルモノトス)ト但シ此條ハ自然ニ前條ト同一

ノ意義ヲ以テ説明セラル 右ト類似ノ一規則ハ民事訴訟手續ニ於テ故障ニ關シテ之レアリ
(訴訟法第五十五條)但シ控訴ニ關シテハ之レナシ(訴訟法第四百四十三條第四百四十九條
第四百五十條及ヒ第四百五十九條)

然レトモ此規則ハ故障ニ關シテハ送達ヨリ起算シ距離ノ理由ニ基ク所ノ増加ノ日ヲ除キ違
警罪事件ニ於テハ三日、輕罪事件ニ於テハ五日ノ普通ノ期限ニ付キテノミ眞ニ然ルモノト
ス、我輩ハ已ニ治罪法新第八十七條ニ依リテ與ヘラレタル期限ノ例外ノ延長ハ欠席人カ
其知リ得タル第一ノ所爲ヨリ故障ヲ爲シテ執行ヲ中止セシムルヲ得ル場合ヲ除クノ外普
通ノ定マリタル期限ノ消盡ニ於テ如何ニ欠席裁判ノ執行ヲ妨ケサルヤヲ講シタリ

(第二千三百五十五號) 刑事處罰ノ執行ニ關スルモノニアラスシテ而モ單ニ豫審裁判若クハ
民事ノ處罰若クハ未決拘留ノ釋放ノ執行ニ關スルモノニ付キテハ我輩ハ控訴ニ關シ中止ノ
效果ノ普通ノ規則ニ對シテ爲サレタル以下ノ例外ヲ示スヘシ

第一ノ例外ハ我カ裁判例ニ因リテ違警罪ニ於テモ輕罪ニ於テモ中間ニ來リタル豫判裁判ニ
對シテ認メラレタリ、此裁判例ニ於テハ若シ各豫判裁判ノ後チ之ヲ執行スルニ付キ十日ヲ
待タサル可カラストスレハ其遲延ヲ生スヘシ、乃チ之ヲ避ケンカ爲メニ此種ノ裁判ハ期限
ニ因リテ中止セスシテ單ニ控訴ノ所爲其物ニ因リテノミ中止スルヲ認メタリ

第二ノ例外ハ單ニ民事ノ賠償ニ關スル所ニシテ治罪法第八十八條ノ第二項ノ中ニ存ス即
チ曰ク(裁判所ハ別段ノ理由アル時ハ假定ノ金額ヲ許與スルヲ得可シ而シテ其處分ハ控
訴ニ拘ハラス執行ス可キモノトス)ト、此條則ノ該當スル單一ノ場合ハ輕罪欠席ノ被刑者カ
故障ヲ爲シタルノ後チ公廷ニ出頭セサル時ニアリトス、此時ハ其故障タル無効ノ者ト看做シ
更ニ故障ヲ爲スコトヲ許サス(第二千二百四十一號參觀)而シテ該欠席者ニ對シ欠席ニテ與ヘ
タル裁判ハ唯控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ抗擊スルヲ得ルノミ、然レトモ裁判所ハ此民事原告
人ニ假リノ名義ヲ以テ控訴ニ拘ハラス直チニ請求シタル所ノ賠償ヲ與フルヲ許ス是レ此
被刑者ノ無益ナル故障ニ因リ生シタル遲滞ハ被刑者ノ故サラニ然ラシムルヲアリ且ツ之レ
カ爲メニ民事原告人ノ困難ヲ受クルヲアルヲ以テナリ人參事院ノ會議ニ於テ負傷ヲ治療ス
ルニ效方ナキ者ノ場合ヲ援引シタリ、是レ即チ此一例ナリ裁判所ハ何レノ場合ニ於テモ急
速ヲ斟酌スルヲ得

第三ノ例外ノ場合ハ被告人ヲ釋放スル豫審裁判官ノ命令ニ對シ法典カ故障ト名クル所ノ控
訴ノ一種類ニ關スルモノトス、此釋放ハ始審裁判所檢事及ヒ民事原告人ニ此種ノ控訴ヲ爲ス
爲メニ與ヘタル二十四時ノ期限内ハ固ヨリ之ヲ中止ス、治罪法第三十五條第七項ニ曰ク
(拘留セラレタル犯罪被告人ハ故障申立ニ付キテノ裁定アルニ至ルマテ之ヲ獄舎ニ留メ置

少可ク又如何ナル場合ニ於テモ故障中立ノ期限ノ終リニ至ルマテ之ヲ獄舎ニ留メ置ク可シト然レモ此釋放ハ檢事長ニ其自ラ此種ノ控訴ヲ提起スルカ爲メニ與ヘタル十日ノ期限内ハ之ヲ中止セス同條末項ニ曰ク(然レトモ犯罪被告人ノ釋放ヲ宣告スル命令書ノ判定ハ假リニ之ヲ執行ス可シ)ト(第二千三百四十六號挿註ニ引用シタル千八百五十六年七月十七日ノ法ニ於テ定メラレタル所ノ此條ヲ參觀ス可シ)

(最終ニ)第四ノ例外ハ輕罪裁判所ニ於テ放免ヲ言渡シタル被告人ノ解放ニ關スルモノトス此點ニ付キ千八百八年ノ治罪法舊第二百六條ニ於テ我輩カ前項ニ述ヘ來リタル所ノ者ニ殆ント類似シタル者アリキ即チ此解放ハ檢事長ニ控訴ヲ提起スルカ爲メニ與ヘタル二月ノ期限内ハ之ヲ中止セサレトモ始審裁判所檢事又ハ民事原告人ニ與ヘタル十日ノ期限内ハ之ヲ中止シタリキ此點ニ付キ我カ法律ハ相繼イテ改良シ漸次進行シタリ即チ千八百三十二年ノ改正法ハ初メ此解放ノ中止ノ效果ヲ三日ニ減縮シタリ次キニ現行犯ノ豫審ニ關スル千八百六十三年五月二十日ノ法ハ其第六條(第二千三百五十一號挿註參觀)ニ依リ此場合ニ於テ放免ヲ言渡シタル被告人ハ控訴ニ拘ハラヌ直チニ解放スヘキトヲ命シタリ最終ニ假リ釋放ニ關スル千八百六十五年七月十四日ノ法ハ其目的未決拘留ノ數ヲ減シ又ハ其期限ヲ短縮スルニ在ル所ニシテ此條則ヲ一般ニ及ホシタリ(一)是ヲ以テ控訴ノ期限ニ係ル中止

ノ效果モ控訴自ラノ中止ノ效果モ被告ノ出獄ニ對シ此場合ニ於テ之レアルトナシ此被告人ハ放免ノ裁判ヨリ出ツル所ノ大ナル推測ヲ有スルヲ以テ直チニ解放セラレ若シ控訴アリタル時ハ未決拘留ニ處セラルトナクシテ其控訴ヲ受ク

(一)治罪法(第二百六條) (新條)放免ノ場合ニ於テハ其犯罪被告人ヲ控訴ニ拘ハラヌ直チニ解放ス可シ

第二章 非常ノ上訴方法

(第二千三百五十六號)普通ノ上訴方法ノ外ニ於テ且ツ適當ニ名ケラレタル非常ノ上訴方法ニ關スルトナシテ人尙ホ刑事ノ判定ニ對シ忌避及ヒ裁判官ニ對スルノ訴ヲ爲スコヲ得正當ノ嫌疑(第二千六百六十號參觀)ノ原由ニ付キ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ大審院方考定スル所ノ全体ノ忌避ノ一種類ニ外ナラス、本然ノ忌避ハ其人ニ就キテ一員又ハ數員ノ裁判官ニ對シテ抗擊ヲ爲ス若シ治安裁判官ニ對シテ忌避ヲ爲スルハ訴訟法第四十四條以下ニ依ラザル可カラス若シ輕罪裁判所ノ裁判官若クハ控訴院ノ評定官ニ對シテ忌避ヲ爲スルハ同法第三百七十八條以下ニ依ラサル可カラス若シ重罪院ヲ組成スル控訴院ノ一裁判官ニ對シテ忌避ヲ爲スルハ其裁判ヲ爲スヘキ者ハ此控訴院ヲリトス忌避ハ刑事訴訟ニ於テ原告者タル所ノ檢察官ニ對シテ之ヲ爲スコヲ得ス豫審裁判官ニ對シテハ正當ノ嫌疑ニ付キ裁判管轄ヲ

移スノ訴ニ由ルニアラサレハ之ヲ爲スヲ得ス(第二千六百六十號參觀)
 裁判官ニ對スルノ訴ハ裁判官ノ其義務ヲ缺ク重大ナルニ因リ關係人ニ生セシメタル所ノ損害ヲ賠償セシムル爲メニ爲ス所ノ民事ノ訴訟方法ナリトス此訴訟方法ハ民事裁判ニ於ケルカ如ク刑事裁判ニ於ケルモ亦害ヲ被ムリタル關係人ニ之ヲ行フヲ許ス訴訟法第五百九條ハ裁判所全体又ハ其一員ニ對シテ此訴訟方法ヲ行フノ場合ヲ認ム此訴訟方法ハ特ニ治罪法ニ於テ(第七十七條第七十八條第一百十二條第一百六十四條第二百零七十一條第二百零七十七條)違警罪裁判官豫審裁判官一般ニ裁判官ニ對シ且ツ官廳ノ不正ナル告發ニ因リ重罪院ニ於テ放免セラレタル後チ其官廳ニ對シテモ之ヲ指定ス其訴訟ノ原因ノ爲メ方式且ツ裁判ニ付キ依ラサル可カラサルハ訴訟法第五百五條以下ノ條則ナリトス

(第二千三百五十七號) 非常トイヘル一語ヲ以テ形容セラル、上訴ノ方法ハ訴訟ニハ非スシテ而モ抗擊セラル、判定ヲ裁判セシムル所ノモノトス、夫ノ故障ノ場合ニ於ケルカ如ク判定ヲ與ヘタル所ノ裁判官ニ依リテ此判定ノ回復ヲ爲スニアラス、又夫ノ控訴ノ場合ニ於ケルカ如ク上級ノ裁判官ニ依リテ此判定ノ改正ヲ爲スニアラスシテ而モ此判定ノ破毀(カツサシヨシ)又ハ取消(アンニユラシヨシ)ヲ得ル所ノモノトス是ヲ以テ然ク起リタル訴訟ニ於テハ有罪又ハ無罪ノ點ニ於テ辨論アルコトナク、證人ノ陳述アルコトナク證據ノ論駁アルコトナ

シ、然レモ破毀又ハ取消ノ宣告ヲ爲シタル時ハ或ル場合ニ於テハ新タナル他ノ裁判所ニ事件ヲ送付シテ之レカ管轄ヲ任シ又他ノ場合ニ於テハ事件ヲ送付セス
 此上訴ハ其數ニ箇アリ即チ上告及ヒ再審ノ訴是レナリ、而シテ上告ハ法律上ノ迷誤ニ付キテ之ヲ爲シ再審ノ訴ハ非常ノ事ニ因リテ發顯シタル事實上ノ迷誤ニ付キテ之ヲ爲シ二者並ニ大審院ニ向ヒテ起スモノトス(第九百五十一號第二千十一號及ヒ次號參觀)

第一節 上告

(第二千三百五十八號) 人上告ヲ區別シテ二種ト爲ス、即チ訴訟ニ參與シタル關係人ニ於テ利害ノ關係ヲ有スル者トシ爲ス所ノ上告、法律ノ利益ノ爲メ又ハ司法卿ノ特命ニ依リテ關係人ノ利益ヨリモ尙ホ高尚ナル利益ノ爲メニ(此最終ノ上告ハ特ニ取消ノ上告ト名ク)爲ス所ノ上告是レナリ、上告ハ總テ管轄ニ關スルト、法律ニ於テ無効ノ制裁ヲ以テ規定シ若クハ法理ニ從ヒ必須ノ者ト認タル方式ノ一ニ關スルト又基本ニ關スルトヲ問ハス法律ノ違犯ノ上ニ基キテ之ヲ爲サ、ル可カラス

訴訟ニ參與シタル關係人ニ於テ利害ノ關係ヲ有スル者トシテ爲ス所ノ上告(第二千三百五十九號) 此上告ハ裁判ノ性質ヲ有スル裁判官廳ノ判定之ヲ詳言スレハ爭訟ニ係ル利益ニ就キテ與ヘタル判定ニ對スルニアラサレハ提起スルコトヲ得ス、人此上告ヲ形容

シテ利害ノ關係ヲ有スル者(エチール)ト曰フ、何トナレハ其結果タル、關係人ニ對シテ或ハ害アリ或ハ利アルコトアレハナリ

(第二千三百六十號) 此判定ハ事件カ叙ヲ追ヒテ經過スヘキ所ノ裁判ノ階級ニ於テ盡ク經過シテラサル可ラス、隨ヒテ此判定タル、初審ニ於ケルモ控訴ヲ許サスシテ、裁判スル裁判官ニ於テ與ヘタル者ナルト控訴ノ裁判官ニ於テ與ヘタル者ナルトヲ問ハス、必ラス終審(ア、デ、ルニエー、ルソール)ナラサル可カラス(治罪法第四百十六條)若シ控訴スルコトヲ得ヘキ判定ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ其期限ヲ消盡シタルキハ此第一ノ條件ヲ完成セス爾後此判定ハ抗撃ス可カラサルモノナリト雖モ、終審ニアラス隨ヒテ上告ヲ受ク可カラズ我輩方今引キ來リタル所ノ治罪法第四百十六條ハ此最終ノ點ニ付キ直接ノ方法ヲ以テ之ヲ規定セスト雖モ然レトモ推理上當サニ此ノ如クナラサル可カラサルナリ蓋シ控訴ヲ爲スコトヲ得ルニ之ヲ爲サ、リシ事ヨリシテ裁判ノ消盡ノ一種類、善良ニ裁判セラレタルノ承認又ハ少クモ服從ノ一種類アリト看做セハナリ

(第二千三百六十一號) 輕罪欠席ニ因リ終審トシテ與ヘタル裁判ニ係ルキハ前段ト同シカラス、茲ニ故障ノ普通ノ上訴方法ヲ許ス上ハ上告ヲ爲スコトヲ得サルハ疑ヒヲ容レンス、然レトモ故障ヲ提起シタルコトナクシテ故障ノ期限消盡シタル時ヨリシテ判定ハ對審トシテ取扱ハレ

且ツ此時ヨリ上告ヲ爲スコトヲ得、欠席者ノ沈黙即チ故障ヲ爲サ、リシコトハ裁判ノ消盡ト看做サス、何トナレハ輕罪欠席ニ因リテノ裁判ニ對シテハ關係人カ其裁判ヲ受ケタルコトヲ知ラサリシコトハ生シ難カラサレハナリ

(第二千三百六十二號) 重罪欠席ニ因リテノ裁判ニ對シテハ檢察官モ民事原告人モ上告ヲ爲スコトヲ得但シ刑ノ期滿免除トナラサル時ハ裁判ヲ消滅セシムル爲メニ單ニ出頭スルヲ以テ足ル所ノ被刑者ハ上告ヲ爲スコトヲ得ス(第四百七十三條(一))

(二)治罪法(第四百七十三條) 重罪欠席ノ裁判ニ對シ破毀ヲ得ントスルノ訴ハ檢事長及ヒ民事原告人ノミノ爲メニ開始セラル、モノトス但シ民事原告人ハ自己ニ關スル所ノモノノミニ付キ其訴ヲ爲スコトヲ得可シ

(第二千三百六十三號) 管轄ニ付キ與ヘラレタル終審ノ裁判ハ本案ヲ裁判セスト雖モ直チニ上告ヲ以テ之ヲ抗撃スルコトヲ得然レトモ豫備及ヒ審問ニ過キサル所ノ終審裁判ニ對シテハ本案裁判ノ後テニ非サレハ上告スルコトヲ得サルヲ以テ前段ト同シカラス(第四百十六條)
(第二千三百六十四號) 法律ニ於テ定メタル甚タ短キ期限ハ此利害ノ關係ヲ有スル上告提起ニ付キ關係人ニ對シテ之ヲ指定ス(第二千三百六十七號及ヒ第二千三百七十二號參觀)
(第二千三百六十五號) 上告ハ非常ノ上訴方法ニ過キスト雖モ民事ニ於ケルト同シカラスシ

テ唯執行ヲ中止スルノミナラス尙ホ上告スルカ爲メニ與ヘラレタル期限モ亦執行ヲ中止ス
(第三百七十三條)(一)裁判ハ此期限ノ消盡セサル間又其消盡ノ後チニ至リテハ上告ニ依リテ
抗擊セラレテ存スル間ハ執行スヘキ者トナラス。其他大審院ハ期限消盡ノ後チ爲シタル上
告ト雖モ亦總テノ上告ノ受理スヘキト受理ス可ラサルトニ付キテハ單獨ノ裁判官ナリトス

(二)治罪法(第三百七十三條) 刑ヲ言渡サレタル者ハ破毀ヲ得ント上告スル旨ヲ書記局ニ
申述スル爲メ其裁判ヲ宣告セラレタル日ヨリ後全三日ノ猶豫ヲ有ス可シ
檢事長ハ之ト同一ノ期限内ニ其裁判ノ破毀ヲ請求スル旨ヲ書記局ニ申述スルヲ得可シ
民事原告人ハ亦右ニ同シキ期限ヲ有スルモノトス然レトモ民事原告人ハ自己ノ民事上ノ
利益ニ關スル所定ノミニ付キ上告スルヲ得可シ

其三日間ハ重罪裁判所ノ裁判ノ執行ヲ延ハス可ク若シ又破毀ヲ得ント上告シタル時ハ大
審院ノ裁判書ヲ收受スルニ至ルマテ重罪裁判所ノ裁判ノ執行ヲ延ハス可シ
此中止ノ効果ノ規則ハ假リニ因リテ爲スコヲ得サル所ノ刑ノ執行ニ關シテ毫モ例外アルコ
ナキハ論ヲ俟タス但シ或ル場合ニ於テハ辨論ノ開始又ハ繼續ノミニ係ルキハ右ノ例外ノ成
立ツコヲ得(第二千三百六十八號參觀我輩ハ現時(治罪法新第二百三條)放免ノ言渡ヲ受ケタ
ル被告人ハ直ニ且ツ總テノ上告ニ拘ハラスシテ之ヲ解放スルコヲ知ル

(第二千三百六十六號)已ニ此一般ノ旨趣ヲ講究シタルヲ以テ人此旨趣ヲ種々ノ裁判所ノ判
定ニ適用スルニ於テハ上告ヲ受ケ得ヘキモノトシテ左ノ判定ヲ見出ス可シ即チ

第一 豫審裁判權ヨリ出テタル判定ノ中ニ於テハ 判定カ終審トシテ與ヘラル、所ノ治罪
法第三十四條第八十條第八十一條及ヒ第八十六條ノ場合ニ於ケル豫審裁判官ノ命令是レナ
リ但シ其他ノ場合ニ於テハ則チ否ヲス何トナレハ其他ノ場合ハ控訴ノ一種類ニ因リテ重
罪取調局ノ管轄ニ屬スレハナリ(第二千三百四十六號參觀) 又重罪取調局ノ判決是レナリ
(第二千三百六十七號) 此最終ノ判決即チ重罪取調局ノ判決ニ關シテハ千八百五十三年六月
十日ノ法ニ依リ改正セラレタル所ノ治罪法第二百九十九條ニ注目セサル可カラズ此條ハ重
罪取調局ノ判決ニ對シテ問題トナリタル所ノ上告ヲ爲シ得ル原因ヲ四個ニ制限シタリ(一)
此點ニ付キテハ千八百五十三年ノ法ハ千八百八年ノ法典ノ條ニ列記セラレタル三個ノ場合
ニ附加スルニ我カ裁判例カ已ニ實際ニ於テ許シタリシ所ニシテ第四ノ場合即チ管轄違ノ場
合ヲ以テシタルニ過キササルヲミ

(二)治罪法(第二百九十九條) 千八百五十三年六月十日ノ法ニ依ル無効ニ於ケル請求ハ
左ニ記スル四箇ノ場合ニ於テ移送ノ裁判ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコヲ得ス
第一 管轄違ノ原由ノ爲メ

第二 法律上ニテ其所爲ニ重罪ノ名稱ヲ附セサル時

第三 檢察官ノ申述ヲ聽カサリシ時

第四 若シ法律上ニ定メタル員數ノ裁判官ニ於テ其裁判ヲ爲サ、リシ時

此條ニ問題トナリタル所ノ上告ハ法律カ重罪被告人ニ特別ナル告知ノ與ヘラレタルコトヲ要望スル所ノ點ニ係ル上告ナリ(第二千二百八十二號參觀)此上告ハ單ニ重罪送付ノ判決ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得之ヲ爲ス爲メニ與ヘラレタル期限ハ他ノ上告ノ期限ヨリ最も長クシテ即チ告知ヨリ起算シテ完全ノ五日ナリトス(第二千九十六條第二千九十七條)重罪院ノ裁判長ニ於テ被告人ニ爲サ、ル可カラサル所ノ訊問ハ(此訊問中ニ於テ告知カ被告人ニ與ヘラレサル可カラス)被告人ノミニ關スト雖モ然レトモ檢察長ニ與ヘラレタル期限ノ起算點モ亦之ニ依ル即チ檢察長ハ同様ニ上告ノ方法ヲ以テ重罪取調局ノ判決ヲ抗擊スル爲メニ此訊問ヨリ起算シテ五日ヲ有ス(第二千九十八條一)

(一)治罪法(第二千九十六條 裁判官ハ右ノ外若シ重罪被告人ノ無効ニ於ケル訟求ヲ爲ス可キノ道理アリト思考スル場合ニ於テハ次キノ五日內ニ其申述ヲ爲ス可ク其期限ノ後ニ至リテハ最早受理セラレザル旨ヲ其重罪被告人ニ告知ス可シ
本條及ヒ前二條ノ執行ハ調書ヲ以テ之ヲ証明シ而シテ其調書ハ重罪被告人裁判官及ヒ

書記ニ於テ之ニ署名ス可シ若シ重罪被告人ノ署名スルコトヲ知ラス又ハ署名スルコトヲ欲セサル時ハ調書ニ其旨ヲ記載ス可シ)

(第二千九十七條 若シ重罪被告人ノ前條ニ從ヒ告知セラレサル時ハ其緘黙ノ爲メニ無効ヲ蓋蔽ス可カラスシテ其重罪被告人ノ權利ヲ保存ス可シ但シ其重罪被告人ハ確定ノ裁判ノ後ニ至リテ其權利ヲ伸暢スルコトヲ得可キモノトス)

(第二千九十八條 檢察長ヨリ訊問ヨリ起算シテ右ニ同シキ期限内ニ其申述ヲ爲ス可ク若シ然ラサル時ハ第二千九十六條ニ記載シタル失權ヲ受ク可シ)

(第二千三百六十八號)然レトモ此上告ノ效果ニ關シ千八百五十三年ノ法ニ於テ甚々緊要ナル改正ヲ爲サレタリ千八百八年ノ法典ニ從ヘハ上告ハ辯論ヲ中止セサル可ラス(舊第三百一條)シテ且ツ大審院ハ期限消盡ノ後チ爲シタル上告ト雖モ其受理又ハ不受理ヲ裁判スル爲メニ單獨ノ管轄權ヲ有スルヲ以テ重罪被告人ハ陪審ノ抽籤決了ノ後ト雖モ此陪審ノ組織カ自己ノ意ニ滿タサルキ重罪送付ノ判決ニ對シ期限後ノ上告ノ方法ニ依リ且ツ確實ナル原因アルコトナクシテ事件ヲ後ノ開期ニ送ラシムルニ付キ常ニ其隨意ニ出テタリキ千八百五十三年ノ法ハ全ク大審院ニ屬スル所ノ上告ノ受理不受理ヲ考定スルノ威權ヲ舊ニ仍リテ大審院ニ存シ而シテ中止ノ効果ヲ制限シ以テ前段ノ不便宜ヲ減却セシムルノ方法ヲ以テ法典

ノ第二百一一條ヲ修正シタリ(一)

(二)治罪法(第三百一一條) (千八百五十三年六月十日ノ法ニ依ル)無効ニ於ケル訟求ニ拘ハ
ラス豫審ハ辯論ヲ除キテ其前ノ手續ニ至ルマテ之ヲ繼續ス可シ
然レトモ若シ第二百九十六條ニ定メタル法式ヲ履行シ及ヒ其期限ノ終リシ後ニ右ノ訟求
ヲ爲シタル時ハ辯論ノ開始及ヒ裁判ニ取掛ル可シ○其無効ニ於ケル訟求及ヒ其訟求ヲ起
スノ基本タル憑據ハ重罪裁判所ノ確定ノ裁判アリシ後ニ非サレハ大審院ニ之ヲ附ス可カ
ラス

原由ノ如何ヲ問ハス法律上ノ期限ノ終リシ後若クハ陪審抽籤ノ後其期限ノ經過中ニ爲シ
タル總テノ上告ニ付テハ亦右ト同一ナリトス)

(第二千三百六十九號) 第二百九十九條ニ種類ヲ掲ケタル言辭アリト雖モ全ク定マリタル一
個ノ裁判例ハ此條ノ制限ハ茲ニ問題ナル所ノ全ク特別ニシテ最モ寛大ニ許サレタル上告ニ
ノミ適用スヘキモノト定メタルハ大ニ理ニ適セリトス是ヲ以テ無効ノ制裁ヲ來ス他ノ瑕
瑾ニ付キ重罪取調局ノ右以外ノ判決ハ唯重罪院送付ヲ命スル判決ノミナラス尙ホ總テノ判
決ニ對シ訴訟關係人ニ於テ豫メナスベキ如何ナル告知ノ要用モアルコナク期限ニ五日ノ延
長モアルコナク方式ニ從ヒ普通ノ期限内之ヲ抗撃シ得ルコヲ妨ケサルナリ

(第二千三百七十號) 第二裁判ノ裁判權ノ判定ノ中ニ於テハ 控訴ヲ許サル所ノ違警罪
裁判所ニ於テ與ヘタル裁判及ヒ控訴ニ對シテ輕罪裁判所ニ於テ與ヘタル裁判是レナリ(第
百七十七條)(一)

(一)治罪法(第一百七十七條) 檢察官及ヒ關係人ハ別段ノ理由アルニ於テハ警察裁判所ヨリ
終審ニテ爲シタル裁判ニ對シ、又ハ警察上ノ裁判ノ控訴ニ付キ懲治裁判所ニ於テ爲シタ
ル裁判ニ對シテ、破毀ノ爲メニ上告スルコヲ得可シ
其上告ハ特定ノ方法ト期限トニ於テ之ヲ爲ス可シ)

輕罪事件ノ裁判ニ付キ爲シタル控訴ニ對シテ與ヘタル裁判是レナリ(一)
(二)治罪法(第二百十六條) (千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)民
事原告人、犯罪被告人、公訴原告人、犯罪ニ付キ民事上ニテ責ニ任ス可キ各人ハ控訴裁判所
ノ裁判ニ對シテ破毀ノ爲メ上告スルコヲ得可シ)

重罪院ノ處罰ヲ言渡シタル裁判(第四百八條及ヒ第四百十條) 免訴ヲ言渡シタル裁判但シ
刑法カ存在スヘキニ存在セスト云フニ基キテ言渡シタル免訴ノ裁判ニ限ル(第四百十條)是
レナリ 陪審ノ無罪ノ宣言ノ執行上ヨリ與ヘラレタル放免ノ命令ニ對シテハ決シテ上告ヲ
爲スコヲ得ス、唯法律ノ利益ノ爲メニ上告ヲ爲スコヲ得ルノミ(第四百九條)但シ若シ裁判長

カ誤リテ陪審ノ宣言ヲ認メ又ハ誤リテ説明シテ命令ヲ與ヘタルヲ以テ命令其物ニ瑕瑾有ル
ルハ利害ノ關係ヲ有スル所ノ上告ヲ爲スコトヲ妨ケサルナリ

此二個ノ最終ノ場合(免訴又ハ放免)ニ於ケル判決ハ民事原告人ニ在リテハ單ニ此判決カ民
事原告人ニ對シ請求外(ユルトラ、ペチター)ニ民事ノ處罰ヲ言渡シタリト云フノ理由ニ基キ
且ツ此處罰ニ關シテノミ之ヲ抗辯スルコトヲ得(第四百十二條)(一)

(一)治罪法第二編第二卷第一章豫審及ヒ裁判ノ無効

(第四百七條) 重罪、懲治罪又ハ違警罪ノ事項ニ於テ終審ニテ爲シタル上等又ハ下等裁判
所ノ裁判並ニ其以前ノ豫審及ヒ訴ノ手續ハ以下ノ場合ニ於テ及ヒ以下ニ定ムル差別ニ從
ヒ爲ス所ノ訴ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得可シ

第一款重罪ノ事項

(第四百八條) 若シ重罪被告人ノ刑ノ言渡ヲ受ケ而シテ重罪裁判所ニ其移送ヲ命令シタ
ル控訴裁判所ノ裁判ニ於テ若クハ重罪裁判所ニテ爲シタル豫審及ヒ訴ノ手續ニ於テ若ク
ハ其刑ヲ言渡シタル裁判ニ於テ此法典ニ無効ノ罰款ヲ以テ必要ナリト定ムル所ノ法式中
或者ニ違背シ又ハ之ヲ遺脱シタルコトアル時ハ其遺脱又ハ違背ノ爲メ其刑ヲ言渡サレタル
者又ハ檢察官ノ訴ニ依リ其刑ヲ言渡シタル裁判ノ取消ヲ爲シ及最モ先キノ無効ナル所爲

ヨリ始メテ其裁判以前ノ諸件ノ取消ヲ爲ス可シ

管轄違ノ場合又ハ法律ニ依リ附與セラレタル權能又ハ權利ヲ行ハントスル重罪被告人ノ
一箇又ハ數箇ノ請求ニ付キ若クハ檢察官ノ一箇又ハ數箇ノ請求ニ付宣告スルコトヲ遺脱シ
或ハ宣告スルコトヲ否拒シタル場合ニ於テハ假令其執行ヲ請求シ又ハ請求シタル法式ノ欠
缺ニ法律ノ成文上ニテ無効ノ罰款ヲ附セサル時ト雖モ亦右ト同一ナル可シ

(第四百九條) 重罪被告人ノ放免ノ場合ニ於テハ檢察官ヨリ其放免ヲ宣告シタル命令及

ヒ其以前ノ諸件ノ取消ヲ法律ノ利益ノ爲メノミニ訴フルコトヲ得可ク之レカ爲メ其放免セ
ラレタル者ニ害ヲ被ラシムルコトナカル可シ

(第四百十條) 若シ法律上ニテ重罪ノ性質ニ適用スル所ノ刑ヨリ更ニ他ノ刑ヲ裁判ヲ以
テ宣告シタルニ由リ無効ヲ申立ツ可キ時ハ檢察官並ニ其刑ヲ言渡サレタル者ヨリ右裁判
ノ取消ヲ訴フルコトヲ得可シ

若シ刑事法律ノ存在セサルニ基キテ不問ヲ宣告シタルニ其法律ノ存在シタル時ハ、檢察
官ヨリ第三百六十四條ニ記載シタル不問ノ裁判ニ對シテ右ト同一ノ訴權ヲ行フコトヲ得可
シ

(第四百十一條) 宣告シタル刑カ重罪ニ適用スル所ノ法律ニ定メタル刑ニ同シキ時ハ何

人ニ限ラス法律ノ正條ノ引援ニ於テ錯誤ノアリタル旨ヲ口實トシテ其裁判ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス)

(第四百十二條 如何ナル場合ニ於テモ民事原告人ハ放免ノ命令又ハ不問ノ裁判ヲ取消ヲ訴フルコトヲ得ス然レモ若シ其裁判カ放免セラレ又ハ不問ヲ言渡サレタル者ノ請求ニ過タル民事上ノ言渡ヲ其民事原告人ニ對シテ宣告シタル時ハ民事原告人ノ請求ニ依リ其裁判中右ノ所定ヲ取消スルコトヲ得可シ)

第二款懲治罪及ヒ違警罪ノ事項

(第四百十三條 第四百八條ニ明示シタル取消ノ方法ハ懲治罪及ヒ違警罪ノ事項ニ於テハ其輕罪及ヒ違警罪ヲ訴ヘラレタル者ノ免訴ヲ宣告シタルモノト其處刑ヲ宣告シタルモノトノ差別ナク、總テ上等又ハ下等裁判所ノ終審ノ裁判ニ對シ其罪ヲ訴ヘラレタル者並ニ檢察官及ヒ民事原告人アル時ハ其民事原告人ノ爲メ各自ニ開始セラル、モノトス然レモ若シ其輕罪又ハ違警罪ヲ訴ヘラレタル者ノ免訴ヲ宣告シタル時ハ何人ヲリモ其者ノ辯護ヲ保ズル爲メニ定メタル法式ノ違背又ハ遺脱ヲ其者ニ對シテ益用スルコトヲ得ス)

(第四百十四條 第四百十一條ノ成規ハ懲治罪及ヒ違警罪ノ事項ニ於テ爲シタル上等又

ハ下等裁判所ノ終審ノ裁判ニ適用ス可キモノトス)

(第一千三百七十一號) 我輩ハ又判定カ或ル名義ニ於テ大審院ノ管轄ニ屬スル所ノ特別裁判權ニ付キテハ講究セサルヘシ

(第一千三百七十二號)

上告ノ普通ノ期限ハ終審裁判ノ言渡ヨリ全三日ナリトス(第三百七十二條ノ規定ハ即チ此ノ如シ固ヨリ此條ハ陪審ニ附スヘキ事件ノ表題ノ下ニ置レタレトモ他ニ期限ヲ定ムル所ノ正條絶エテアルコトナキヲ以テ同様ニ裁判ニ對スル上告ニ之ヲ適用ス即チ(他ノ規定ナキニ依リ違警罪事件ニモ輕罪事件ニモ適用スル)所ノモノナリ而シテ這ハ唯處罰ノ裁判ニ對スル上告ノミナラス而モ管轄若クハ豫判ニ付キテ裁判スル裁判又ハ放免スル裁判ニ對スル上告ニモ亦適用スル所ノモノナリ

裁判ノ言渡ヨリ全三日ノ期限ヲ經過セシムル所ノ規則ハ關係人ノ法律上ノ現在ニ於テ此言渡ヲ爲シタルコトヲ想像ス即チ第三百七十三條ハ被刑者ニ關シテ曰ク(其裁判ヲ宣告セラレタル日ヨリ後全三日)ト若シ裁判官憲ノ或ル所爲ノ結果ニ因リ例ヘハ日ヲ指定セスシテ裁判言渡ヲ延期シ又ハ千八百二十五年九月九日ノ法ヲ適用(第一千二百七十八號及次號參觀)ニ依リ被告人カ其言渡ニ現在セザリシキハ全三日ノ期限ハ被告人ニ爲シタル所ノ裁判書ノ送達又ハ通知ノ後ニ非サレハ經過スルコトヲ得サルヘシ、我カ裁判例ノ定ムル所ハ恰モ此ノ如シ

終審裁判ノ場合ニ於テ若シ欠席裁判ニ係ル時ハ我輩ハ已ニ(第二千三百八十三號參觀)如何ニ故障ノ普通ノ上訴方法ノ存スル間ハ大審院上告ノ非常ノ上訴方法ノ問題トナルコトヲ得サルコトヲ述ヘタリ、即チ其此ノ如クナルヲ以テ上告ノ全三日ノ期限ハ此場合ニ於テ故障ノ期限ノ消盡シタル後チニアラサレハ經過スルコトヲ得ス

我輩カ第二千三百七十號ノ終リニ於テ示シタル所ノ免訴又ハ放免ノ後チ來リタル判決ニ對スル上告ノ特別ナル場合ニ於テ民事原告人其上告ヲ爲ス爲メノ期限ハ二十四時間ニ減縮セラル(第三百七十四條)(一)

(二)治罪法(第三百七十三條) 刑ヲ言渡サレタル者ハ破毀ヲ得ント上告スル旨ヲ書記局ニ申述スル爲メ其裁判ヲ宣告セラレタル日ヨリ後全三日ノ猶豫ヲ有ス可シ

檢事長ハ之ト同一ノ期限内ニ其裁判ノ破毀ヲ請求スル旨ヲ書記局ニ申述スルコトヲ得可シ

民事原告人ハ亦右ニ同シキ期限ヲ有スルモノトス然レトモ民事原告人ハ自己ノ民事上ノ利益ニ關スル所定ノミニ付キ上告スルコトヲ得可シ

其三日間ハ重罪裁判所ノ裁判ノ執行ヲ延ハス可ク若シ又破毀ヲ得ント上告シタル時ハ大審院ノ裁判書ヲ收受スルニ至ルマテ重罪裁判所ノ裁判ノ執行ヲ延ハス可シ

(第三百七十四條) 此法典第四百九條及ヒ第四百十二條ニ定メタル場合ニ於テハ檢事

長又ハ民事原告人其上告ヲ爲ス爲メ二十四時間ノ猶豫ノミヲ有スルモノトス(茲ニ檢事長ニ指定セラレタル二十四時間ノ期限ハ此法官カ放免ノ命令(第二千三百七十號參觀)ニ對シテ爲シ得ル所ノ法律ノ利益ノ爲メニスル上告ニ關ス民事原告人ニ付キテハ其利益ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル上告ニ係ル)

之ヲ要スルニ我輩ハ場合ニ從ヒ關係人ノ利益ニ於テスル大審院上告ニ付キテハ五日ノ期限(第二百九十六條)普通法ナル所ノ三日ノ期限(第三百七十三條第一項)及ヒ二十四時間ノ期限(第三百七十四條)アルコトヲ看ル此期限ハ生スヘキ事項ト共ニ變更スル所ノ起算點ニ注目スルヲ要スル所ノモノナリ

總テ此制規ハ順序頗ル其當ヲ得サルコトヲ認メサル可カラス、其爲シタル區別ハ確的ナル理由アルコトナシ、此ノ如キ短キ期限ハ並ニ同様ナル方法ヲ以テ規定スルコトヲ得タルナルベシ

(第二千三百七十三號) 上告ハ(第二百條及ヒ第三百七十三條)ノ言辭ニ從ヒ書記局ニ爲ス申立ニ因リテ之ヲ爲ス (第三百七十三條)ノ場合ニ於テハ書記ニ爲ス申立ヲ以テ足レリトス(譯者曰ク本條ノ正文ニ據レハ書記局トアリ而シテ著者ノ此ノ如ク云フヲ觀レハ或ハ裁判例ニテ然ルナラン歟姑ク原文ノマ、ニ譯ス)

其他被刑者又ハ民事原告人ニ對シ其上告ノ受理セラル、爲メニハ罰金ノ豫納ヲ要求セラル
 而シテ此豫納金ハ若シ是等ノ者カ其上告ニ敗訴スル時ハ沒收セラル、モメトス此罰金ノ額
 ハ百五十フラン(戰爭稅譯者曰ク七十年普國トノ戰爭ノ償金ヲ拂フ爲メニ課シタル稅ヲ戰
 爭稅ト曰フ)ヲモ加フナリ、重罪欠席ノ判決若クハ輕罪欠席ノ判定ニ係ル時ハ其半額ナリト
 ス 第四百二十條ニ從ヒ無資力ヲ証明スル者ハ右ノ豫納金ヲ免カル 被刑者ハ違警罪又ハ
 輕罪事件ニ於テノ罰金ニ服セラレ重罪事件ニ於テハ決シテ服セラル、コナシ(第四百十
 九條及ヒ第四百二十條)

最終ニ輕罪ノ刑ナルト違警罪ノ刑ナルト問ハス自由ヲ剝奪スルノ一刑ニ處セラレタル被
 刑者ハ其上告ノ受理セラル、爲メニハ第四百二十一條ノ定ムル所ニ從ヒ自ラ捕ニ就クノ義
 務アリ是レ人カ千七百三十八年ノ規則中ニ見ル所ノ古キ言辭ニ從ヒ法律専門ノ語トシテ
 「タ、メ、トル、アン、エター」(譯者曰ク此語ヲ直譯スレハ己レヲ位地ニ置クト云フノ義ナリ即
 チ自ラ捕ニ就クヲ云フ)ト呼フ所ノ者ナリ

(第二千三百七十四號) 上告ニ付キテハ左ノ判決ヲ來ス 或ハ棄却ノ判決即チ抗擊セラレタ
 ル裁判ハ此レヨリシテ執行スヘキモノトナル 或ル破毀ノ判決 是レナリ
 上告セラレタル裁判ハ棄却ノ結果ニ因リ少クモ檢事長カ(譯者曰ク原文ニ檢事長トアレモ)

モ恐クハ檢察官ナラン)司法卿ヨリ棄却ノ判決ノ送付ヲ受ケタル時ヨリ其効力ヲ再生シ且
 ツ執行スヘキモノトナル(第二千三百七十五條及ヒ第四百三十九條)

大審院ハ破毀ノ判決ヲ下シタル時ハ一般ノ規則ニ於テ新タニ裁判セラル、カ爲メニ訴訟及
 ヒ訴訟關係人ヲ其取消サレタル判決ヲ與ヘタル所ノ裁判所ト同一ノ資格ヲ有スル他ノ裁判
 所ニ送付ス但シ此裁判所カ管轄違ナリトノ理由ニ因リテ取消ノ言渡サレタル時ハ格別ナリ
 トス此場合ニ於テハ大審院ハ訴訟ヲ管轄スヘキ所ノ裁判官ニ訴訟ヲ送付シ且ツ此裁判官ヲ
 指定ス(第四百二十七條ヨリ第四百三十一條ニ至ル)

破毀ハ或ル場合ニ於テ部分ニ屬スルコアリ即チ一點ニ就キテ破毀アリテ他ノ點ニ就キテ破
 毀ナキコアリ然レトモ實際ニ於テハ茲ニ紛雜ヲ生ス其紛雜ヲ解除スルハ檢察官ノ利益ニ付
 キテモ被刑者ノ利益ニ付キテモ甚タ緊要ニシテ特ニ陪審ノ種々ノ答ノ中ニ於テ一個ハ他ノ
 一個ヨリ獨立ナル者又ハ獨立ナラサル者ハ孰レナルヤヲ知ルニ係ル時ハ双方ノ利益ニ付キ
 テ甚タ緊要ナリトス抑々陪審ノ此種々ノ答ハ各異ナリタル瑕瑾又ハ各異ナリタル合格ヲ有
 スルコアリ隨ヒテ各別ニ取消サレ又ハ保持セラル、コヲ得ル所ノ者アリ之ニ反シテ一個ノ
 取消ハ他ノ取消ヲ來サ、ル可カラサル如ク然ク其間ニ聯結セラル、所ノ者アリ大審院ノ注
 意ヲ甚タ細密ナル微差ニ於テ喚起シ而シテ此問題ノ緊要的及微妙的トナル所ノ者ハ則チ關

係人ト被告人トニ對シ其法律ニ從ヒ訴訟ニ於テ已ニ得タル所ノ者ヲ毫モ奪ハサルノ狹隘ナル義務是レナリ

若シ破毀カ刑法ノ適用ヲ誤リタルノ理由ニ因リテノミ言渡サレタル時ハ此點迄ノ辯論及ヒ陪審ノ宣言ハ存在シ事件ヲ送付セラル、所ノ新裁判所ハ新タニ法律ノ適用ヲ爲スニ過キス破毀カ事件ヲ送付スルコトナクシテ言渡サレサル可カラサル場合ヲ生スルコトアリ即チ例ハ破毀カ公訴權ヲ除棄スル所ノ期滿免除、大赦、確定裁判アリト云ヒ又ハ被告事件ハ如何ナル點ニ就キテモ罰スヘキ者ナシト云フノ理由ニ基キテ言渡サル、時ノ如キ是レナリ
大審院ハ破毀ヲ爲シ而シテ其破毀ヲ受ケタル判定ヲ與ヘタル所ノ裁判所ノ記録ニ之ヲ登記スヘキコトヲ命ス其他大審院判決錄(ビュルタン、デ、アレー、ド、カッサシヨン)ト題スル合綴ヲ成ス所ノ特別ノ冊子ニ之ヲ印刷ス是レ皆ナ千七百九十年十二月二十七日ノ法第二十三條ヲ執行ニ因ルモノナリ

(第二千三百七十五號)破毀ノ後チ事件ノ送付ヲ受ケタル所ノ新裁判所ハ固執シテ第一ノ如ク判定ヲ下シ且其判定シタル第一ト同一ノ上告方法ヲ以テ抗擊セラル、場合ニ於テハ千八百三十七年四月一日ノ法ノ規則ヲ適用セサル可カラズ(一)即チ大審院、刑事局ハ上告方法カ第一ト同一ナルコトヲ認メタル後チ其上告ヲ各局總會議ニ送付ス大審院ハ事件ヲ三局ノ公

式公廷ニ於テ判決ス可シ、而シテ若シ此第二ノ上告ニ對スル判定カ第一ト同一ナル時ハ送付ヲ受ケタル裁判所ハ之ニ從フノ義務アリ此ノ如キ公式ノ判決ハ其歸スル所ノ信用甚大ナリ、然レモ尙ホ裁判例ニ於テ此判決ハ唯之ヲ與ヘタル所ノ事件ニ就キテ威權ヲ有スルニ過キス而シテ裁判所ニ於テハ他ノ總テノ事件ニ就キテ其固有ノ持論ニ從ヒテ判定ヲ與フルノ權利ハ完全ニ存スルモノトス

(一)千八百三十七年四月一日頒布二回ノ破毀ノ後チ大審院ニ於テ與ヘタル判決ノ威權ニ關スル法(第一條 終審裁判ノ後チ第一ノ判定ト同一ノ事件ニシテ同一ノ資格ヲ以テ訴訟ヲ爲ス所ノ同一ノ關係人ノ間ニ與ヘタル第二ノ判定カ第一ト同一ノ方法ヲ以テ抗擊セラル、時ハ大審院ハ各局總會議ノ上之ヲ判決ス可シ)

(第二條 若シ第一ト同一ノ理由ヲ以テ第二ノ裁判ヲ破毀シタル時ハ事件ノ送付ヲ受ケタル所ノ控訴院又ハ裁判所ハ大審院ノ判決シタル法律ノ點ニ於テ其判決ニ從フ可シ)

(第三條 大審院ハ公式公廷ニ於テ判決ス可シ)

(第四條 千八百二十八年七月三十日ノ法ハ之ヲ廢止ス)

法律ノ利益ニ於テ爲ス所ノ破毀ノ上告
(第二千三百七十六號)此法律ノ利益ニ於テ爲ス所ノ破毀トハ此破毀タル毫モ訴訟關係人

ニ利害ノ影響ヲ及ホサスシテ單ニ爲シタル所ノ法律ノ違犯又ハ誤謬ノ解釋ノ例ヲ示サシカ
爲メニ爲スモノナリ、是レ然ク犯シタル法律ノ錯誤ノニタヒ同一ノ裁判所ニ生シ又ハ他ノ
裁判所ニ傳播スルコトヲ防カンカ爲メナリ、夫ノ破毀セラレタル判定ヲ與ヘタル裁判所ノ記
録ニ其破毀ノ判決ヲ登記セシメ他ノ裁判所ニ對スル訓令トシテハ大審院判決録ニ其判決ヲ
記載シ及ヒ其他總テノ方法ヲ以テ生スル所ノ公示ハ皆ナ制裁ノ方法ナリト

(第二千三百七十七號) 法律ノ利益ニ於テ爲ス所ノ大審院上告ハ二種ナリトス即チ
第一 訴訟ニ於テ關係人タル檢察官カ放免ノ命令ニ對シテ爲スコトヲ得ル所ノ上告(一)此上
告ヲ爲スコト期限ハ二十四時間ニ過キス(第二千三百七十四條 第二千三百七十二號捕註ニ於テ
此條ノ正文ヲ觀ルヘシ)

(二)治罪法(第四百九條) 重罪被告人ノ放免ノ場合ニ於テハ檢察官ヨリ其放免ヲ宣告シ
ル命令及ヒ其以前ノ諸件ノ取消ヲ法律ノ利益ノ爲メノミニ訴フルコトヲ得可ク之レカ爲メ
其放免セラレタル者ニ害ヲ被ムラシムルコトナカル可シ)

第二 大審院檢察長カ治罪法第四百四十二條ノ正文ニ從ヒ自カラ爲スノ權利ヲ有スル所ノ
上告(二) 我輩ハ此檢察長ノ權利ハ關係人ニ於テ利害ノ關係上ヨリシテ抗擊スルコトヲ得ル
所ノ判定ニ對シテノミニ成立チ隨ヒテ終審ニ於ケル裁判ノ性質ヲ有スル者ニ對シ且ツ單ニ利

害關係の上告ノ期限カ消盡シタル時ニ成立ツコトヲ注目セシムヘシ

(一)治罪法(第四百四十三條) 若シ控訴裁判所又ハ重罪裁判所或ハ懲治裁判所又ハ警察裁
判所ヨリ破毀ヲ受ク可キ終審ノ裁判ヲ爲シタリト雖モ定期内ニ之ヲ破毀セシト請求スル
者アラサル時ハ大審院ニ於ケル檢察長其期限ノ終リタルニ拘ヘラス亦其職權上ヨリ右ノ
旨ヲ大審院ニ通知スルコトヲ得可ク而シテ其裁判ハ破毀セラル可シ、但シ關係人ハ其裁判
ノ執行ニ付キ故障ヲ申立ツル爲メ其破毀ヲ益用スルコトヲ得サルモノトス(此條ハ其原ヲ
千七百九十年十一月二十七日ノ基本ノ法律(第二十五條、此條ハ共和紀元第八年六月二十
七日ノ法第八十八條ニ再出シタリ)ニ取ル所ニシテ最モ一般ニ即チ其言辭中ニ普通ト特
別トヲ問ハス大審院ニ屬スル總テノ裁判所ヲ包含セリ今日尙ホ此基本ノ正文ニ準據シテ
解釋セサル可カラズ)

司法卿ノ特別ノ命令ニ因リテ爲ス所ノ取消ノ上告
(第二千三百七十八條) 司法卿カ一個ノ命令ニ因リ治罪法第四百四十二條(一)ニ從ヒ大審院
檢察長ニ爲スコトヲ命スルコトヲ得ル所ノ取消上告ハ全ク前ノ上告ニ異ナリトス、此條ノ規則
ハ其源ヲ千七百九十一年ノ憲法中ニ發ス、乃チ其根原ノミニ就キテ之ヲ觀ルモ茲ニ人民ノ
裁判上ノ利益ニハアラスシテ而モ尙ホ裁判ノ支配ニ關與スル所ノ總テノ官廳カ規則ニ從ヒ

其各威權ノ限界中ニ在リテ維持セラレ各職務ヲ行フコト外部ノ侵犯ヲ爲シ而シテ其侵犯タル外形上其威權ノ限界中ニ在ルノ裝ヒヲ毫モ爲サ、ルコト及ヒ法律カ此官憲ノ所爲中ニ遵守セラレ、コトヲ欲スル所ノ社會ノ一般ノ大利益ヲ保護スルコトニ充テラレタル一層高尚ナル一制度ナルコトヲ知ルニ足ル、此大ナル利益ヲ監視シ且ツ之ヲ守護スルカ爲メ二千七百九十一年ノ憲法及ヒ裁判構成ニ關スル共和紀元第八年ノ法次キニ我カ第四百四十一條ハ其特別ノ正文ニ於テ刑事裁判ニ關シテ司法卿ニアラサレハ爲スコトヲ得サル所ノ特別ナル命令ノ方法ニ因リ政府ニハ着手ノ權ヲ與ヘ且ツ大審院ニハ裁判ノ權ヲ與ヘタリ、非常ニシテ且ツ政府ノ一所爲トモ云フヘキ此ノ如キ上訴ハ之ヲ小事件ニ使用ス可カラズシテ、而モ其使用ハ實ニ公益ニ係ル所ノ理由ニ因リテ定メラレサル可カラサル所ノ一器械ナリトス、茲ニ裁判ノ性質ヲ有スル所爲ニ係ルヲ以テ必要トナサス、裁判ノ終審ナルヲ以テ亦必要トナサス、又利害關係の上告ノ期限ノ消盡シタルヲ以テ要用トナサス即チ總テノ裁判上ノ所爲例セハ一個ノ異議、一個ノ正當ナラサル會議、一個ノ一般ニシテ且ツ例規ヲ定ムルノ方法ヲ以テ爲シタル判定、豫審裁判官、檢察官、重罪裁判長ノ不正ノ一所爲、初審又ハ終審ニ於ケル欠席又ハ對審ノ總テノ裁判等ニ對シテ關係人ニ許サレタル種々ノ上訴若クハ利害關係の上告ノ期限ノ消盡前後ヲ問ハス、皆ナ此取消ニ於ケル訴求ヲ爲スコトヲ得

(二) 治罪法(第四百四十一條) 若シ司法卿ヨリ附與セラレタル明確ナル命令書ヲ示シタル上ニテ大審院ニ於ケル檢事長ヨリ法律ニ牴觸シタル裁判上ノ所爲又ハ上等或ハ下等裁判所ノ裁判書ヲ刑事局ニ告發シタル時ハ其所爲又ハ上等或ハ下等裁判所ノ理由アル時ハ本編第四卷第三章ニ明記シタル方法ヲ以テ警罪官又ハ裁判官ノ罪ヲ時フルコトヲ得可シ(此條ハ其基本タル千七百九十一年ノ憲法第三卷第二十七條) 共和紀元第八年第六月二十七日ノ法第八十條トニ連絡シテ解釋セサル可カラズ此第八十條今日尙ホ刑事ニアラサル事件ニ就キテハ現ニ行ハル、所ノ正文ニシテ特ニ裁判官カ其職務ノ施行中犯シタル越權又ハ犯罪ノ場合ニ於テ大審院ノ願書局ニ關係人ノ權利ヲ害スルコトナク其取消ノ威權ヲ屬スル所ノモノナリ) 我カ實際ノ裁判例ニ於ケル大問題ハ此第四百四十一條ニ因リテ言渡サレタル取消ノ勢力ハ當サニ何ノ邊ニ及フヘキヤヲ知ルニ在リタリ、實ニ此條ハ其正文ニ於テ取消ハ關係人ノ利害ニ其勢力ヲ及ボシ得ルコトナク唯法律ノ利益ノ爲メノミニ之ヲ爲ストノ舊法ノ制限ヲ再出セタリ、此勢力ハ關係人ノ利害ニ及フモノナルヤ又ハ及ハサルモノナルヤニ依リテ決ス、若シ關係人ノ間ニ於ケル訴訟ト裁判トニ關セスシテ而モ公益ト各官廳ニ課ヤレタル限界ノ維持トノミニ關シテ顯ハル、所ノ裁判上ノ所爲ノミニ在ル時ハ實ニ右ノ問題ヲ生ズル

ナシ、此場合ニ於テハ取消ハ單ニ學理的ノ取消ニアラスシテ實際ノ效能ヲ有スヘシ大審院ハ固ヨリ法律ニ反スル所爲ヲ無効ナラシメサル可カラス、例ヘハ不法ノ會議、概括的ニ且ツ例規ヲ定ムルノ方法ヲ以テ爲シタル判定、不正ノ異議裁判所ニ於テ檢察官ニ爲サレタル譴責ノ如キ所爲ヲ無効トナサ、ル可カラス即チ大審院ハ此ノ如キ所爲ニ對シテ勢力アル總テノ外形ヲ剝取シ且ツ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ記録ヨリ除却スヘキコトヲ命セサル可ラス、然レトモ裁判ニ關スル時ハ右ノ問題ヲ生ス學說及ヒ裁判例ハ法律ノ單一ノ利益ノミヲ主張スルノ派ト關係人ノ利害ニ影響ヲ及ホスコトヲ主張スル派トノ間ニ徘徊シテ經過シ來レリ、今日ハ則チ之ヲ一定スルコトヲ得ヘシ、其爲シ來リタル適用ノ數次ノ例ハ人ノ思想ヲ明カナラシム而シテ法律ノ元則ニ從ヒ相繼イテ監督シ追叙シタル經驗ヨリシテ遂ニ從フ可キ所ノ方法ヲ剖出スルコトヲ得タリ、

其方法ハ我輩ノ觀ル所ニ依レハ結局左ノ基本的規則ヲ成スニ至レルモノトス、即チ已得權ヲ尊敬スルコト是レナリ、行政ト裁判ト立法トヲ論セス如何ナル權限ト雖モ賠償ノ責任ヲ以テ認メラレタル公益上所有權奪取ノ場合ヲ除クノ外、已ニ人ノ得タル所ノ一權利ヲ奪フコトヲ得ス、乃チ司法卿ノ特別ノ命令ニ因リ法律ニ反スル裁判カ若シ他ニ送付セズシテ破毀セラル、時ハ大審院若シ送付ヲ以テ破毀セラル、時ハ送付ヲ受ケタル裁判官ハ威權ハ此一般

ノ限界ヲ超越スルコトヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ、右ノ問題ニ關スル困難ハ遂ニ左ノ二點ニ蒐集シ來ル、即チ如何ナル場合ニ於テ、如何ナル事ニ關シ且ツ如何ナル人ニ對シテ已得權アリヤ又ハナシヤヲ區別スル是ナリ、抑々取消サレタル裁判ノ日附及ヒ性質、問題ニ係ル權利ノ種類、此權利ヲ請求スル關係人ノ資格ハ必要ノ元素トシテ此困難ヲ解剖スルノ中ニ入ルヘシ即チ此裁判ハ例ヘハ本案裁判ノ未タ與ヘラレサル時豫審ノ裁判ナルヤ尙ホ故障ヲ爲シ得ヘキ欠席裁判ナルヤ尙控訴ヲ爲シ得ヘキ始審裁判ナルヤ尙ホ利害關係の上告ヲ爲シ得ヘキ終審裁判ナルヤ又ハ關係人ニ許サレタル利害關係的ノ如何ナル上訴ノ方法モ其期ヲ過シシタルノ久暫ヲ問ハス業ニ已ニ存セサル所ノ回復ス可カラサル裁判ナルヤハ人此無數ニシテ各事件ニ從ヒ大變更ヲ受ケ得ヘキ元素ニ就キテ大審院ニ於テ言渡ス所ノ取消ハ常ニ同一ニ及ホス所ノ勢力ヲ有ス可カラサルコトヲ感ス即チ取消ハ時トシテハ法律ノ單一ノ利益ニ於テ生セサル可カラス又時トシテハ關係人カ已得權ヲ有スト主張スルコトヲ得サル所ノ點ニ係ルニ因リ關係人ノ利害ニ影響ヲ及ホス所ノ結果ヲ以テ生セサル可カラサルコトヲ感ス、此點ニ付キ適用ノ細目ニ於テ疑點ヲ明瞭ナラシムル性質ノ意見中ニ就キテ我輩ハ左ノ三個ヲ舉クルニ止マルヘシ即チ

第一 方式ニ瑕瑾ヲ有シ又ハ法律ノ適用ヲ誤リタル一裁判ニ因リテ爲サレタル放棄、免訴

若クハ法律上ノ刑ヨリ輕キ刑ノ處罰ハ若シ此裁判ニシテ檢察官ニ許サレタル利害關係的ニ如何ナル上訴モアルコトナクシテ回復ス可カラサルモノトナリタルニ於テハ然ク裁判セラレタル人ノ爲メニ已得權ヲ組成ス其後テ來リタル司法卿ノ命令ニ因リテ爲ス所ノ上告ニ對スル取消ス此已得權ヲ除却スルコトヲ得ス此人ノ位置ハ之レカ爲メニ一層不良トナルコトヲ得ス然レトモ之ニ反シテ同一ノ情狀ニ於テ法律ノ刑ヨリハ一層重キ刑又ハ我カ法律ニ於テ許サ、ル所ノ或ル刑ノ處罰ハ被刑者カ此ノ如キ處罰ニ對シ被刑者ニ許サル、所ノ如何ナル利害關係的ノ上訴方法ヲモ最早存スルコトナシト雖トモ且ツ其後テ經過シタル時間ノ久シキニ彌ルト雖モ已得權ノ元則ニ因リテ之ヲ支配スルコトヲ得サルヘシ若シ已得權アリトモ何人ノ爲メニ存スルヤ社會ノ爲メニ存ストセンカ社會ハ刑事事件ニ於テ善良ノ裁判ノ利益ヨリ外復タ他ノ利益ヲ有セス後ニ至リテ來リタル司法卿ノ特別ノ命令ニ因リ法律ニ反スル裁判ヲ取消サシメ而シテ社會ハ自然ニ此裁判ヲ執行スルノ威權ヲ拋棄ス即チ取消ス尙ホ利益ヲ與ヘ得ラル、ニ於テハ總テ被刑者ニ對シテ要用ナル效果ヲ生スヘシ

人時トシテハ第四百四十一條ニ因リテ言渡サレタル取消ハ被告人又ハ被刑者ニ利益ヲ與ヘサル可カラサルモ之ヲ害スルコトヲ得スト云ヒテ前段ノ解明ヲ一般ニス然ク一般ニスル時ハ不確的ノ發論トナル、我輩カ今指示シ來リタル所ノ場合ニ於テハ此發論タル、適當ナレトモ

他ニ錯誤ヲ來ス所ノ場合多シ乃チ決シテ離ル可カラサル方針ハ唯已得權ノ點ニ在ルシニ
 第二 若シ人又ハ或ル官廳カ我カ裁判構成ノ規則外ニ於テ不法ニ自ラ裁判所トナリ又ハ裁判所トセラレタル時ハ是レ裁判所ヲ摸擬シタルニ過キササルヲ以テ此ノ如キ僞似ノ裁判官ニ於テ言渡シタル裁判ハ何人ニモ已得權ヲ與フルコトヲ得サルヘシ即チ此裁判カ放免ヲ來スト免訴ヲ來スト處罰ヲ來ストヲ問ハス第四百四十一條ニ因リテ爲シタル取消ハ効能アル方法ヲ以テ此裁判ヲ無効ナラシム可ク而シテ若シ起訴スルノ要アリトモハ更ニ管轄裁判所ニ對シテ之ヲ爲サ、ル可カラス

第三 同様ナル道理ニ因リ、一般ノ管轄ニ付キテノ判定ハ若シ法ノ定メタル威權ノ紛雜ヲ合著スル時ハ之ヲ已得權ヲ組成スルモノト看做スコトヲ得ス
 破毀ノ上告ト取消ノ上告トノ辭ハ外形的ヨリ之ヲ觀レハ覆言タルニ過キササルカ如シト雖モ其實敢テ然ルニアラス且ツ已ニ其言辭上尙ホ差異アルカ如ク此二上告ノ間ニ於テ法律上ハ大ナル差異ノ存スルヤ右ニ述フル所ノ如シ

第二節 再審ノ訴

(第二千三百七十九號) 茲ニ於テハ大審院上告ニ於ケルカ如ク法律ノ錯誤ニ係ラスシテ、而モ事實ノ錯誤、即チ語ヲ換ヘテ之レヲ言ヘハ誤判ノ裁判ヲ抗擊シ得ル所ノ種々ヲ上訴スル期

限ヲ經過シ又ハ其方法ヲ盡シタル時ハ公法ノ原則ニシテ人ノ安息及ヒ社會ノ安息ニ必要ナル確定裁判ノ威力ニ因リテ掩蔽セラル、所ノ事實ノ錯誤ニ屬ス、我輩ハ此原則タル、單ニ最屢々然ル者ナリ(羅何語ニ「テ、エヲ、クオド、アレルムクエ、フット」ト云フ)トノ推測ニ憑據シタルモノニシテ、裁判官カ迷誤ニ陥リタル所ノ特別ニシテ且ツ例外ナル場合ヲ以テ一般ノ利益ノ爲メニ之ヲ犧牲ニ供スル者ト爲ス而シテ我輩ハ刑法ニ於テ此ノ如ク犧牲ニ供スル事ハ若シ被告人ニ利益アル迷誤ニ係ル時ハ之ヲ回復スルコトナク且ツ嚴確ニ之ヲ保持セサル可カラスト爲セトモ若シ其迷誤タル、不辜ヲ以テ有罪者ト爲シテ之ヲ罰シタルニ在ル時ハ右ト同一ニ論スルコトヲ得ス隨ヒテ此ノ如キ迷誤ノ發顯シタル時ハ之ヲ賠償セシムル爲ニ其門戸ヲ開カサル可ラサルコトヲ知ル此門戸ハ即チ再審ノ門戸ナリトス、裁判權及ヒ刑事訴訟手續ノ規則ノ最モ完全ニシテ裁判所ノ風習ニ由リテ最モ鄭重ニ取扱ハル、ニ隨ヒテ確定裁判ノ威力ハ一國ニ於テ最モ正當ニ信用セラレ最モ確實ニ信用セラレ、ノ價值ヲ有シ且ツ其結果トシテ善良ノ裁判ノ最善ナル保證ヲ與フ、此ノ如クナル時ハ裁判官ノ事實ノ錯誤ノ場合ハ最モ稀少ニ最モ例外ナルヲ以テ此威力ノ基ク所ノ推測ハ二層眞實ニ近ク再審ノ必要ヲ觀ルルコト最モ少ナク而シテ再審ヲ許スノ條件ハ最モ難カラサル可カラズ、前段ニ反シ裁判權及ヒ訴訟手續ノ規則又ハ裁判所ノ風習ニ於ケル保護ノ缺クル所ノ處ニ在

リテハ確定裁判ノ威力ノ基本トナル所ノ推測ハ眞實ニ遠カルヲ以テ此威力ハ確固タル基礎ヲ有セズシテ左動右搖スヘク常ニ事實ノ錯誤ノ恐レアリ茲ニ再審ハ最モ屢々必要ニシテ最モ廣ク門戸ヲ開カル、コトヲ要ス、千七百八十九年前ノ我カ裁判構成ニ於テハ或ル點ニ至ルマテハ前段ノ如クナリキ茲ニ處罰ノ迷誤ハ初メニハ迷誤ノ發顯ノ書面後チニハ再審ノ書面ノ方法ニ依リテ改正セラル、コトヲ得タリ而シテ此書面ヲ下付スルコトハ君主ノ隨意ニ在リタリ又敬慎願書ノ方法ニ依テモ之ヲ爲シタリ而シテ此願書ニ付キテハ君主ノ書面ノ下付ハ同一ノ公式ヲ要セザリシモ單ニ法律ニ於テ明瞭ニ定メタル場合ニ限り且ツ抗擊セラル、裁判ヲ與ヘタル所ノ裁判官ニ對シテハミ下付シタルモノニシテ唯之ヲ民事ニ用サタルノミナラス亦之ヲ刑事ニ用サタリ、千七百八十九年ノ革命ヨリ出テタル新法以來我國ニ於テハ刑法ニ就キテ最早敬慎願書ノ問題アルコトヲ再審ノ上訴ニ關シテハ憲法議院ノ時代ニ於テ廢止セラレ其後ハ甚ク制限セラレタル場合ニ就キテ漸次ニ再定セラレタリ即チ其場合ハ最初ハ一個ニ限定セラレ(千七百九十三年五月十五日ノ民撰議院ノ布令)次キニ他ノ種類ノ制限ヲ以テ三個ニ限定セラレタリ(千八百八年ノ治罪法第四百四十二條及ヒ次條)此時代ノ立法者ハ自由ノ辯護ヲ以テスル公示、口頭及ヒ對審ノ辯論ニ信用ヲ置キ且ツ特ニ陪審ノ制度ニ信用ヲ置キ而シテ確定裁判

ノ威力カ有スル所ノ公法ノ原則ヲシテ強且ツ大ニ其支配ノ力アラシメント欲シタリ、再審ノ再設ニ關シテ大ニ進歩シタル所ノ千八百八年ノ治罪法ニ於ケルモ尙ホ此立法者ノ精神ハ左ノ三條件ヲ具有スル時ニアラサレハ此威力ヲ毀傷スルコトヲ許サ、ルニ在リタリ、即チ裁判上ノ迷誤カ顯白ニ且ツ非常ノ方法ヲ以テ現出シタルコト又ハ少クモ裁判上看做サル、コト而シテ這ハ此立法者カ再審開始ノ原因ヲ限定シタル所ノ三個ノ類例ニ於ケルニアラサレハ認メサル所ノ者ナリ、此迷誤タル、一般ノ利益カ其影響ヲ受クルカ如クニ緊要ナルコト而シテ立法者ハ重罪ノ處罰ニ於テ此緊要的ヲ認メタルニ過キス、最終ニ新タニ訴訟ヲ裁判スルニアラサレハ再審ヲ行フコトヲ得サル時其事ヲ熟知シ而シテ再審ヲ爲ス方法ノ尙ホ存スルコト而シテ立法者ハ生存スル被刑者又ハ被告人ノ間ニ又ハ之ニ對シ口頭ニメ且ツ對審ナル辯論ノ裁判ニ上ニ於テ爲ス所ノ裁判ニ於ケルニ非サレハ此再審ノ爲シ得ヘキコトヲ認メサリキ、(第三千三百七十九號第二)王政復古ノ時代ヨリ以來總テ其後ノ政府ノ代ニ於テ且ツ特ニ千七百九十六年執行セラレタル不幸ナル處罰即チレジュルクノ處罰(一)ノ機會ニ於テ再審ノ權利ヲ擴張スルノ新思想カ種々ノ機ニ顯ハレタル夫ノ出板ノ路ニ依リテ之ヲ獎勵シタルカ若クハ茲ニ數ヘサルモ人己ニ千八百二十二年ニ於テ上院ノ中ヨリ、又千八百三十六年ニ於テ代議院ヨリ、千八百五十一年ニ於テ國會ヨリ、第八百六十四年ニ於テ立法院ヨリ、立法者ニ

對シ相繼エテ再審ノ權利ノ擴張ヲ喚起シタルヲ看ル、是レヨリシテ再審ノ訴ニ付キ治罪法第四百四十三條以下ノ變更ヲ來シタル所ノ千八百六十七年六月二十九日ノ法ヲ生出セリ我輩ハ茲ニ其正文ヲ舉示スヘシ(二)

(一)レジュルクノ事件ハ共和紀元第四年第八月八日リニールセンノ近傍ニ於テ盜罪ト共ニ犯シタル謀殺ニ關ス此犯罪ニ關與シタル者六人アリトシテ處罰セラレ且ツ執行セラレタリ然レモ此罪ハ五人ニテ犯シタルニ過キスト見ヘタリ輿論カレジュルクノ親族ノ爲ニ其五人ニテ犯シタル罪ニシテレジュルクノ之ニ關與セサルコトヲ論シタルヤ久シ、而ルニ新法ニ依リテ許サレタル所ノ再審ノ訴ヲ爲シタルモ千八百六十八年十二月十七日大審院ニ於テ之ヲ棄却シタリ此再審ノ訴ヲ爲シタルウイリジニレジュルク(被刑者ノ娘)未ダ僅ニ死セサル前我輩嘗テ之ニ會シタリ同人ハ劇場ニ於テ此問題ヲ演セラレタルノ影響ハ其父ノ紀念ニ對シテ利益トナルヨリハ寧ロ害トナリタリト確信シタリ

(二)重罪及ヒ輕罪ノ訴訟ノ再審ニ關スル千八百六十七年六月二十九日ノ法

第一條

(治罪法第四百四十三條第四百四十四條第四百四十五條第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ヲ廢止シ之ニ代スルニ左ノ數條ヲ以テス)

〔第四百四十二條 左ノ各箇ノ場合ニ於テハ裁定シタル裁判權ノ如何ヲ問ハス重罪又ハ懲治罪ノ事項ニ於テ再審ヲ請求スル事ヲ得可シ

第一 人殺ノ罪ノ爲メ刑ノ言渡アリタル後其殺サレタリト稱言セラレシ者ノ生存スル事ニ付キ充分ナル証憑ヲ生セシムルニ適當ナル證據物ノ差出サレタル時

第二 重罪又ハ輕罪ノ爲メ刑ノ言渡アリタル後更ニ新タナル裁判ヲ以テ同一ノ所爲ノ爲メ他ノ重罪被告人又ハ輕罪被告人ニ刑ヲ言渡シ而シテ其二箇ノ刑ノ言渡ヲ相調和セシムルヲ能ハサルニ依リ其抵觸カ右刑ヲ言渡サレタル者ノ中一方ノ無罪ナルノ証タル時

第三 証人中ノ一名カ刑ノ言渡アリタル後ニ其重罪被告人又ハ輕罪被告人ニ對スル偽証ノ罪ヲ訴ヘラレテ其刑ヲ言渡サレタル時

右ノ如クニ刑ヲ言渡サレタル證人ハ更ニ新タナル辯論ニ於テハ其申述ヲ聽カル、コトヲ得ス

〔第四百四十四條 再審ヲ請求スルノ權利ハ左ノ各人ニ屬スルモノトス

第一 司法卿

第二 刑ヲ言渡サレタル者

第三 刑ヲ言渡サレタル者ノ死去ノ後ニ於テハ其配偶者、其子、其血屬親、其全括ノ受遺囑者又ハ全括ノ名義ニ於ケル受遺囑者及ヒ刑ヲ言渡サレタル者ヨリ再審ヲ請求スル爲メ明ナル囑託ヲ受テタル者

懲治罪ノ事項ニ於テハ禁錮ノ刑ノ言渡又ハ國士權、民權、族權ノ執行ノ全部若クハ一部ノ禁止ヲ宣告シ又ハ惹起スル刑ノ言渡ノ爲メニ非サレハ再審ヲ爲スコトヲ得ス

大審院ノ刑事局ハ司法卿ヨリ職權上ニテ附與シ若クハ前ニ列記シタル場合中ノ一箇ヲ申立ツル關係人ノ要求ニ依テ附與シタル明カナル命令ニ據リ本院ノ檢事長ヨリ掌轄セラル可キモノトス

前條ノ第二及ヒ第三ニ定メタル場合ニ於テハ相調和ス可カラサルニ箇ノ刑ノ言渡中其第二ノモノ又ハ偽證ヲ述ヘシ證人ノ刑ノ言渡ヨリ二年ノ期限内ニ司法省ニ於テ關係人ノ再審ノ請求書ヲ記入シタルニ非サレハ其請求ヲ受理ス可カラズ

如何ナル場合ニ於テモ再審ヲ請求セラレタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判ノ執行ハ大審院ノ宣告アルニ至ル迄司法卿ノ命令ニ依リ當然之ヲ停止ス可ク然後別段ノ理由アル時ハ請求ヲ受理ス可キ事ヲ裁定スル大審院ノ裁可ニ依リ之ヲ停止ス可シ

〔第四百四十五條 受理ス可キ場合ニ於テ若シ其事件カ裁判シ得可キ景狀ノモノダラサ

ル時ハ大審院ニ於テ直接ニ又ハ委托ノ証書ニ依リ本案ニ付キテノ總テノ証人訊問、對質、人違ニ非サル事ノ認定、審訊及ヒ事實ヲ明瞭ナラシムルニ適當ナル方法ニ取掛ル可シ

若シ其事件カ裁判シ得キ景狀ノモノタル時大審院ニ於テ更ニ再ヒ對審ノ辯論ニ取掛ル事ヲ得可シト認定シタルニ於テハ大審院ニテ上等又ハ下等裁判所ノ裁判及ヒ再審ノ障礙タル總テノ所爲ヲ取消シテ其爲ス可キ所ノ問ヲ定メ而シテ重罪被告人又ハ輕罪被告人ヲ場合ニ從ヒ原來其事件ヲ裁定セシ裁判所ヨリ更ニ他ノ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ移送ス可シ

陪審ニ附セラル可キ事件ニ於テハ移送セラレタル控訴裁判所ノ檢事長ニ於テ更ニ新タナル重罪公訴狀ヲ作ル可キモノトス

(第四百四十六條) 若シ關係各人ノ間ニ更ニ再ヒ口上ノ辯論ヲ爲サシムル能ハサル時殊ニ刑ヲ言渡サレタル者一名又ハ數名ノ死去又ハ重罪缺席或ハ其他ノ缺席ノ場合及ヒ訴權ノ期滿効又ハ刑ノ期滿効ノ場合ニ於テハ大審院ニ於テ其口上ノ辯論ヲ爲サシムル事能ハサル旨ヲ明カニ證明シタル後若シ其訴ニ民事原告人ノアルニ於テハ其民事原告人ト死者各員ノ生前ノ名譽ノ爲メ大審院ヨリ撰任シタル管財人トノ面前ニテ豫メ破毀ヲ爲ス事

ナク又移送ヲ爲ス事ナク其訴ノ本案ヲ裁定ス可シ

右ノ場合ニ於テ大審院ハ刑ノ言渡ノ中ニテ不正ニ爲サレタル所ノモノヲ取消シ且別段ノ理由アル時ハ死者ノ生前ノ名譽ヲ申雪ス可シ

(第四百四十七條) 第四百四十二條ノ第一ニ明記シタル再審ノ場合ニ於テ若シ生存スル所ノ刑ヲ言渡サレタル者ニ關シテ裁判ヲ取消スニ依リ重罪又ハ輕罪ノ名稱ヲ附スルヲ得可キモノ、毫モ存在セザル時ハ移送ヲ宣告ス可カラス

第二條

新法ヨリ舊法ニ移ルニ付キテノ條則

(第四百四十四條) 於テ訟求ノ記入ニ付キテ規定シタル期限ハ第四百四十三條ノ第二及ヒ第三ニ於テ再審ノ訟求ヲ許シタル處罰カ總テ此法律頒布以前ニ在ル者ニ付キテハ此法律頒布ノ日ヨリ起算ス

新法ヨリ出ヅル所ノ主タル變更ハ左ノ如シ

(第二千三百八十號) 再審開始ノ場合ヲ限定スル所ノ限界ハ左ノ三個ニ保持セラレ即チ第一 殺人罪ニ關シテ其刑ニ處セラレタル後チ(單ニ未遂犯ニ係ル時ハ否ラズ)其殺サレタルト想像セラレタル人ノ生存スル事ニ付キ充分ナル証憑ノ生シタル場合 此開始ニ付キテ

爲ス所ノ再審ハ單ニ殺サレタリトセラレタル人ノ生存ヲ證明スヘキ性質ノ證據ヲ搜查シ及ヒ審案スルニ在リトス。若シ此證明ヲ爲シタル時ハ裁判上ノ迷誤ハ有形的ニ發顯ス。

第二 單ナル同一ノ犯罪事實ニ付キ相調和シ得サル所ノ異ナリタル二箇ノ判定ニ依リ一人及ヒ次キニ他ノ一人カ各、此事實ノ正犯ナリトシテ罰セラレタル場合此二箇ノ處罰ノ單ナル參觀及ヒ何レノ處罰ニ裁判上ノ迷誤アリタルヤノ證據ヲ要ス即チ二箇ノ判定ノ何レニ迷誤アリタリヤ。此第二ノ開始ニ付キテ爲ス所ノ再審ハ此問題ヲ決スル爲メニ事件カ新タニ二箇ノ被刑者ニ對シテ裁判セララルハコトヲ要ス。

第三 一人ノ處罰ノ後チ之ヲ罪アリトシタル所ノ一人又ハ數人ノ証人カ被刑者ニ對シ僞証ヲ爲シタリトシテ起訴セラレ罰セラレタル場合此裁判上ノ迷誤ハ著明ニ發顯スル者ニアラス、何トナレハ此僞証ハ其處罰ノ單ナル原因ニアラサルコトアレハナリ、然レトモ裁判上生シタル一個ノ疑惑カ此處罰ノ上ニ及フ即チ此人ハ眞實ニ有罪者ナリシヤ否ヤ。此第三ノ開始ニ付キテ爲ス所ノ再審ハ尙ホ此疑點ヲ決スル爲メニ事件カ新タニ裁判セララルコトヲ要ス。

(第二千三百八十一號)再審開始ノ三個ノ場合ハ新法ノ草案ニ依テ千八百八年ノ治罪法ニ於ケルカ如ク獨リ重罪ノ處罰ニ關スルノミナラス、尙ホ禁錮又ハ公權及ヒ親屬權ヲ施行ノ全部若クハ一部ノ禁止ヲ來シタル輕罪ノ處罰ニ關シテモ亦之ヲ擴充ス。

右三個ノ場合ハ總テ獨リ生存スル被刑者ノ利益ノ爲メノミナラス尙ホ死者ノ紀念ヲ申雪スルコトヲ許ス方法ヲ以テ死去シタル被刑者ニモ亦之ヲ擴充ス、是レレジニルクノ事件ノ例ニ因リ相繼イテ千八百八年ノ治罪法ヲ改正シ喚起シタル請求ノ主眼ナリキ人尙ホ此例ニ附加スルニ最モ近年ノ不幸ナルルアルス及ヒバツフェーノ例ヲ以テスルコトヲ得ヘシ、此二人ハ千八百五十四年四月一日ヒニステールノ重罪院ニ於テ加重ノ情狀ヲ以テ盜罪ヲ犯シタルモノトシテルアルスハ無期徒刑ニバツフェーハ二十年ノ徒刑ニ處セラレ幾ハクモ無クシテバツフェーハ千八百五十五年ブレストノ徒刑場ニ於テルアルスハ千八百五十九年カイヤンタノ徒刑場ニ於テ死去セリ、而シテ其死ニ至ルマテ不幸ヲ抗陳シテ已マサリキ其後チ三年ヲ經テ眞實ノ有罪者發見セラレ同縣ノ重罪院ニ於テ千八百六十年一月二十一日處斷セラレタリ然レトモ悲イ夫千八百八年ノ法典ニ依レハ事已ニ晚ク復タ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(一)

(二)千八百六十年二月二十六日發刊法律新聞ル、ドロワーラ觀ル可ク、
我舊時ノ裁判例ニ於テ大罪ノ刑ニ處セラレタル死者ノ紀念ヲ申雪スル爲メニ爲ス所ノ再審ハ施行セラレタリ是レ秘密ニ且ツ書類ニ就キテ裁判ヲ行フノ時代ナリキ即チ再審ヲ任セラレタル裁判官ハ再ヒ訴訟書類ヲ披閱シ之ヲ新タニ生シタル書類ト相對照シテ訴訟ヲ再始ス

ルヲ以テ充分ナキ、然レトモ千八百八年ノ立法者ハ新タニ事件ヲ裁判スルコトナク、再
 審ヲ爲スコトヲ得サル所ノ二個ノ場合(第二千二百八十號第二第三參觀)ニ於テ被刑者カ一方
 ノ死去ニ因リ各關係人ノ口頭ニシテ且ツ對審ナル辯論ヲ以テ自ラ辯護ヲ爲スコト能ハサルヨ
 リシテ調査ノ不完全ナル單ナル方法ニ依リテ再審ヲ行フコトヲ肯ンセサリキ、是レ此立法者
 ハ確實ニシテ且ツ最モ著明ニセラル、信憑ノ善良ナル原素ノ消滅シタル場合ニ於テ裁判所
 ヲシテ自ラ改正ヲ爲シ以テ其誤謬ヲ表白セシムルコトヲ欲セサリシナリ、特ニ此改正ニ因リ
 二箇ノ被刑者ノ中ニ就キテ我カ刑事裁判ノ普通ノ上訴方法以外ニ於テ其何レガ眞實ノ有罪
 者ナルヤヲ定ムルニ在ル時ハ裁判所ヲシテ自ラ改正ヲ爲シ以テ其誤謬ヲ表白セシムルコトヲ
 欲セサリキ千八百八年ノ法典ハ被刑者ノ死後ノ再審ヲ採用シタルハ誤リテ認メラレタル殺
 人ノ場合ニ過キサリキ何トナレハ此場合ニ於テハ裁判上ノ迷誤ハ新タニ事件ヲ裁判スルコト
 ナクシテ單ニ殺サレタリト認メラレタル人ノ生存ノ證據ニ因リテ抗辯ス可カラサル方法ヲ
 以テ表顯スレハナリ(第二千二百八十號第一參觀)大審院ハ此場合ニ於テ被刑者ノ紀念ニ對
 スル管理人ヲ定ムヘキコトヲ任セラレ而シテ若シ必要ナル證據ノ舉カリタル時ハ處罰ノ判決
 ヲ破毀シ死者ノ紀念ヨリシテ犯罪ノ負担ヲ除去スヘキコトヲ任セラレタリ(舊第四百四十四
 條及ヒ第四百四十七條)

新法ハ無辜ヲ以テ有罪者ト爲シテ之レヲ罰シタルトコロノ社會ノ思想ニ對シテ人ノ正理ノ
 感覺ノ憤懣ヲ抱キ且ツ被刑者ノ死後ト云ヘトモ尙ホ賠償ノ利益アルニ因リ右ノ困難ヲ排斥
 シタリ、此困難タル、或ル事件ニ於テハ甚タ眞實ナレトモ最モ屢々實際ヨリハ寧ろ外形ニ過
 キスト云ハサル可カラサル所ノモノナリ、新法ハ關係人ノ一人マダハ數人ノ死去ニ因リ
 各關係人ノ間タニ於テ新タニ口頭辯論ヲ爲スコト能ハサルニ至リタリト云ヘトモ然レドモ
 再審ノ請求ヲ許ス所ノ三個ノ場合ニ於テ大審院ニ任スルニ各死者ノ紀念ニ管理人ヲ命ズヘ
 キコトヲ以テシテ重罪事件ニモ輕罪事件ニモ再審ヲ採用セリ、又新法ハ其他人ノ原因ヲ附
 加セリ即チ重罪欠席、輕罪欠席、公訴權ノ期滿免除、刑ノ期滿免除又ハ總テ其他ノ原因是
 レ也

(第二千二百八十二號)再審ノ訴ハ今ハ昔時王ノ會議(コシセーニシニシロワ)ニ屬シタルカ如
 ク大審院ノ管轄ニ屬ス蓋シ再審ノ訴ハ其成立ツト否ラサルトニ拘ハラズ事實ノ迷誤ヨリ出
 タタル判定ヲ取消サシムルニ在リテ而シテ取消ノ威權ヲ任セラル、ハ獨リ大審院ニ在ルヲ
 以テカリ
 然レトモ此點ニ就キテ敬慎願書ノ訴訟手續ニ於テ爲ス所ノ區別トハ全ク同一ニアラサルモ
 而モ少ナクモ類似シタル或ル區別ヲ爲サ、ル可カラス即チ取消シ(レックスアンドン)ト取消ス

（キモノ（レシツワール）トノ間ニ於ケル區別是レナリ實ニ再審ナル言辭ヨリ云ヘハ再視スルナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ新タニ訴訟ヲ裁判スルナリ倍再審ノ訴訟手續ニ於テハ二箇ノ期ノ顯ハル、モノトス、即チ 第一期ハ訴訟ヲ收受シ再審ニ附セサル可カラサルヤ 第二期ハ此新ナル審査ノ結果ニ從ヒ再訟ニ對シテ新タニ再審シ裁判セサル可カラサルヤ ト云シ是レナリ總テノ場合ニ於テ其二期ノ第一ニ置カル、ト第二ニ置カル、トトモ問ハス左ノ問題ヲ生ス即チ再審スヘキ事件ニ對シ已ニ與ヘラレ且ツ確定ノ効力ヲ有スル所ノ裁判ヲ如何爲スヘキヤト云フ是レナリ

此點ニ對シ事情ニ隨ヒテ取ルヘキ二箇ノ方法アリ即チ 或ハ調査上再審請求ノ原因ノ存スルコトノミニ因リ已ニ與ヘラレタル裁判ヲ取消シ訴訟ト關係人トヲシテ此ノ裁判ノ曾テ成立クサリシト同一ノ點ニ置カシメ且ツ新タニ事件ヲ裁判スルコト 或ハ已ニ與ヘラレタル裁判ノ成立ノ事ハ姑ク置キ先ツ事件ノ再審ニ着手シ而シテ此再審ノ結果ニ從ヒ單ニ不正ニ與ヘラレタリト認メラル、所ノ處罰ヲ取消スコト是レナリ 取消ハ若シ第一方ヲ取ルニ於テハ訴訟手續ノ第一期ニ於テ其局ヲ結ヒ且ツ再審ヲシテ潔白ナラシムル爲メ迷誤ニ付キ裁判上總テ疑ハル、處罰ヲ無効ト爲ス、若シ之ニ反シテ第二方ヲ取ルニ於テハ再審ノ後迷誤ト認メラレタル處罰ノミヲ無効ト爲シ其他ハ如何ナル者タルヲ問ハス存在セシメ而シテ第二期

ノ手續ノ局ヲ結フ

千八百八年ノ治罪法カ再審開始ノ二場合即チ調和セサル處罰ノ場合ト被告人ニ對スル偽証者ノ處罰ノ場合トノ爲メニ認メタルハ右ノ二方中ノ第一方ナリトス新法カ此二箇ノ場合ノ爲メニ總テ生存シ且ツ現在スル被刑者ノ間ニ對審ノ新辨論ヲ爲スコトヲ得ル毎ニ保持シタル所ノ者モ亦此方ナリトス（千八百八年ノ法典ハ此被刑者ノ現在ノ場合ノミヲ採用シタリ） 第二ノ方ニ付キテハ千八百八年ノ法典ハ誤リテ認メラレタル殺人ノ場合ナル再審開始ノ第三ノ場合ニ之ヲ適用シ新法草案モ亦此場合ニ之ヲ適用シ其他尙ホ死去失踪期滿免除又ハ其他ノ原由ノ結果ニ因リテ總テ被刑者ノ間ニ新對審辨論ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル毎ニ他ノ二箇ノ場合ニ之ヲ適用ス

（第二千三百八十三號）然レトモ新法ハ此最終ノ場合ノ爲メニ實ニ最モ善ク之ニ適合セシ所ノ第二ノ方ヲ採用シタリト雖モ尙我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ千八百八年ノ立法者カ注意シテ避ケタリシ所ノ暗礁ニ大ニ衝突シタルカ如シ、即チ新法ハ我輩ノ見ル所ニ據レハ大審院ヲシテ其職權ノ高尚ナル地位ヨリ降ラシメテ以テ必要ナク之ヲ公判ノ裁判權ト爲シタリ、人實ニ左ノ事ニ注目スヘシ、總テ再審ノ訴訟手續ニ於テ本然ニ大審院ノ此善美ナル制度ニ歸スル所ノ最高點アリ即チ訟求ノ憑據トシテ大審院ニ提出セラレタル判決若クハ徵憑ノ審査ニ

因リ此認求ハ法律ニ於テ特記シタル三個ノ場合ノ一ニ在ルヤナキヤラ審査スルコト、且ツ隨
 ヒテ再審ヲ爲スヘキヤ否ヤラ審査スルコト、下級ノ管轄裁判所ニ事件ヲ送付シ以テ事件ヲ審
 査又ハ事實上此再審ニ付キ要用ナル新裁判ヲ命スルコト、訴訟手續ノ第一期ニ於ケルト第三
 期ニ於ケルトヲ問ハス無効ト爲サル可カラサル裁判ヲ取消スルコト、死者ノ紀念ニ管理人ヲ
 命シ宣告シタル取消ノ結果ニ因リ死者ノ紀念ノ犯罪負担ヲ除去スルコト、是等ハ論理上適當
 ニ大審院ノ高尙ナル職務中ニ入ル所ノ所爲ナリ、然レトモ此最上等ノ裁判院ノ法廷ヲ重罪
 院ニ法廷又ハ輕罪控訴局ノ法廷ニ變更シ其檢察長ヲ起訴ノ一檢察官ニ變更シ重罪ニ付キテ
 輕罪ニ付キテモ其席ニ証人、証跡及ヒ總テノ種々ノ證據ノ原素ヲ提出シ論議シ何レノ地
 方ニ論ナク即チ殖民地ヨリモ來ル所ノ眞實ノ辯論ヲ開クコト、這ハ奇怪ニ大審院ノ職務ノ外
 ニ出テ且ツ屢々爲ス能ハサル所ノモノナリ、此不便宜ヲ避ケンカ爲メニ人或ハ曰ハシ、大審院
 ハ書類ニ就キテ裁判スヘシト、果シテ此ノ如クナルキハ刑事事件ニ於テ且ツ大罪ニ於テモ
 尙ホ書類上ノ裁判法ヲ再生セシムルナリ、且ツ夫レ所謂ル書類トハ如何ナル者カレヤ又大
 審院ハ如何ニシテ再視スルノ要アル所ノ最初ノ辯論ヲ知得スルコトヲ得ルヤ、蓋シ我ガ治罪
 法第三百七十二條ハ恰モ最モ動カズ可ラザル方法ヲ以テ口頭辯論ノ訴訟手續ノ原則ヲ確實
 ニ定ルカ爲メニ重罪院ニ於テ作ル所ノ調書ニ被告人ノ答辭ヲモ證據申述中ニ記載シタル所

ノ者ヲモ記載スルコトヲ禁シタルヲ以テナリ、然レハ大審院ハ新聞紙ノ記事ニ就キテ書類ヲ
 採テサレ可カラサルヤ、又ハ探偵訴訟手續之ヲ詳言スレハ豫先ノ審案ノ書類上ノ秘密ニシ
 テ且ツ對審ナラサル訴訟手續ニ基ントスルヤ新法ニ依リ制限セラル、所ノ極端ノ之中擇ニ
 ヲ即チ左ノ如シ、或ハ大審院ノ法廷ヲ以テ之ヲ重罪院ノ法廷又ハ輕罪裁判所ノ法廷ニ變更
 スルコト、或ハ書類ニ就キテ裁判ヲ爲スコト是レナリ、此書類ニ就キテ爲ス所ノ裁判ハ再審ヲ
 認求スル所ノ被刑者ノ無辜カ訴訟手續上如何ナル論争モアルコトナク明瞭ニ現出スル時ハ如
 何ナル不便宜ヲモ與ヘサルハ論ヲ待タスト雖モ然レトモ苟クモ疑點ノ存スル以上又ハ疑點
 ヲ確實ナル者アル以上且ツ論争アル以上ハ有罪無罪ノ問題ニ對シ公示ニシテ口頭ニ且ツ可
 及的對審ナル辯論ナクシテ宣告ヲ爲サンヨリ寧ロ大審院ヲシテ此奇怪ナル變体ヲ受ケシム
 ルノ勝レルニ如カサルナリ

此困難ヲ避クルニハ誤リテ認メラレタル殺人ノ場合ニ付キテハ唯新法ニ於テ治罪法舊第四
 百四十四條ヲ維持スルヲ以テ足りタリキ、本條ハ毫モ廢止スルヲ要セザリシ所ノ者ガリ其
 他他ノ二個ノ場合即チ二箇ノ調和セサル處罰若クハ被告人ニ對スル偽證者ノ處罰ノ場合ト
 關係人ノ或ル者ノ死去若クハ失踪又ハ期滿免除ノ場合トヲ支配スルカ爲メニハ唯此條ニ從
 ブノミニテ足りタリキ實ニ此第四百四十四條ニ從ヒ大審院ニ於テ其提出セラレタル書類ヨ

大審院ニ對シテ殺サレタリト認メラレシ者ノ生存ノ證據確然現出スルトキハ大審院ハ抗辯セ
 ラレタル處罰ヲ取消シ且然ク自ラ再審事件ヲ終結ス若シ其疑アル時ハ大審院ハ控訴院ヲ指
 定シ以テ之ヲシテ關係人及ヒ證人ノ訊問其他總テノ立證方法ニ因リ問題ニ係ル所ノ者ハ嘗
 テ殺サレタリト認メラレタル者ト同一ナルヤ否ヤヲ調査セシメ而シテ控訴院ハ單ニ同一若
 クハ不同一ノ點ニ就キテ宣告シタル判決ヲ訴訟手續ト共ニ大審院ニ送致ス是ニ於テ大審院
 ハ其取消ノ請求ニ對シテ之レカ裁判ヲ下スモノトス又我輩ヲ以テ觀レハ前段ト同シク他ノ
 三個ノ場合ニ付キ若シ大審院ニ於テ訴訟手續ノ書類其物ヨリシテ裁判上ノ迷誤ノ證據カ現
 出スル時ハ大審院ハ不正ナル宣告ノ處罰ヲ取消シ且ツ其要アリトセハ死者ノ紀念ヨリ犯罪
 ノ負擔ヲ除去スルコト若シ大審院ハ疑ヒヲ抱キ新辯論ニ因リテ之レカ調査ヲ爲サ、ル可カラ
 スト信スル時ハ關係人及ヒ死者ノ紀念ノ爲メニ任スル管理人ニ對シテ其調査ノ手續ヲ爲ス
 ヘキ爲メニ初メ判決ヲ下シタルヨリ以外ノ重罪院又ハ控訴院ニ在ル所ノ輕罪控訴局ヲ指定
 セサル可カラサルコトハ最モ簡單ニシテ且ツ充分ニ我カ裁判權ノ順序ニ配合スル所ノモノト
 ス、但シ此指定セラレタル重罪院ノ陪審若クハ輕罪控訴局ハ再審ノ訴ヲ爲シタル名義ノ被
 刑者其物ノミニ對シ且ツ單ニ此被刑者カ處罰ノ原由タル事件ニ付キ其無辜ト認メタルコト
 又認メテレサルカヲ知ルノ問題ニ就キテ之レカ宣告ヲ爲サ、ル可カラス、而シテ大審院

ハ前段ノ判定カ訴訟手續ト共ニ大審院ニ送致セラレタル後ヲ請求ヲ受ケタル取消ニ關シテ
 裁判シ且ツ其要アル時ハ死者ノ紀念ヨリ負擔ヲ除去スヘシ陪審ノ關與ハ我カ重罪被告事件
 ニ付テノ一般ノ法律ト配合スル所ニシテ茲ニ於テモ亦關係人ノ或ル者ノ死去若クハ失踪ノ
 點ヲ以テ毫モ之ヲ駁スルコトヲ得サルナリ、何トナレハ假シ重罪欠席ノ場合ニ於テ陪審ヲシ
 テ宣告令ムレハ則チ不定ノ判定ヲ生スヘシ今ヤ此ノ如キ不定ノ判定ヲ求ムルニハアラス又
 現在失踪若クハ死去シタル種々ノ關係人ニ關スル判定ヲ求ムルニモアラスシテ單ニ裁判上
 ノ迷誤ノ爲メ其犠牲トナリタル被刑者ニ關シテ一個ノ判定ヲ要シ且ツ單ニ前ノ處罰ノ主眼
 タル某ノ事實ニ付キテ無罪ト認メラル、ヤ否ヤノ問題ニノミ關スル判定ノ宣告ヲ望ムニア
 レハナリ、總テ其他ハ前段ノ訴訟ニ於テ全ク存スルモノトス

實際ニ於テハ新法ヨリ出ツル所ノ職役ノ混淆ヲ感スルコト稀レナルヘシ何トナレハ幸ニシテ
 非常ニアラサレハ顯ハル可カラサル所ノ事件ニ係レハナリ然リト雖モ我輩ハ大審院カ善良
 ナル思考ヲ以テ可及的其裁判例ニ於テ新第四百四十五條第一項ニ規定シタル威權ヨリシテ
 通常ノ順序ヲ出ツル或ル方法ヲ引用センコトヲ希望スルナリ

(第二千三百八十四號)新法ハ正文ニ依リテ再審ヲ請求スルノ權利ヲ以テ獨リ司法卿ノミナ
 ラス尙ホ被刑者又被刑者ノ死去ノ後チハ其配偶者、其子、其親族其一般ノ受遺囑者其或ル部

分ノ受遺囑者、及死者ヨリ再審ヲ請求スル爲メ明瞭ナル囑託ヲ受ケタル者ニモ屬セリ、舊治罪法ニ於テハ被刑者以下ニ此權利ヲ屬セサリキ是等ノ人ハ普通ノ上告事件ニ於テ行ハル、カ如ク自ラ直接ニ之レカ請求ヲ大審院ニ爲ストヲ得ス、舊法ト同シク仍ホ司法卿ノ特別ノ命令ニ因リテ大審院檢事長ヨリ大審院ニ請求スルモノトス、但シ司法卿ハ義務有ル紹介人ニシテ關係人ノ請求カ法律ニ特記シタル再審ノ場合ノ一ニ基クニ於テハ其命令ヲ與フルヲ拒ムトヲ得ス

(第二千三百八十五號) 新法ハ調和セサル二個ノ處斷ト偽證者ノ處罰トノ場合ニ於テ關係人ヨリ司法卿ニ關スル再審請求ヲ有効ト爲スニハ再審ノ請求ヲ許ス處罰ノ言渡ヨリ起算シテ二年ノ期限内ニ之レカ請求ヲ爲サル可カラストナセリ、千八百八年ノ治罪法ニ於テハ關係人ニ再審ノ請求ヲ爲ストヲ許サ、リシヲ以テ此失權ノ問題アルコトナカリシカ新法ハ則チ此失權ノ問題ヲ生スレトモ職權ヲ以テ運動スル所ノ司法卿ニ在リテハ此失權ニ關スルコトナシ

最終ニ新法ハ再審ヲ請求スル所ノ處罰ノ執行ハ司法卿ノ命令ニ由リ法律上當然中止スヘキコトヲ定メタル千八百八年ノ治罪法ノ規則ヲ唯一個ノ場合ノミナラス再審ノ請求ヲ許ス總テノ場合ニ擴充シタリ、此司法卿ノ命令トハ明瞭ナラサレトモ司法卿ニ於テ與フル所ノ大審

院ニ訴フルノ命令ナリト解釋セサル可カラス、又義務上ノ中止ノ外執行ヲ司ル所ノ檢察官ニ於テ尙ホ効益アルニ於テハ司法卿ノ訓示ヲ受クルコトアルニ至ルマテ其責任ヲ以テ職務上假リノ中止ヲ爲サル可カラス

(第二千三百八十五號第二) 再審ヲ爲スノ場合ハ實際其數多カラス、大罪事件ニ於テ再審ヲ爲スヘキ所ノ裁判上ノ迷誤ハ稀レニ見ル所ナリ大幸ト謂フ可シ然レハ此迷誤ノ如何ニ稀レナルニ拘ハラズ我輩ハ不幸ナル外形的ノ相連接スル結果ニ因リテ我カ刑事訴訟ニ於テ被告人ニ與ヘタル保護モ法官及ヒ陪審ノ良心モ遂ニ社會ニ節制スルコトヲ得サリシ所ノ公ケノ不幸トシテ此迷誤ヲ記述ス可シ、謀殺又ハ弑親罪ニ於テヒリッピ事件レスニエー事件ガルダン婦事件ノ三例故殺罪ニ於テルノシ一事件ハ則チ千八百四十三年以來我カ悲ムヘキ屈指ノ事件ナリトス(一) 刑事裁判事件ニ於テ其制度ト其傳來ノ慣習トニ依リ最モ善良ノ名高キ人民ニ就キテモ亦此悲ムヘキ屈指ノ事件ヲ觀ル我輩ハ已ニ陪審員ノ全体一致ニアラザレハ有罪若クハ無罪ヲ宣告スルコトヲ得サル所ノ英吉利又ハ亞米利加合衆國ニ於テ近時ノ同様ナル實例ヲ擧ケタリ是レ裁判ハ多ク眞實ニ適スト云ヘル傲慢ナル格言ニ對シテ大ナル鑑戒ト爲ス可シ、夫レ裁判ナル者ハ人ノ爲ス所ニ係ルヲ以テ他萬般ノ所爲ニ於ケルカ如ク時ニ或ハ迷誤ニ陥ルコトナキヲ得ス然レトモ若シ自ラ各徵憑ニ就キテ其迷誤ノ證據ヲ搜索シ徵收

シ集合シ公然之ヲ調査シ公然之レカ賠償ヲ宣言スル時ハ是レ裁判ハ自ラ面目ヲ與ヘ自ラ高尙トナリ自テ常ニ裁判即チ正理ナルヲ顯ハスナリ、人善クルノシ一事件ノ再審ノ功效有ル所ノ檢事長ノ云ヒタル(是レ吾カ法官ノ職ヲ執リタル間ニ於テ最モ善良ナル記事ナリ)トノ言ノ感情ヲ悟ルヘシ(二)即チ此裁判上ノ演劇ト遂ニ公然陪審ノ新宣告ニ依リテ檢事長カ懲役場ヨリ出シ來リタル所ニシテ第一ノ重罪院ニ於テハ有罪トシテ認メラレタル所ノ徒刑人カ無辜ノ宣言ヲ受ケタルノ日トヲ回想シテ右ノ言ノ感情ヲ悟ルヘシ、訴訟審理中第一ノ重罪院及ヒ第二ノ重罪院ニ於テ已ニ辯論ノ終結ヲ爲シ二個ノ被刑者ニ對シテ宣告スルノ任アル陪審カ其會議室ニ退カンカ爲メニ坐ヲ立チタル時迄其第二ノ被刑者、シモニ一カ固執シテ無辜ヲ主張シタル後チ突然自ラ有罪者ナリト公言シテ上帝ニ其共同被告人ニ法官ニ陪審ニ宥恕ヲ求メ而シテ膝ヲ屈シタル時公衆ノ感動果シテ如何ナリシヤ、噫

(一)ヒリッピ一事件 ヒリッピ一ハ千八百四十二年二月十七日コルス重罪院ニ於テ謀殺ノ罪有リトシテ酌量減輕ノ上無期徒刑ニ處セラレタリ其後チ眞實ノ有罪者發見セラレ刑ニ處セラレタルニヨリ大審院ニ再審ノ訴ヲ爲シタルニ前裁判破毀ノ上放免セラレタリ此者ハ二年餘ツローンノ徒刑場ニ在リタリ

レスニエ一事件 レスニエ一ハ千八百四十八年六月十三日ジロンド重罪院ニ於テ故殺ノ

後チ放火シタルノ罪有リトシテ酌量減輕ノ上無期徒刑ニ處セラレタリ其後チレスニエ一ニ對スル偽証者ニシテ且ツ眞實ノ有罪人發見セラレ刑ニ處セラレタルニ依リ再審ノ訴アリテ前裁判破毀ノ上放免セラレタリ此者ハ五年餘ロシニフォル及ヒブレスノ徒刑場ニ在リタリ

ガルダン婦事件 ガルダン婦ハ千八百六十一年八月十三日ノール重罪院ニ於テ弑親ノ罪有リトシテ酌量減輕ノ上無期徒刑ニ處セラレタリ其後チ眞實ノ有罪者發見セラレ刑ニ處セラレタルニ依リ再審ノ訴アリテ前裁判破毀ノ上放免セラレタリ此犯罪ノ一人ハ死刑ニ處セラレタリ豫審ニ於テガルダン婦ヲシテ其冤ナリシ所ノ弑親罪ノ自白ヲ爲サシメタルハ此事件ニ於テナリトス此自白ハ陪審ノ面前ニ於テ取消シタリシカ遂ニ其効ナカリキルノシ一事件 ルノシ一ハ千八百七十一年十一月十八日ユルス重罪院ニ於テ選舉投票ノ争鬭ニ關スル故殺ノ罪有リトシテ徒刑二十年ニ處セラレタリ其後チ眞實ノ有罪人發見セラレ刑ニ處セラレタルニ依リ再審ノ訴アリテ前裁判破毀ノ上放免セラレタリ此者ハ數月間ツローンノ徒刑場ニ在リタリ

我輩ハ陸軍裁判所ニ關スル前段ヨリ輕キ事件ニ於ケル或ル再審ハ茲ニ之ヲ擧ケサルヘ

(二)此檢事長ハ當時マスチアー控訴院檢事長ニシテ今日大審院檢事長ナルベダリド氏ナリ氏カ該控訴院檢事局ニ轉シテ開キタル所ノ第一ノ書面ハルノシーカッーロンノ徒刑場ヨリ其冤罪ヲ抗陳シ且ツ有罪者トシテシモニチ指示シタル所ノ書面ナリシト云フ(第三千三百八十六號)裁判所ニ於テ迷誤ノ處罰ヲ抗擊シタル者ノ爲メニ其放免ヲ宣告スルハ甚タ善事ト爲ス是レ此放免ハ緊要ノ目的ナリ然リト雖モ社會ノ全般ノ義務ハ茲ニ在ラス、抑、迷誤ハ外形的摸樣ニ因リ又時トシテハ輕忽ニ因リ又ハ他人ノ惡意ニ因リ生出シタルモノニシテ如何ニ無意ナル者ナルニ拘ハラス此迷誤ハ職役カ虛無ノ徵憑及ヒ詭僞ヲ貫徹シテ眞實ヲ搜索シ分析スルニ在ル所ノ裁判權ノ一迷誤ニアラスト云フコトヲ得ス、又裁判所カ保護セサル可カラス傷害ス可カラサル所ノ者ヲ抗擊シタル所ノ社會ノ刑罰ノ糾纏ニアラスト云フコトヲ得ス、我輩ハ脆弱ナル裁判權ノ確實ナルコトヲ保証シ且ツ誤リテ用キル所ノ斷頭刀ノ使用ノ眞正ナルコトヲ保証スル所ノ社會ハ規則トシテ唯普通ノ法律ノ原則ノミニ從ヒテ裁判上之カ結果ヲ賠償スルノ義務アリト爲スヘシ、人カ無[○]辜ノ被刑者ニ對スル賠償ト云フコトヲ得ルハ茲ニ於テナリトス何トナレハ裁判上無辜ノ証明セラレタレハナリ 此人ニ對シテ無形上ノ賠償ヲ要ス、新辯論及ヒ新公廷ニ於テ最も多ク公行スト雖モ未タ以テ足レリトナサス我國ニ於テ千八百六十年中義ニ(第三千三百八十一號)擧ケタルル[○]アルヌ及ヒハ[○]

フ[○]事件ニ就キテ出版ノ方法ヲ以テ其事ヲ記述スルコトヲ禁シタル所ノ一重罪院アリタリト云フモ孰レカ能ク之ヲ信センヤ抑、初メ罰セラレタル冤罪ヲ放免スル所ノ新判定ハ揭示ヲ爲シ又官ヨリ新聞紙ニ記載セシメテ以テ特別ニ之ヲ公示セサル可ラス而ルニ其前ノ迷誤ノ處罰ハ之ヲ公示シタレトモ最も大ニ公示セサル可ラサル所ノ放免ハ則チ之ヲ公示セサリシハ何ソヤ 此人ニ對シテ位置ノ賠償ヲ要ス即チ私ノ生活上ニ於テモ公ノ生活上ニ於テモ其享有セシ所ニシテ不正ナル處罰カ毀壞シタル所ノ位置ハ如何ナリシヤ可及的少クモ同一ノ價值ヲ有スルモノヲ以テ之ヲ再設セサル可カラサルニアラスヤ (最終ニ此人ニ對シテ財産上ノ賠償ヲ要ス即チ此人カ拂ヒタル所ノ裁判費用ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ要ス此賠償ハ如何ニ大ニ計算スト雖モ決シテ其受ケタル所ノ害惡ノ相殺ヲ爲スコトヲ得サルナリ立法院ニ於テ千八百六十七年ノ法ノ論議ニ關シテ其委員ノ名ニ於ケルト政府ノ名ニ於ケルトトチ問ハス法律上ヨリシテ裁判費用ヲ返還セサル可カラサルコトヲ公言シタルニ觀レハ復タ論勿キ而已然レトモ損害賠償ノ規則ヲ法律中ニ入レシメントシタル修正案ハ七十四ニ對スル百十一ノ多數ニ因リテ排斥セフレタリ是レ尙ホ將來ヲ待チテ改良スヘキ我カ刑事法律ノ一ナリトス

然レトモ我輩ハ此點ニ關スル立法上ノ規則ハ普通ノ負債賠償ニ制裁ヲ附シ且ツ之ヲ計算ス

(二)此檢事長ハ當時マスチアー控訴院檢事長ニシテ今日大審院檢事長ナルベダリド氏ナリ氏カ該控訴院檢事局ニ轉シテ開キタル所ノ第一ノ書面ハルノシーカッーロンノ徒刑場ヨリ其冤罪ヲ抗陳シ且ツ有罪者トシテシモニチ指示シタル所ノ書面ナリシト云フ

(第二千三百八十六號) 裁判所ニ於テ迷誤ノ處罰ヲ抗擊シタル者ノ爲メニ其放免ヲ宣告スルハ甚タ善事ト爲ス是レ此放免ハ緊要ノ目的ナリ然リト雖モ社會ノ全般ノ義務ハ茲ニ在ラス、抑、迷誤ハ外形的模樣ニ因リ又時トシテハ輕忽ニ因リ又ハ他人ノ惡意ニ因リ生出シタルモノニシテ如何ニ無意ナル者ナルニ拘ハラス此迷誤ハ職役カ虛無ノ徵憑及ヒ詭僞ヲ貫徹シテ眞實ヲ搜索シ分析スルニ在ル所ノ裁判權ノ一迷誤ニアラスト云フコトヲ得ス、又裁判所カ保護セサル可カラス傷害ス可カラサル所ノ者ヲ抗擊シタル所ノ社會ノ刑罰ノ糾纏ニアラスト云フコトヲ得ス、我輩ハ脆弱ナル裁判權ノ確實ナルコトヲ保証シ且ツ誤リテ用キル所ノ斷頭刀ノ使用ノ眞正ナルコトヲ保証スル所ノ社會ハ規則トシテ唯普通ノ法律ノ原則ソミニ從ヒテ裁判上之カ結果ヲ賠償スルノ義務アリト爲スヘシ、人カ無辜ノ被刑者ニ對スル賠償ト云フコトヲ得ルハ茲ニ於テナリトス何トナレハ裁判上無辜ノ証明セラレタレハナリ 此人ニ對シテ無形上ノ賠償ヲ要ス、新辯論及ヒ新公廷ニ於テ最モ多ク公行スト雖モ未タ以テ足レリトナサス我國ニ於テ千八百六十年中疊ニ(第二千三百八十一號)擧ケタルルールアルヌ及ヒハッ

フエー事件ニ就キテ出版ノ方法ヲ以テ其事ヲ記述スルコトヲ禁シタル所ノ一重罪院アリタリト云フモ孰レカ能ク之ヲ信センヤ抑、初メ罰セラレタル冤罪ヲ放免スル所ノ新判定ハ揭示ヲ爲シ又官ヨリ新聞紙ニ記載セシメテ以テ特別ニ之ヲ公示セサル可ラス而ルニ其前ノ迷誤ノ處罰ハ之ヲ公示シタルトモ最モ大ニ公示セサル可ラサル所ノ放免ハ則チ之ヲ公示セサリシハ何ソヤ 此人ニ對シテ位置ノ賠償ヲ要ス即チ私ノ生活上ニ於テモ公ノ生活上ニ於テモ其享有セシ所ニシテ不正ナル處罰カ毀壞シタル所ノ位置ハ如何ナリシヤ可及的少クモ同一ノ價值ヲ有スルモノヲ以テ之ヲ再設セサル可カラサルニアラスヤ (最終ニ此人ニ對シテ財産上ノ賠償ヲ要ス即チ此人カ拂ヒタル所ノ裁判費用ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ要ス此賠償ハ如何ニ大ニ計算スト雖モ決シテ其受ケタル所ノ害惡ノ相殺ヲ爲スコトヲ得サルナリ

立法院ニ於テ千八百六十七年ノ法ノ論議ニ關シテ其委員ノ名ニ於ケルト政府ノ名ニ於ケルトヲ問ハス法律上ヨリシテ裁判費用ヲ返還セサル可カラサルコトヲ公言シタルニ觀レハ復タ論勿キ而已然レトモ損害賠償ノ規則ヲ法律中ニ入レシメントシタル修正案ハ七十四ニ對スル百十一ノ多數ニ因リテ排斥セフレタリ是レ尙ホ將來ヲ待チテ改良スヘキ我カ刑事法律ノ一ナリトス

然レトモ我輩ハ此點ニ關スル立法上ノ規則ハ普通ノ負債賠償ニ制裁ヲ附シ且ツ之ヲ計算ス

ルニ關スルカ如クニ規定セラレサル可カラサルコトヲ信セサルナリ蓋シ社會ノ賠償ノ所爲ハ尙ホ一層廣濶ナル基礎ノ上ニ在ラサル可カラス我輩ハ資産ニ關スル賠償ヲ支配スル所ノ民法上ノ計算及ヒ規則ノ外ニ於テ社會カ恰モ無辜ニ對スル恩典及ヒ注意ニ因リ其刑事裁判ノ無意ノ迷誤ヲ遺忘セシムル爲メ寛大ニ之ニ干與セシコトヲ欲ス又我輩ハ再審事件ノ終局ノ後チ大審院ニ任スルニ其檢察長ノ職務ヲ以テ申立テシメ而シテ其相當ナリト思考スル斟酌ニ從ヒ無辜ヲ認メタル所ノ被刑者又此被刑者ノ死去ノ場合ニ於テハ其配偶者其子孫又之レ無キ時ハ其相續人ニ對シ政府ノ名ヲ以テ附與スヘキ所ノ金額ヲ定ムルコトヲ以テセシコトヲ欲ス我輩ハ此附與シタル賠償ノ思考ヨリ出テタリト雖モ然レトモ尙ホ之ニ附スルニ賠償ノ辭ヲ以テセサルヘシ何トナレハ茲ニ更ニ公クノ善事ノ最モ高尚ナル他ノ目的モ亦其中ニ入ラサル可カラサレハナリ我輩ハ最終ニ名譽上ヨリシテ最モ大ナル公示ヲ與フヘシ何トナレハ此公示ノ弘布スルニ從ヒテ裁判上ノ光輝ヲ増加スレハナリ

第四篇 執行

(第二千三百八十七號)終局ハ即チ此ニ在リ、裁判ハ毫モ普通ノ上訴タル故障若クハ控訴ヨリモ、關係人ノ方ヨリスル非常ノ上訴タル大審院上告ヨリモ、已ニ抗擊セラレサル時ハ執行スヘキモノトナル、一タヒ再審ノ訴アリテ尙ホ再審出訴期限内ニ在ルニ於テハ我輩カ説明

シ來リタル所ニ從ヒ固ヨリ一個ノ中止ヲ生スヘシ、但シ此訴ノ或ハ起ルコトアルヘシト云フチ以テ執行ノ權利ヲ生シ及ヒ之ヲ施行スルコトヲ妨ケサルナリ、假リノ執行ハ控訴ト上告トニ拘ハラズ、或ル場合ニ於テハ或ル民事ノ處罰(治罪法第百八十八條)又ハ被告人ノ解放(第百六條且ツ第二千三百五十四號及ヒ次號參觀)ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得、然レトモ懲戒ノ處分ニ係ル二個ノ例外ヲ除クノ外(訴訟法第十二條及ヒ第九十條)刑ノ執行ニ付キテハ決シテ之ヲ爲スコトナシ、重罪欠席ノ特別ノ場合ハ則チ別種ト爲ス(第二千三百十八號) 放免又ハ免訴アリタル時ハ執行ノ手續ハ誠ニ簡單ナリ、即チ違警罪輕罪若クハ重罪被告人ハ裁判ノ執行スヘキモノトナルヤ否ヤ直チニ法律上、他ノ原由ノ爲メニ勾留セラレサルニ於テハ檢察官ノ命令ニ依リテ解放セラル(第百九十七條第三百七十六條)而シテ重罪院ニ於テ爲サレタル放免ノ命令ニ係ル時ハ此命令ハ毫モ利害的關係ノ上告ヲ受ク可カラサルヲ以テ放免ヲ言渡ス所ノ重罪裁判長ノ命令ニ依リテ直チニ解放セサル可カラズ(第百五十八條)輕罪裁判ハ利害的關係ヲ以テ控訴ヲ受クト雖モ(千八百六十五年ニ改正セラレタル第百六條ノ正文ニ於テ)輕罪事件ニ付キテモ亦同規則ナリトス(第二千三百八十九號) 處罰アリタル時ハ、關係人ノ促求ニ依リ普通ノ民事ノ方式ニ從ヒ執行セラル、所ノ民事ノ處罰 登記稅収受官吏ノ促求ニ依リ檢察官ノ名ヲ以テ同一ナル方式

ニ從フ所ノ財産上ノ刑ニ於ケル處罰(第二千四十八號參觀) 最終ニ執行ノ有形的ノ所爲ヲ要スルコトナク法律ヨリ自然ニ生スル所ノ權利ノ失墜若クハ不能力ノ刑(第六百二十五號參觀) ハ之ヲ茲ニ閣キ、我輩ハ權利ヲ剝奪スルニ係ル刑且ツ特ニ執行カ公衆ノ縱觀ヲ成サ、ル可カラサル所ノ刑ノ執行ノ手續ニ就キテ數言ヲ開陳シテ已ムヘシ

(第二千三百九十號) 自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ハ檢察官ノ着手ト請求トニ依リテ之ヲ執行ス、但シ執行ノ所爲ハ行政官廳ニ轉ス(第二千四十八號參觀)總テ入監ハ治罪法第六百八條第六百九條ニ規定シタル方式ニ從ヒ入監ノ證書ヲ簿冊ニ記入シテ之ヲ證明シ、而シテ總テ出監モ亦第六百十條ノ規定ニ從ヒ同ク證明セサル可カラス

(第二千三百九十一號) 裁判ノ執行ハ官廳カ晝間被刑者ノ逮捕ニ付キテモ物件ノ差押ニ付キテモ並ニ人ノ住所ニ闖入スルノ權利ヲ有スル原由ノ一ナリトス、但シ相當官吏ニ依リ且ツ法律ニ依リテ要スル方式ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス(千七百九十年八月十六日二十四日ノ法第八章第五條 千七百九十一年七月十九日二十二日ノ法第一章第八條 共和紀元第六年第七月二十八日ノ法第三百二十一條)

(第二千三百九十二號) (如何ナル刑ノ言渡ト雖モ國祭又ハ教祭ノ日ニモ又日曜日ニモ之ヲ執行スルコトヲ得ス)ト定メタル所ノ刑法第二十五條ノ規則ハ財産上ノ處罰ノ執行ニ付キテ

依據循守セサル可カラサル所ノ民事ノ訴訟手續ノ規則ニ關係スルコトナシ(訴訟法第六十三條第七百八十一條第八百二十八條第一千二十七條) 刑法第二十五條ハ單ニ公衆ノ縱觀ヲ成スニ充テラレタル執行ノミニ關係ス、即チ首ヲ棒ニ縛シテ(カルカン)公肆スルノ執行、及ヒ肖像ヲ以テ公肆スルノ執行是レナリ、但シ此ニ執行ハ廢セラル、而シテ單ニ死刑ハ我カ普通ノ刑法ニ於テ今日此種ニ屬スル所ノ刑ナリ

(第二千三百九十三號) 我輩ハ、執行ハ若シ上告ヲ爲サ、ル時ハ上告ノ爲メニ與ヘラレタル期限ノ消盡ノ後チ若シ上告ヲ爲シタル時ハ棄却ノ判決ヲ收受シタルノ後チ又千八百六十七年ノ法律ノ正文ニ依リ再審ノ上訴ノ場合ニ於テ規定セラレタル所ノ期限ノ消盡ノ後チ二十四時内ニ執行スヘキコトヲ命スル所ノ治罪法第三百七十五條ノ規則ニ付キテモ亦前段ト同ク論スヘシ(然レモ第九百二十號ニ於テ特赦ノ權利ノ施行ニ關スル訓示ニ依リテ命セラルル職權上ノ中止ヲ觀ル可シ) 又(執行ハ刑ノ言渡ノ裁判書ニ指示シタル地ノ公場中ノ一個ニ於テ之ヲ爲ス可シ)ト命スル刑法第二十六條ノ規則ニ付キテモ亦同シ、若シ被刑者カ或ル申立ヲ爲サントスル時ハ書記ヨリ補助セラル、執行ノ地ノ裁判官一名ノ臨場(治罪法第三百七十七條) 最終ニ治罪法第二百七十八條ニ從ヒ書記ニ於テ作ルヘキ所ノ執行ノ調書ニ付キテモ亦同シ、司法官廳ト市街官廳トノ間ニ於ケル威權ノ限界ニ因リ判決ヲ以テ執行

ノ地ヲ指示スルハ重罪院ニ屬スルヲ、而シテ其指示シタル地ニ於テ公ケノ場所ヲ指示スルハ裁判構成ニ關スル千七百九十年八月十六日二十四日ノ法(第十一章第三條)ニ於テ市街官廳ニ爲シタル所ノ一般ノ權限ニ從ヒ市街官廳ニ屬スルヲ注目スヘシ 若シ重罪院ヲ執行ノ地ヲ指示セサル時ハ此重罪院所在ノ地ニ於テ執行スヘキモノトス

(第二千三百九十四號) 被刑者方對審裁判ニ因リテ刑ノ言渡ヲ受ケタル後チ逃走シテ其刑ノ執行ヲ追ル、場合ニ付キ又重罪欠席ニ因リテ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ付キ、昔時ハ肖像ヲ以テ行フ所ノ肖像ヲ以テ爲ス所ノ執行即チ人ノ想像ノ代表ヲ以テ爲ス所ノ執行アリタツ、此代表ノ執行ハ受刑者ノ氏名、綽號及ヒ其他ヲ指示シ、巧拙ニ拘ハラヌ受刑者ノ肖像ヲ畫キタル額面アリテ執行者カ公衆ノ面前ニ於テ之ヲ捧ノ上ニ懸ケテ以テ其局ヲ結ヒタリ、
シユースカ吾人ニ示シタル所ノ費用表ニ據レハ千七百七十一年オルレアンニ於テ用ヰタル賃金ハ左ノ如クナリシ、曰ク(重罪欠席ニ於テ言渡シタル被刑者ヲ額面ノ肖像ヲ以テ公示スル所ノ執行者ニハ「リール」其肖像ヲ畫ク所ノ畫工ニハ「リール」ト、千八百八年ノ治罪法舊第四百七十二條ニ於テモ亦(重罪ヲ犯シタル所ノ區ノ首府タル市街ノ公場ノ一ノ中央ニ立ツル所ノ)棒ハ常ニ存セリ、且ツ刑事裁判ノ執行者モ尙ホ常ニアリタリ、但シ此執行者ハ額面ヲ棒ニ懸ケズシテ、之ニ代フルニ單ニ處罰ノ裁判ノ拔書ヲ棒ニ貼付スルヲ以テス、

其地ノ書記ハ臨場シテ調書ヲ作り以テ此執行ヲ證明セサル可カラズ(一)

(一) 治罪法第二百七十八條ト刑事ノ費用ニ關スル千八百十一年六月十八日ノ布令第五十二條及ヒ第五十三條トヲ對照ス可シ第五十二條ハ書記ノ職務ニ關シテ一層或ル細目ヲ指定シ第五十三條ハ此書記ニ對シテ第一ニ死刑ノ執行ニ付キ第二ニ肖像及ヒ公肆ヲ以テ爲ス所ノ執行ニ付キ附與スヘキ手数料ヲ規定ス但シ此最終ノ二箇ノ執行ハ業ニ己ニ存セス肖像ヲ以テ爲ス所ノ執行ハ、千八百八年ノ治罪法及ヒ千八百十年ノ治罪法ニ據レハ准死(民法第二十六條)公肆ノ理由ヨリシテ且ツ重罪欠席者ニ對シ緊要ナル法律上ノ一効果ヲ有シタリキ、然レトモ准死及ヒ公肆ノ廢止ニ因リ對審處罰ノ場合ニ於テ此要用消滅シタリ、又重罪欠席者ニ對シテハ千八百五十年一月二日ノ法ハ肖像ヲ以テト云ヒタル此ノ執行ニ代フルニ他ノ方式ヲ以テセリ(一)

(二) 治罪法(第四百七十二條) 千八百五十年ノ一月二日ノ法ニ依ル) 刑ヲ言渡ス裁判書ノ拔書ハ其宣告ヨリ八日內ニ檢事長又ハ其代職ノ求メニ依リ刑ヲ言渡サレタル最後ノ住所ノ州ノ新聞紙中ノ一箇ニ之ヲ記入ス可シ
又其拔書ハ右ノ外第一ニ其最後ノ住所ノ入り口ト第二ニ重罪ヲ行ヒタル郡ノ首地タル邑ノ邑廳ノ入り口ト第三ニ重罪裁判所ノ訟廷ノ入り口トニ之ヲ貼附ス可シ

右ニ同シキ拔書ヲ右ト同一ノ期限内ニ重罪欠席者ノ住所ノ簿冊登記稅及ヒ國領財產管理局ノ理事者ニ差送ル可シ

法律上ニテ肖像ニ依レル裁判執行ニ附スル所ノ効力ハ本條ニ定メタル貼附ノ法式ヲ履行シタル旨ヲ證明スル最後ノ調書ノ日附ヨリ以來之ヲ生ス可キモノトス

(第二千三百九十五號) 余ガ速ニ陳開シ了ラント欲スル所ノ悲キ細目ハ右ノ如シ、其簡略ナル及ヒ或ル點ニ於テハ規則上ノ此命令ノ不充分ナルニ由リテ之ヲ觀レハ、立法者自ラ長ク茲ニ止マルヲ避ケタルカ如シ、我カ刑法ハ死刑ノ執行ノ公ケニ爲スヘキヲ要求ス、而シテ慣習ノ進歩スルヤ吾人ハ已ニ此公行ヲ以テ恥辱ト爲シ、且ツ吾人ハ此公行ヨリ生スル所ノ惡結果ニ因リテ己ニ公行ヲ廢スヘキノ時ナルヲ悟了ス、昔時ハ斷頭臺、絞首器、又ハ車裂刑ノ器ハ市街ノ中央、市廳ノ前ニ設ケタリ、人ノ生命ハ白日群衆ノ前ニ於テ久シキ前ヨリ廣告セル豫定ノ時間ニ於テ破壞セラレタリ、而シテ人死刑ノ執行ヲ以テ高尚ノ事業オート、ウーヅルト呼ヒタリ、今日ハ則チ市街ノ盡頭ニ於テ、執行ノ日ヲ秘密ニシ、夜中ニ執行ヲ豫備シ、名義上僅カニ法律ノ請求ヲ満足シ得ベキ夜明ケニ之ヲ公行スルニ至レリ、公行ハ又示例ノ爲メニ規定シタリ、然レトモ今日ニ在リテハ安全ナル懲罰ノ示例ハ辯論處罰執行其物ニ附着スル所ノ智識上ノ公行ニ因リテ生シ且ツ遠地ニ傳播ス、而シテ惡結果ヲ

生スヘキ示例ハ有形的ノ縱觀ニ因リテ生ス

公行ハ又担保ノ名義ヲ以テ規定シタリ、然レトモ公ケノ縱觀ナク、此担保ヲ組織スル所ノ最モ眞面目ニシテ最モ確實ナル方法アリ、我輩ハ太ダ喜ビテ英吉利及ヒ日耳曼ニ於テ採用シタル所ニシテ(第千三百六十四號參觀)尙ホ歐羅巴ニ布及セントスル所ノ亞米利加合衆國中ノ或ル國ヨリ來リタル執行ノ方法ヲ擇採ス、此方法ハ獄舎ノ内部ニ於テ裁判官廳、十二名ノ證人タル國人、醫者二名、僧侶一名立會ノ上報死ノ鐘ノ音ト同時ニ執行スル所ノ者ナリ、科學カ指示スル所ノ新說ノ行ハル、ニ至ルマテ、又論理ニ基キタル處罰方法ニシテ社會ト裁判トニ關シテ満足ナル安心ヲ與ヘ此不祥ニシテ極端的ナル死刑ヲ過去ノ歴史ニ觀ルノ日ニ至ルマテハ我輩ハ右ノ執行方法ヲバ喜ビテ採用セント欲スルヤ太ダ切ナリ

此冊ニ於テ説明シタル刑法及ヒ治罪法ノ諸條
刑法

第六條	一五八九號	一五九〇號	一六二九號
第七條		一五九〇號	一六二九號
第八條		一五九〇號	一六二九號
第九條		一五九〇號	一六二九號
第十條		一五九〇號	一六二九號
第十一條	至一五七四號乃	一五九三號	一六七二號
第十二條	至一五八一號乃	一五九三號	一五九四號
第十三條	至一三五六號乃	一五九三號	一五二二號
第十四條	至一三六八號乃	一五九三號	一五四六號
第十五條	至一三八一號乃	一五二五號	一五二二號
第十六條	至一五二五號乃	一五二五號	一六六八號
第十七條	一三三二號	一五二三號	一五二四號
第十八條		一五五二號	一五五三號

- 第十九條 一六一九號
- 第二十條 一五三〇號
- 第二十一條 一五三一號乃
至一五三四號
- 第二十二條 一三八七號
一五四六號
- 第二十三條、第二十四條 一六二二號乃
至一六二四號
- 第二十五條 二三九二號
- 第二十六條 二三九三號
- 第二十七條 一七七二號
- 第二十八條 一五五四號
一六〇五號
- 第二十九條、第三十條、第三十一條 一五五五號乃
至一五五七號
- 第三十二條、第三十三條 一五五一號
- 第三十四條、第三十五條 一五五四號
一六〇六號
- 第三十六條 一五四七號乃
至一五五〇號
- 第四十條、第四十一條 一五三五號乃
至一五三九號
- 第四十二條、第四十三條 一五五八號

- 第四十四條 一五六二號乃
至一五六八號
- 第四十五條 一五六九號
一五七一號

- 第四十七條、第四十八條、第四十九條、第五十條 一五六七號
一五七〇號
- 第五十一條 一六〇七號
一六二七號

- 第五十二條、第五十三條 一二三三八號第三
- 第五十四條 一五八六號
一五八七號
- 第五十五條 一五八五號

- 第五十七條、第五十八條 一五八三號
一五八四號
- 第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二號 一二三三八號第六
- 第六十六條、第六十七條、第六十八條、第六十九條 一六六六號第二

- 第七十條、第七十一條、七十二條 一五四一號乃
至一五四四號
- 第七十三條 一六六九號
一六七一號

- 第七十四條 一二二二號
- 第七十五條 一六八二號
一七六四號

- 第七十六條 一二三二號
- 第七十七條 一六五七號
- 第七十八條 一九二二號第二

第三百四十條

二一二六號

第三百五十一條

一七〇〇號
至一七一四號

第三百七十三條、第三百七十四條

二二三三號

第三百七十八條

二三〇〇號

第四百卅三條

一七三八號

第四百六十三條、第四百八十三條

一六五八號
一六六六號
第三

治罪法

第一條

一六七二號
至一六七四號

第二條

一八三八號
至一八五〇號

第三條

一七六八號

二一三〇號
至二一四三號

第四條

一八八〇號
至一八八六號

第五條

一六九二號

一七三九號

第六條

二一五一號

二一六〇號
第二

第七條

一六九二號

二一四六號
至二一四八號

第八條

一九三九號

一九四一號
二一七一號

第九條

二〇一三號

二〇一八號

第十條

二〇一五號

二二四九號

第二十二條

二〇二六號

二〇二九號

第二十三條

二〇二六號

二一五〇號

第二十六條

二〇二九號

二〇二九號

第二十七條

二〇二六號

二〇二九號

二〇三二號

第二十九條、第三十條

二〇二九號

二一八四號

第三十一條

二一八三號

二一八五號

第三十二條乃至第四十五條

二一九四號

二一九五號

二二〇〇號

二二四五號

第四十一條、第四十五條、第四十六條

二二四五號

二二四七號

第四十七條

二〇一七號

二二九一號

第四十八條乃至第五十四條

二〇一七號

二二四四號

第五十二條

二〇〇五號

二二三九號

第五十五條乃至第五十八條

二〇〇五號

二〇〇六號

第五十九條、第六十條
 第六十一條、第六十二條
 第六十三條乃至第六十五條、第七十條
 第六十六條乃至第六十八條
 第六十九條
 第七十一條乃至第八十六條
 第八十七條乃至第八十九條
 第九十條
 第九十一條乃至第九十三條
 第九十四條乃至第九十八條
 第九十九條、第一百條
 第一百〇四條
 第一百〇六條
 第一百十三條
 第一百十四條

二二四四號
 二一九五號
 二一八七號
 二一八八號
 至二一九〇號
 二一五一號
 二一九六號
 二二三七號
 至二二四〇號
 二二三九號
 二二二一號
 二二〇三號
 至二二〇五號
 二二〇九號
 二二一〇號
 二二〇四號
 二二〇八號
 二二四八號
 二二三五號
 二二三二八號

第一百十五條
 第一百十六條
 第一百二十條
 第一百二十二條、第一百二十三條
 第一百二十五條
 第一百二十六條
 第一百二十七條乃至第三百三十四條
 第一百二十九條
 第一百三十二條
 第一百三十五條
 第一百四十四條
 第一百四十五條
 第一百四十六條
 第一百四十七條、第一百五十二條
 第一百五十一條

二二三〇號
 二二三六號
 二二三八號
 二二三九號
 二二三〇號
 二二五九號
 二二六五號
 二二六六號
 二二八一號
 二三五五號
 二〇二八號
 二二六五號
 二二六七號
 二二七二號
 二三〇一號
 至二三四一號

九四四

第二百五十三條
 第二百五十四條
 第二百五十五條
 第二百五十七條、第二百五十八條
 第二百六十二條
 第二百六十三條、第二百六十四條
 第二百六十九條、第七十條
 第二百七十二條乃至第七十四條
 第二百七十三條
 第二百七十六條
 第二百七十七條
 第二百八十二條
 第二百八十三條、第八十四條
 第二百八十五條
 第二百八十七條、第八十八條

二二二〇八號
 二二三〇七號
 二二三〇二號
 二三三一號
 二三四一號
 二三三八號第四
 二三一號
 二〇四三號
 二三四七號乃至
 二三五〇號第三
 二三五四號
 二三五八號第三
 二三七〇號
 二〇四二號
 二二六六號
 二二六七號
 二二七三號
 二二三三九號
 二二三五五號
 二二三八七號
 二三四一號

第一百八十九條

第一百九十條

第一百九十二條

第一百九十四條

第一百九十五條、第九十六條

第一百九十七條

第一百九十九條

第二百〇一條

第二百〇二條

第二百〇三條乃至第二百〇五條

第二百〇六條

第二百〇二條乃至第二百〇六條

第二百〇五條

第二百〇六條

第二百〇七條

二二二〇五號

二二三〇八號

二二一六號

二二三三八號第四

二二二一號

二〇四八號

二三四八號

一九六五號

二三四八號

二三四九號

二三五〇號第二

二三五五號

二三五五號

二三五二號

二二七〇號

二二七四號

九四五

九四六

第二百十八條 二〇〇八號
 第二百十九條乃至第二百三十九條 二二六〇號 二二六二號
 第二百三十五條 二〇一〇號
 第二百四十一條、第二百四十二條 二二八二號
 第二百四十三條乃至第二百四十六條乃至第二百四十八條 二二六一號
 第二百五十二條乃至第二百五十六條 一九七六號
 一九八一號
 第二百五十一條乃至第二百五十八條乃至第二百六十條 一九七一號
 一九七四號
 一九七九號
 二百六十三條、二百六十四條 一九七六號
 二百六十六條乃至二百七十條 二〇七五號
 二〇九九號
 二百七十四條 二〇三二號
 二百七十九條、第二百八十二條 二〇一八號
 二百九十一條乃至二百九十七條 二二八二號 二二八三號
 二百九十六條乃至二百九十九條 二二九二號
 二百九十九號
 二百〇一號 二二九三號
 二二九四號
 二二九六號
 二二九七號
 二二九九號
 二三〇〇號
 二三〇一號
 二三〇二號
 二三〇三號
 二三〇四號
 二三〇五號
 二三〇六號
 二三〇七號
 二三〇八號
 二三〇九號
 二三一〇號
 二三一一號
 二三一二號
 二三一三號
 二三一四號
 二三一五號
 二三一六號
 二三一七號
 二三一八號
 二三一九號
 二三二〇號
 二三二一號
 二三二二號
 二三二三號
 二三二四號
 二三二五號
 二三二六號
 二三二七號
 二三二八號
 二三二九號
 二三三〇號
 二三三一號
 二三三二號
 二三三三號
 二三三四號
 二三三五號
 二三三六號
 二三三七號
 二三三八號
 二三三九號
 二三四〇號
 二三四一號
 二三四二號
 二三四三號
 二三四四號
 二三四五號
 二三四六號
 二三四七號
 二三四八號
 二三四九號
 二三五〇號
 二三五一號
 二三五二號
 二三五三號
 二三五四號
 二三五五號
 二三五六號
 二三五七號
 二三五八號
 二三五九號
 二三六〇號
 二三六一號
 二三六二號
 二三六三號
 二三六四號
 二三六五號
 二三六六號
 二三六七號
 二三六八號
 二三六九號
 二三七〇號
 二三七一號
 二三七二號
 二三七三號
 二三七四號
 二三七五號
 二三七六號
 二三七七號
 二三七八號
 二三七九號
 二三八〇號
 二三八一號
 二三八二號
 二三八三號
 二三八四號
 二三八五號
 二三八六號
 二三八七號
 二三八八號
 二三八九號
 二三九〇號
 二三九一號
 二三九二號
 二三九三號
 二三九四號
 二三九五號
 二三九六號
 二三九七號
 二三九八號
 二三九九號
 二四〇〇號
 二四〇一號
 二四〇二號
 二四〇三號
 二四〇四號
 二四〇五號
 二四〇六號
 二四〇七號
 二四〇八號
 二四〇九號
 二四一〇號
 二四一一號
 二四一二號
 二四一三號
 二四一四號
 二四一五號
 二四一六號
 二四一七號
 二四一八號
 二四一九號
 二四二〇號
 二四二一號
 二四二二號
 二四二三號
 二四二四號
 二四二五號
 二四二六號
 二四二七號
 二四二八號
 二四二九號
 二四三〇號
 二四三一號
 二四三二號
 二四三三號
 二四三四號
 二四三五號
 二四三六號
 二四三七號
 二四三八號
 二四三九號
 二四四〇號
 二四四一號
 二四四二號
 二四四三號
 二四四四號
 二四四五號
 二四四六號
 二四四七號
 二四四八號
 二四四九號
 二四五〇號
 二四五〇號

第三百〇三條、第三百〇四條 二〇一九號
 三百〇二條乃至三百〇五條 二二九三號
 第三百十條 二二七七號
 第三百一十一條 二二〇八號
 三百一十二條乃至三百一十五條 二二〇八號
 三百一十六條 二二〇八號
 三百一十七條 二二〇八號
 三百一十九條 二二〇八號
 三百二十一條 二二〇八號
 三百二十二條、第三百二十三條 二二〇八號
 三百二十四條 二二〇八號
 三百二十五條 二二〇八號
 三百二十六條 二二〇八號
 三百二十七條 二二〇八號
 三百二十九條 二二〇八號
 九四七

第三百三十條

九四八

二二〇三號

第三百三十一條乃至第三百五十四條

二二〇三號第二

第三百三十二條、第三百三十三條

二二〇六號第三

第三百三十四條、第三百三十五條

二二九二號

二二〇八號第二

第三百三十六條

二二〇八號第二

第三百三十七條

二二一六號

第三百三十八條乃至第三百四十條

二二一七號

第三百四十一條

二二二四號

二二一九號

第三百四十二條、第三百四十三條

二二二四號

二二二一號

第三百四十四條

二二二二號

第三百四十五條、第三百四十六條

二二二三號

第三百四十七條

二二三三號

第三百四十八條、第三百四十九條

二二三三號

第三百五十二條

二二三二號

二二三二八號

第三百五十三條

二二〇八號第二

第三百五十五條

二二九九號

第三百五十七條

二二三二九號

第三百五十八條、第三百五十九條乃至第三百六十六條

二二三三號

二二三三二號

二二三三八號

第三及七第四

第三百六十條

一七七八號及七次號

二三三五號

第三百六十二條、第三百六十三條

二三三七號

第三百六十四條

二三三〇號

第三百六十六條

二三三二號

第三百六十九條、第三百七十條

二三三三號

二三三八號

第三百七十三條

二三三〇號

二三三一號

第三百七十五條乃至第三百七十八條

二三六五號

第三百七十九條

二三九二號

一八二六號

第三百八十九條乃至第三百九十一條

一九九五號

第三百九十二條乃至第四百〇六條

一九九六號

第四百〇七條乃至第四百十四條

二〇〇三號

二二七〇號

九四九

第四百〇九條

第四百十九條乃至第四百二十一條

第四百二十二條乃至第四百三十條

第四百四十一條

第四百四十二條

第四百四十三條乃至第四百四十七條

第四百六十八條、第四百六十九條

第四百七十條

第四百七十一條

第四百七十二條

第四百七十五條

第四百七十六條乃至第四百七十八條

第五百十條乃至第五百十七條

第五百二十六條乃至第五百四十一條

第五百四十二條乃至第五百六十二條

九五〇

二二七七號

二二七三號

二二七四號

二二七八號

二二七七號

二二七九號乃
至二二八九號

二二三三號

二二三三號

二二三三九號第三
二二三四三號

二二三九四號

二二三三九號第二

二二三三八號第四
二二三四三號

二二〇四號

二二五七號

二二六〇號

第六百〇四條

第六百十三條、第六百十八條

第六百十九條

第六百二十條乃至第六百三十三條

第六百三十四條

第六百三十五條、第六百三十六條乃至第六百三十九條

第六百三十七條、第六百三十八條

第六百四十條

第六百四十一條

第六百四十三條

一五三三號

二二二一號

一九二三號乃
至一九二五號

一九二六號乃
至一九二八號

一九二九號乃
至一九三三號

一九八二號乃
至一九八一號

一八六九號

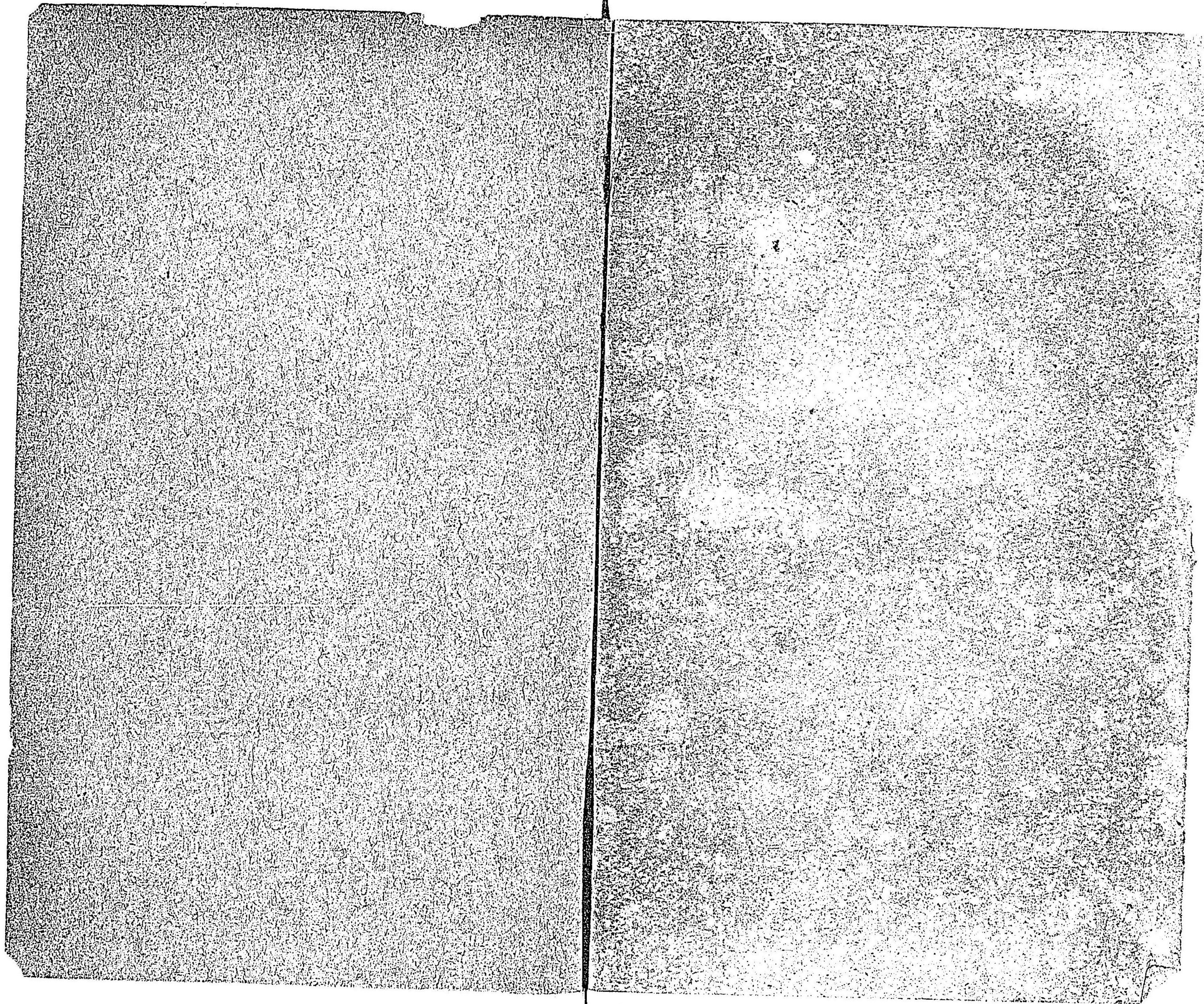
一九一一號第二

一八五五號
一九一一號

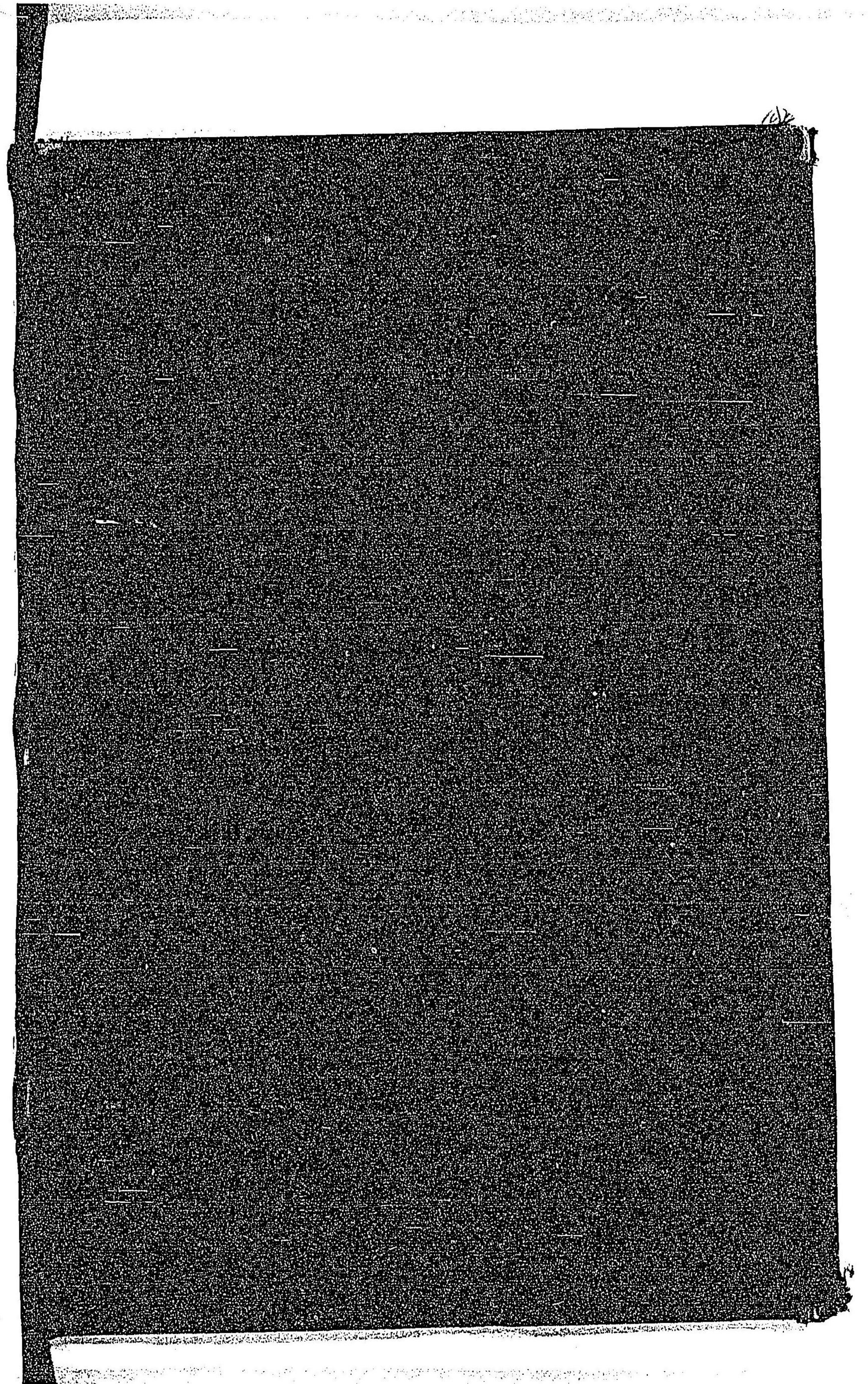
明治二十年十二月二十日版權屆
明治廿三年三月三十一日出 版

司 法 省

京橋區八官町十九番地忠愛社印行



21
60



21
60

